たんば

関西丹波市郷友会会報

第５号　2020.11.1

三協運輸　株式会社

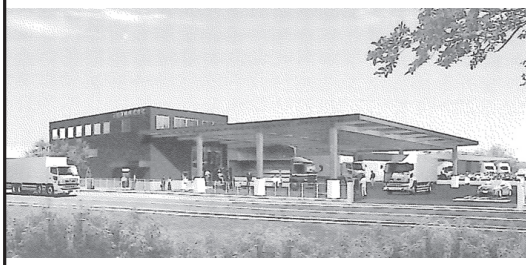
本店住所　埼玉県桶川市坂田字向 990-1

コロナ禍に巻き込まれた今年の日本

対策に余念の無い毎日と存じます

衷心より御見舞申し上げます

令和新時代を迎えて「安全・安心・朗らか」を旗印に ご期待に応えて参ります。



本店　新社屋（敷地面積4,000坪、建物面積2,000坪）　平成23年10月1日完成

関東発ー関西行の風景
　出発直前の大型トラック部隊

毎日200台の車輌群が東海道を
中心に走っております。

〔**主要取引先**〕順不同

三井化学㈱　味の素㈱　ダイキン工業㈱　アサヒビール㈱　三菱商事㈱
キリンビール㈱　沖電気工業㈱　古河電工㈱　ハウス食品㈱　帝人㈱
新神戸電機㈱　㈱東芝　キューピー㈱　㈱ブリヂストン　江崎グリコ㈱

三協運輸　株式会社

代表取締役会長　岸本 勲（氷上町出身）

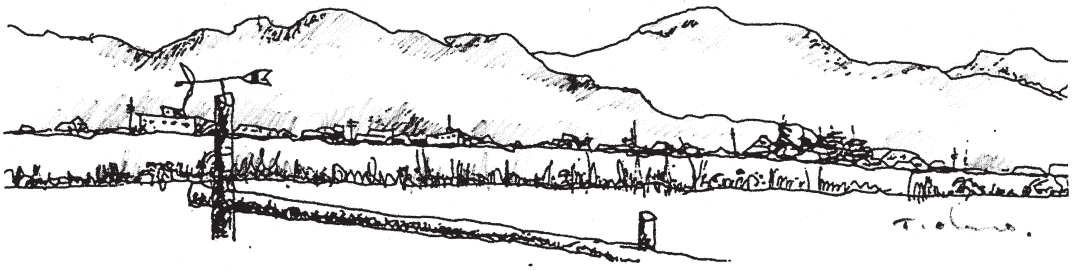
本　　店　　埼玉県桶川市坂田字向990-1　　TEL.048（728）9380
E-mail:sankyounyu_saitama@h6.dion.ne.jp
本店配車センター　　埼玉県桶川市坂田字向990-1　　TEL.048（729）0466
大　阪　支　店　　大阪府大東市新田中町3-3　　TEL.072（806）2821

物流倉庫所在地　東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪

たんば

関西丹波市郷友会会報

第５号



目　次

創設120周年を祝して　有田秀雄　3
120周年記念し表彰　第109回総会　4
丹波すくすく大賞選考経過　9
受賞団体のこれから　11
松茸に魅かれて丹波へ　三浦豪太　20
丹後と分かれた丹波　田辺眞人　23
南アフリカから丹波へ　ハウザー　ノエル　25
農業で世界とつながる　橋本慎司　28
143年前のコレラ文書　山内順子　31
新生活様式の継続を　浅原慶一　34
丹波を考古楽散歩〈上〉　藤田淳　37
私の丹波戦国史　芦田敬一　41
父と私の悪右衛門直正像　村上正樹　44
愛犬ネネと黒井城山を散歩　臼井隆夫　47
先人の文化遺産、後世へ　上田脩　50
印象派の芸術家との出会い　中川真貴　53
「地域通貨」という選択　赤井俊子　55
造船所養成工学校の精鋭たち　赤松暉久　58
犬童球渓を訪ねて人吉へ　桑村文子　65
忘れ得ぬ恩師の尊い教え　足立敏晤　68
金融機関から病院へ　上田雅春　71
まちづくり一筋に　芦田英機　74
平成の医療崩壊乗り切る　酒井國安　78
色んな国のトイレ事情　山口直樹　81
兵主神社「夏越の大祓」　足立智和　85
編集後記　87
広告目次　89

表紙　兵主神社「夏越の大祓」
題　字（表紙・中扉）　荻野丹雪
写　真（表　紙）　足立智和
カット（中扉ほか）　奥野隆之

創設120周年を祝して

関西丹波市郷友会　会長　**有田　秀雄**

実りの秋も過ぎ、朝夕の寒さが日々増す、2019年（令和元年）12月8日、総会が、丹波市ゆめタウン・ポップアップホールで開催されました。最初に本会のルーツの紹介です。1899年（明治32年）10月、阪鶴鉄道（現在のJR福知山線）の開通などに尽くした田艇吉翁他数名が発起人となって創立しました大阪氷上郷友会が前身です。それから何と120年。「継続は力なり」と申しますが、一世紀を超える継続は凄いことです。これも諸先輩方が丹波市に在住する青少年の健全なる育成を願う熱意と愛情あってのものです。その為にも会員相互の親睦が重要です。

さて、100周年は大阪梅田、110周年は兵庫県宝塚、そして、120周年は丹波市と地元で開催することで利便性、経済性と知名度を高め、より身近な会であって欲しいとの思いでした。「夢なき者は理想なし」と申します。リチュームイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんは、小学校3年生の時、新任の女性の先生から化学の面白さを教わったと聞きます。4年生の時、マイケル・ファラデーの「ローソクの科学」をすすめられ、夢中で何度も読んだそうですと話した瞬間、会場にどよめきが起こりました。やはり、皆さんの関心の深さに驚きました。

花がたくましく美しく咲くためには太陽の力と、大地からの栄養を運んでくれる「地中の根」の大切さを知ることです。本会の役員と会員は真に「地中の根」であります。「徳孤ならず」と言いますが、「地中の根」には、根を張り巡らし、もう一歩先へと向かうパワーがあります。本会の発展には、大いなる夢と力強いビジョンと実行力が必要です。

2020年の総会は新型コロナウイルス禍のため、残念ながら中止を余儀なくされましたが、これからも目標に向かってモチベーションをアップし、感謝の気持ちを忘れず「日進月歩」に努めます。今後共、皆様のご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

すくすく大賞に新丹波猿楽座

第109回 関西丹波市郷友会総会

120周年記念し表彰

ポップアップホールいっぱいに

令和元年12月8日の総会は、1年以上をかけて準備してきた関西丹波市郷友会創立120周年事業のたんばすくすく大賞の最終選考をメインイベントとして開かれました。

ゆめタウンのポップアップホールは、会員諸氏、本日の発表や表彰の人々そして、その応援団の人々、様々な人々が参加され、急遽、見学席が作られました。

最初に有田秀雄会長の開会の挨拶です。関西丹波市郷友会は、明治32年（1899年）、大阪氷上郷友会として創設され今年で120年になります。1世紀以上の長きに渡り、郷土の少年、少女を支援してきました。その長い間の先輩諸氏の努力に思いをはせ、今年のノーベル賞の日本人、吉野彰さんのように、夢をもつことの重要性を強調されました。

次に、丹波市長の谷口進一様のご挨拶です。今回120周年記念号として本日配布された会報「たんば」を、一気に読

み進んだとのべられました。その中の2題について紹介されまました。一つは阪大名誉教授の柳田敏雄先生の話で、ノーベル賞の期待を述べられました。もうひとつは、本会と深い係わりのある、阪鶴鉄道のことを話されました。阪鶴鉄道は認可から開通まで4年という短期間であり、その早さに見習いたい。そして、本市での福知山線複線化の取り組みにもふれられました。

会計と運営報告のあと、すくすく大賞のプレゼンテーションの開始です。最初は「丹波と金会」です。言葉の不自由な方とも将棋を行うために、手話を交えて話されました。「氷ノ川太鼓」では、太鼓により心身ともに鍛えられた。「東小学校鼓笛隊」は今年で52年にもなり、同地区の人々は、鼓笛隊の卒業生です。地区に愛されている鼓笛隊をこれからも続けていかれる決意と願いを述べられました。「新丹波猿楽座」では、チータンと丹波竜の公演を、軽快な笛と鼓の音にのせたＤＶＤで発表され、丹波市における新たな文化の創造が期待されました。

「丹波ベリーエース」は全国的に珍しい、小学生の女子野球チームです。発表のＤＶＤは、いきものがかりの歌声に乗せて取り組みの素晴らしさをみせていただきました。最後は、「丹波沼貫よさこい一心貫」です。よさこいの魅力とそして、よさこいを通じて、視野を広め日本の文化の大切さを述べられました。

プレゼンテーションが終了後、投票用紙が集められて、丹波少年少女合唱団によるクリスマスソングが披露されました。最初に、入賞の表彰が行われました。次に、以下の如く発表され授与式が行われました。丹波すくすく大賞には新丹波猿楽座、輝こう丹波っ子大賞2団体には、東小学校鼓笛隊と丹波ベリエース、そして関西丹波市郷友会会長特別賞3団は氷ノ川太鼓「鼓輝」、丹波と金会、丹波沼貫よさこい一心貫です。そのあと、これら今回の受賞団体、個人や関係者の記念撮影、そして全員の記念撮影が行われました。

午後の懇親会は、丹波市市議会議長の林時彦様の乾杯の挨拶で始まりました。アトラクションは、三田に本拠があり、最近丹波市でも多くの公演のある風舞流曲技団です。素晴らしいバチさばきと迫力のある音を堪能しました。

最後に丹波市の歌の合唱を行い、万歳三唱で閉幕しました。

今回の、丹波すくすく大賞の応募に際しては、多数の応募があり、丹波市の各方面での熱心なボランティアの方々と、それに一生懸命に取り組んでいる少年少女の皆様が沢山おられることに感銘を覚えました。

（文　常任理事　芦田敬一）

6、7ページに会場風景

舞台に勢ぞろいした受賞者

楽しいね

撮影　常任理事　野村忠利

サンタの帽子で少年少女合唱団

表彰（新丹波猿楽座）

歓談する会員ら

表彰（東小学校鼓笛隊）

表彰（ベリーエース）

一般会計　収支報告書

2019年１月１日から2019年12月31日まで

関西丹波市郷友会

支　　出		収　　入	
第109回郷友会総会費用		総会当日会費	
宴会費用（ポップアップホール）	462,780	一般会員出席分（@7,000×45名）	315,000
アトラクション御礼	30,000	同伴出席分・大人2名	14,000
諸経費	42,441	同伴出席分・子供1名	3,500
		賛助金会計より補填	1,000,000
小計	535,221	小計	1,332,500
会報たんば第4号(丹波新聞社)	490,600	広告代	495,000
	490,600		495,000
役員会費用	110,224	年会費	585,000
通信費（会報・総会案内状他）	85,617	預金利息	8
広告代（丹波新聞社、FM 805たんば）	369,936		
諸経費	148,162		
振込手数料	17,982		
小　　計	731,921	小　　計	585,008
合　　計	1,757,742	合　　計	2,412,508
次回繰越	1,178,513	前回繰越	523,747
総 合 計	2,936,255	総 合 計	2,936,255

丹波すくすく大賞選考経過

本会設立120周年を記念して同賞（賞金総額150万円＝予定）を企画し、2018年（平成30年）3月、丹波市内の小中高校生、園児を対象に募集を始めた。この結果、本誌第4号で報告の通り、個人の部4名、団体の部25団体からの応募があった。

この中から、岡田邦夫（篠山産業高校元校長＝委員長）、大西伸弘（柏原高校前校長）、酒井礼子（東小学校元校長）、細見滋樹（植野記念美術館元館長）の各氏と本会理事の足立敏、芦田敬一による選考委員会で、団体の部は大賞候補の上位6団体と入賞5団体を選定、個人の部は4名全員を入賞とすることとし、役員会で最終決定した。

上位6団体については、総会出欠有無の返信時に、まず会員による事前投票をおこなった。そして、2019年（令和元年）の第109回本会総会で各団体の代表によるプレゼンテーションを行い、出席会員の投票と事前投票の集計により、「丹波すくすく大賞」（賞金30万円）1団体、「輝こう丹波っ子大賞」（同各20万円）2団体、「本会会長特別賞」（賞金各10万円）3団体を決定した。賞金総額は入賞の5団体各5万円・4個人各5万円と合わせて145万円となった。

各賞の受賞者は次の通り。

▽丹波すくすく大賞

新丹波猿楽座（氷上町、上田宏美代表）＝「丹波猿楽」の再興を目指し新たな台本を書き起こし、地元の子供たちを中心に歴史に裏打ちされた文化を発信する。

▽輝こう丹波っ子大賞

東小学校鼓笛隊（氷上町、浅田尚克代表）＝6年生児童全員が必ず会員となる学習活動で、地域の行事等に出演。1968年の設立以来、歴代で3千人が参加している。

丹波ベリーエース（青垣町、大槻克彦代表）＝市内唯一の小学生女子野球チーム。市内の様々な小学校から部員を集め、廃校となった旧遠坂小学校のグラウンドを整備して練習に使用。

▽本会会長特別賞

甲賀流氷ノ川太鼓振興会・鼓輝（氷上町、山根博之代表）＝市内の小学3～6年生で構成する唯一の子供和太鼓チームとして自主公演や夏祭りなどの地域イベントに参加。

丹波沼貫よさこいチーム一心貫（氷上町、梅垣耕平代表）＝スポーツクラブ21氷上南よさこい教室の参加メンバーで設立。小中校生を中心によさこい演舞や地域のイベントに参加。

丹波と金会（青垣町、北川千速代表）＝丹波市と福知山市に教室を持ち、地域、年齢を超えた人の交流、青少年の健全育成を目指す。市内でこども将棋大会の開催を計画。

▽**入賞**

（団体）

ソフトテニススクール・ステップツー

丹波ジュニア卓球クラブ

スポーツクラブ21氷上東

山南中学校福祉委員会

柏原高校インターアクト部

（個人＝敬称略）

吉竹悠乃（上久下小）、植木みゆか（柏原高）、友井さちか（同）、清水咲希（氷上中）

夢を持ってのびやかに

すくすく大賞　受賞団体のこれから

本会設立120周年記念事業で表彰された団体はこれからどのように活動していくのか。「丹波すくすく大賞」の新丹波猿楽座、「輝こう丹波っ子大賞」の東小学校鼓笛隊とベリーエース、それに「本会会長特別賞」（3団体）の中から甲賀流氷ノ川太鼓振興会「鼓輝」の合わせて4団体に寄稿をお願いした。

新丹波猿楽座

応募の25団体の中で、私ども「新丹波猿楽座」が大賞の栄誉を賜りましたこと誠に有難く、身に余る光栄でございます。座員一同、驚きと共に心より感謝を申し上げます。いただいた賞金は子供達の衣装や舞台道具に使わせていただきます。また立派なトロフィーも参加児童にとって大きな誇りとなっております。皆様の期待に応えられるよう、今後より一層活動に邁進していきたい、との思いを胸に迎えた新年でありましたが、残念ながら新型コロナの影響で、昨年末この賞をいただいた時には思いもよらない2020年の幕開けになってしまいました。

現在、我々新丹波猿楽座の新規座員募集は中止、活動も休止とせざるを得ない状況ですが、再開後の活動を通じて子供達に伝えたいこと、そもそも能楽とは何なのかという本質について、あらためて考える機会にしたいと思います

申楽延年（さるがくえんねん）のことわざ、その源を尋ぬる

に、あるは仏在所（現インド）より起り、あるは神代より伝ふ　～中略～　聖徳太子、秦河勝におほせて、天下安全、諸人（しょにん）快楽（けらく）のため、六十六番の遊宴をなして、申楽と号す。

（世阿弥著「風姿花伝」序より抜粋）

コロナ以前から自分自身や仕事である能楽の行く末にふと不安を感じたりした時に、私はいつもこの一文によって力を得てきました。全ての能楽師にとっての師であり、バックボーンともいえる能楽大成者、世阿弥の申楽（猿楽）観がこの行間にあります。

申楽とは現在の能楽、またはその元芸のこと。延年とは寿命延長との意であり、そのような効能を持つ申楽は単なる演劇ではなく神に通じる力、まさしく神通力を伴った芸能であるとの意味が込められています。

その起源について、まず釈迦の説法を邪魔しようと邪教徒を扇動して大騒ぎをする悪弟子提婆達多の嫌がらせを退けるために行った芸能を上げ、次に天照大御神が弟須佐之男命の非道に怒り、天の岩戸に隠れたことによって世界が闇に覆われ、様々な禍が起こったという有名な神話の中で、再び世界に光を取り戻す最初のきっかけとなる仕事をした芸能の神、天鈿女命（アメノウズメノミコト）、その歌や舞が神楽の始めであり申楽の起源となったとも言い、また聖徳太子が世に流行る疫病や飢饉などの悪災を払うため、渡来人秦河勝に作らせた芸能が日本における申楽の始めであるとも語っています。

もはや全て伝説上のお話しですが、諸説いずれにせよ、何とも心強いお話です。何より全ての逸話が申楽は世にはびこる悪や禍を退ける手段として生まれたと示唆しているのも、現在我々が直面している危機にたいして意義深く迫ってきます。

また「新丹波猿楽座」では猿の字を使っていますが、風姿花伝には神楽の「神」という字の偏を取り除け「申」とし、干支の読みで申楽となったと書かれています。神通の力を帯びながら楽しみを申す芸能。ここにこそ目に見えない何かを敬ったり畏れたり、また作法や礼儀が大切になる能楽の本質があるのだということを子供達に伝えられるようなお稽古や、台本作成を心掛けて参ります。

今後も「新丹波猿楽座」の活動はここ丹波を中心に展開していきます。この地域はそもそも申楽隆盛の地として最も歴史が古いといいます。これまた何とも心強い土地に住まわせていただいたものだと感謝しております。この地より地元の子供達、能楽愛好者、そして我々能楽師がその思いと力を一つにして発信していく「新丹波猿楽座」の目標は、神代より一度も絶えることなく様々な危機を乗り越えながら脈々と受け継がれてきた芸能

の力を示し、天下泰平・国土安穏・五穀成就を心に祈念し、全ての人々の寿福増長を願う気持ちを持って、創作し表現していくことです。

今は活動再開に向けて新作台本執筆に力を注いでおります。まず子供座員による新作能「アマビエ」を創作致しました。可愛いアマビエ達や地謡・お囃子を子供達が勤めます。内容は、ある大臣の夢の中に現れたアマビエが人々に疫病退散・無病長寿の御利益をもたらす術を授けるというものです。

そしてプロの能楽師による新作能「八子大夫（やつこだゆう）」も同時に執筆中です。こちらもストーリーはほぼ私の創作ですが、山南町和田に居を構えていたとされる丹波申楽の名手「八子大夫」が技芸向上祈願のため青垣の佐地神社に舞を奉納した際に、天鈿女命の来現を得て神代の舞を授けられるという、まさしく能楽のルーツに迫ることによって世を寿ぐお話です。

上演は少し先になってしまうかもしれませんが、安心してその時を迎えられる日が来ることを心中に祈念しながら筆を進めております。皆々様におかれましてはどうぞお体をご自愛いただき、今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

風も静かに引き汐の　風も静かに引き汐の　過ぎて治まる御世なれや

（新作能「アマビエ」より抜粋）

神に祈りの舞の袖　神に祈りの舞の袖
萬民楽しむ世となさん

（新作能「八子大夫」より抜粋）

新丹波猿楽座総監督　上田敦史

東小学校鼓笛隊

丹波市立東小学校鼓笛隊は、1968（昭和43）年に設立されました。第53代鼓笛隊の人数は54名、歴代を数えると約3000人以上になります。本鼓笛隊は小学生バンドとしては大変珍しい形態で、6年生児童全員が必ず会員になる「教育課程内での学習活動」として取り組んでいます。そのため、①鼓笛学習を通して、互いに励まし合い高め合いながら練習することで、仲間同士でつながり、深まり、協力する態度を育てる②めあてに向かって、毎日コツコツ練習に取り組み達成感を味わわせる③鼓笛を通して、保護者や地域の人たちに支えられてきたことに感謝の気持ちを育てたり、伝統を受け継ぐ気持ちを育てる――という、個や集団、感謝の心を育てることを主な目的にしています。そのため、地域や学校の行事で演奏することはあっても、コンクールに出ることはなく、1人ひとりの役割や音色を認め合い、共に学ぶ取り組みを続けています。

練習時間は、毎日の昼休み20分間と、1週間に1時間の総合的な学習の時間、夏休み中に設定する数日の練習日です。

遊びたい盛りの小学6年生ですが、毎日の昼休み練習には大変意欲的で、先を競って音楽室に集合し自主的に練習を始めたり、その時々に学習している曲を階名で口ずさんだりしています。華やかなユニフォームに身を包み、キラキラ輝き迫力ある音を紡ぎだす歴代鼓笛隊を、低学年の頃からあこがれを持って見つめてきた子どもたちだからこそと感じています。歴代の子どもたちの姿が、それぞれの下級生にあこがれられる、立派な姿だったのでしょう。

地域や学校行事として、7月には水分れまつり、8月には生郷音楽祭、9月から12月には運動会、音楽会、市の連合音楽会、そしてファイナルコンサート、2月には引継ぎ会等、年間約7回の演奏発表が主な活動内容です。特に生郷音楽祭は、発足当初から本校職員も会議に出席し、準備期間も含め運営に関わってきました。東小学校区には鼓笛隊OBの保護者や地域住民も多く、7月の水分れまつりでの演奏からファイナルコンサートへと、次第に成長していく子どもたちの姿を毎回楽しみにしていただいています。

3年前には鼓笛隊発足50年の記念の年を迎えましたが、ひかみ東商工クラブのみなさまに写真1000枚を使った巨大パネルや鼓笛隊初代から50代までの写真やトピックス、歴代のユニフォーム展示などをしていただき、記念の切手シートの販売もありました。

訪れた観覧者からは、「自分は○代目のこの楽器だった。」「自分たちはこんな曲を演奏した。」と懐かしい思い出話に花を咲かせておられる様子が見られました。その姿を見て子どもたちも、「年齢が離れていても、同じ鼓笛隊として自分たちとつながっている。東小鼓笛隊は、形は変わってきても地域の宝物であり、自分たちにとって懐かしいふるさとだと思う。」と鼓笛隊を通じて地域への思い

をより深くしていました。子どもたちが触れ合うことのできた鼓笛隊ＯＢの方々からも、鼓笛隊存続を願う声が多く集まっています。

私たち東小学校職員としても、子どもたちや地域・保護者の思い、願いをしっかりと受け止め子どもたちとともに学んでいきたいと思っています。何年も同じ指導者が継続して指導を行うことが叶わない分、地域講師の方やその時々の職員で十分な協議を重ねながら、よりよい形、より無理のない形を模索しているところです。

関西丹波市郷友会のみなさまには、令和元年度の「すくすく大賞」でご支援いただき大変感謝申し上げます。今後も地域の期待に応え、子どもたちが不自由な思いをすることなく学習活動を展開していきたいと考えています。今後ともどうかご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ベリーエース

昨年は関西丹波市郷友会様主催の丹波すくすく大賞にて輝こう丹波っ子大賞をいただき、ありがとうございました。

この受賞を励みにチーム一丸となって活発な活動を行い、今後も地域に貢献出来る様なチームでありたいと思っております。

受賞式にも出席させて頂いた当時の6年生達は、立派に成長した姿でチームを卒団し、現在は中学1年生としてそれぞれの新たな夢を追いかけてくれています。

私達丹波ベリーエースは、丹波市では唯一の女の子だけの学童野球チームです。現在は9人の個性豊かな子供達が丹波市の様々な小学校から入部してくれており、明るく楽しく元気に野球を頑張っています。

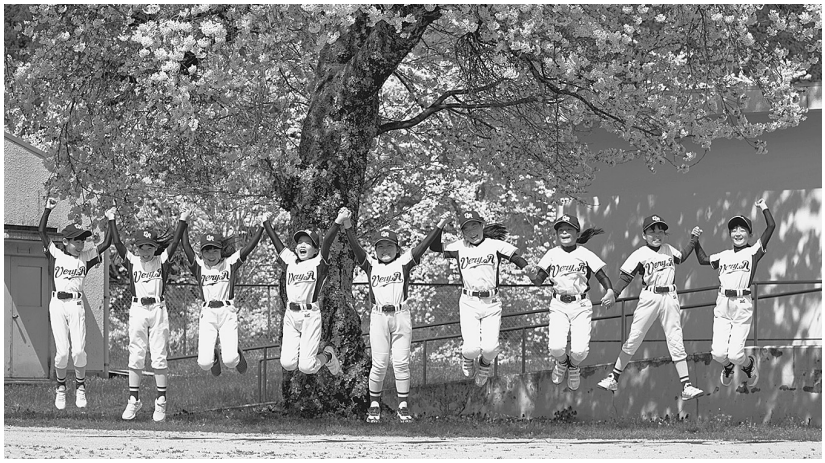
活動内容としては、土日の週末及び祝日に現在は廃校となった遠阪小学校にて練習をしており、試合については丹波市の大会や各チームの招待大会、練習試合にて試合を行なっています。

まだまだ他の少年野球チームとは差がありますが、チームスローガンの「今の自分達に出来る事を全力で頑張る。」をモットーに野球をさせてもらえる事に感謝し、大きな声でしっかりとした挨拶や道具を大切にする気持ち、必死で声を出してみんなで助け合う心、どんな時でも最後まで諦めずに頑張る事などを大切にしています。

5月現在は新型コロナウィルス感染拡大防止の為、活動は自粛の状態です。

本来なら野球教室を行い、たくさんの子供達に丹波ベリーエースを知っていただき、メンバーの募集に向けた動きをしていく計画で進めていましたが、残念な

がら延期となってしまいました。
通常の活動が出来るようになれば、野球教室を行いたいと思っていますので、その際には是非たくさんの子供達に遊びに来てもらいたいです。
また、今年度については第1回丹波ベリーエース招待野球大会を開催する予定でしたが、この様な状況になり調整も難しく、開催する事が厳しい状況にあります。
そんな自粛中で普通の活動が出来ない状況ですが、こんな時だからこそ出来る新たなチャレンジもしています。
各家庭で自主練習をしてもらっていますが、技術も心も少しでも前向きになるように、各家庭と指導者にて動画を通じて練習を行うという事をやっています。
試行錯誤の中で始めたこの動画指導。
毎週各家庭に自主練習の動画を送ってもらい、指導者より指導してもらった動画を送るという事をしているのですが、子供達の予想以上の成長にはびっくりしています。
子供達の一生懸命さ、保護者の方々のご協力、指導者の方々の熱い想い、こんな状況の中でそれぞれが離れていても活動が出来ている事はとても素晴らしく、改めてこのチームの一体感を感じました。



今後の私たちには夢があります。
状況的に今年は難しいかも知れませんが、チームとしてチャレンジしたい夢。
それは、第1回丹波ベリーエース招待野球大会の開催をする事です。
場所は毎年丹波市で行われております、全国女子高校野球選手権大会の聖地でもある市島町の球場にて行い、女子野球というこれからもっと発展していくスポーツの裾野を広げて、野球女子の増加や野球の魅力を微力ながら発信していければと思っています。
とても楽しく笑いと感動がいっぱいの丹波ベリーエースは、子供達も保護者の方々も指導者もみんなが一つになって、

野球を一生懸命に頑張っています。

そんな丹波ベリーエースはメンバーを募集しています。初心者もちろん大歓迎です。見学、体験は随時行っております。ご興味のある方はぜひ遊びに来て下さい。

お問い合わせ先joshiyakyuu 111@yahoo.co.jp　フェイスブックもぜひ見てくださいね。

子ども太鼓「鼓輝」

私たちは、平成18年4月、健全育成を主な目的として活動を始めました。今年で14年が経ちます。

「鼓輝」は、丹波市内の小学3年生から6年生までの児童を対象にした和太鼓の大好きな子どもたちが集まり活動している子どもの和太鼓チームです。チーム名を「鼓輝」と名付けたのは、太鼓の練習や演奏を通して「輝きたい」という願いと、「太鼓を楽しく打ちたい」という思いからです。

練習は、毎週土曜日午後2時間、氷上町大師の杜ホールにて行っています。年間40回程になります。練習内容は、和太鼓の基本の打ち方や組曲になっている氷ノ川太鼓4曲を毎年4月に新しく部員になったお友だちに合わせて、練習を行っています。今では、先輩の打ち方を観たり真似をしたりして、4～5カ月で全曲を覚え打てるようになっています。

組曲の氷ノ川太鼓は、丹波市氷上町内の名勝をイメージされ、今から30年ほど前に作られました。鼓輝が出来るまでは、大人のチームである「鼓心」が演奏をしていました。今では、鼓輝が氷ノ川太鼓を引き継いでいます。氷ノ川太鼓を演奏するときは、聞いて下さるみな様が元気で健康にあるようにと祈って打っています。

今年度は、創設以来、最少人数の6人で活動を始めました。昨年度までは、20人ほどの部員がいました。そのため、演奏するに当たっては大太鼓、大桶太鼓、

中太鼓、締め太鼓等、各太鼓に複数人数の配置ができました。そして、1人や2人の欠席者があっても大勢に影響はありませんでした。しかし、今年は今まで経験した事がない6人での演奏になりました。演奏出来るパートも限られています。演奏の中心である中太鼓を基本にし、リズムの要である大桶太鼓と締め太鼓で構成しました。少ないながらも、自分の演奏技術を高めようと一生けん命練習にはげんできました。そして、例年より2ヶ月ほど遅く、デビューする事ができました。地域のイベントや秋の収穫祭、氷上町文化発表会等など6回の出演があり、演奏する場を与えていただきました。これらの場で練習の成果を披露させていただき大変うれしく思っています。

このような発表の場は、丹波市内で私たちのように活動している子どもの和太鼓チームは私たちだけなので、他チームとの交流の場はほとんどないため、練習の成果を試せる場であり励みの場でもあります。演奏の他に自己紹介や自分たちの団体のこと、そして演奏曲の紹介を子どもたちが行っています。お客さんの前で話をしたり演奏したりすることが、練習への励みになり自信につながったりしています。練習を積み重ねることにより、演奏の技術が伸びたり体力が向上したりすることへつなげています。

ここで、練習について紹介します。

練習場所が自分の校区にないため、送り迎えは家の人にお願いしています。毎回、「ありがとう」と言っています。

練習の始めと終わりは、全員が輪になり正座で、お互いに「お願いします」「ありがとうございました」というあいさつをします。礼に始まり、礼に終わるという姿勢をずっと続けています。

太鼓を打つ時は、

一つ目　基本姿勢で！！

二つ目　へそを意識しながら、腰を落として打つ

三つ目　口唱和で唱えながら、曲を演奏する

四つ目　腕をしっかりと上げ、力強く打つ

五つ目　かけ声は、おなかの底から出すようにする

六つ目　しんどいけど、笑顔で太鼓をうつ

このようなことを守れるように、練習をしています。

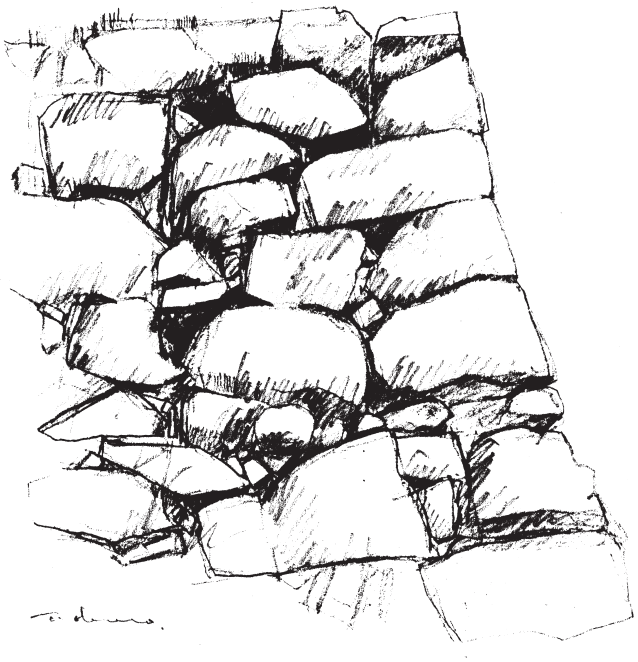
練習の最後には、全員が輪になって活動の振り返りをします。リーダーは、毎回代わります。それは、子どもたちにリーダー性や自主性を伸ばしてほしいという願いからです。練習日のリーダーが、司会をしたりまとめをしたりして振り返り、練習を終えます。

最後に、課題を挙げます。2つあります。

一つ目は、部員の確保です。6年生で終わりなので、その年の6年生は必ず卒業していきます。新年度、卒業していった人数が、新部員として入部してくれるかという点です。昨年度は9名の卒業生で、新しく入部したお子さんは1人だけでした。ですから、今年度は、6名という最少人数で活動せざるを得ませんでした。

二つ目は、新指導者への引継ぎです。現指導者は2人いますが、どちらも60才代であり、若い年代の方へ引き継ぐ必要がでてきました。

このような現状を踏まえ、今後10年、20年と鼓輝の活動が続くようにポジティブに課題をとらえ、模索しながら続けていこうと思っています。丹波のみな様、ご声援をよろしくお願いいたします。



松茸に魅かれて丹波へ

黒井城や黒豆も　豊かな地

登山家　三浦豪太

4年前、山仲間である元井益郎さんから丹波にいる岡田博美さんを紹介してもらった。岡田さんからは「丹波はいいところだからきて」とお誘いを受けた。その後北米最高峰のデナリ山に登った後、丹波でその報告会を行おうということで元井さんと講演を行った。講演を終えると地元の方達が青空市場のフリーマーケットを行なっていた。新鮮な野菜が並び屋台が出ている。座っていると目の前にはビール、串焼き、焼きそば、カレーが次々と置かれ地元のおじさん、おばさんと話が弾んだ。暖かみのある場所だなと思った。

この時は京都から岡田さんの車で往復をした。丹波という響きが面白いので調べて見ると丹波は古くは平安時代の「和名抄」に「田庭（タニワ）」と記されている。それが丹波の語源で山陰地方の山あいの中の盆地という意味で記された名前だ。なるほど四方山に囲まれ緑が眩しいくらいに目に入る。行きすがら岡田さんは「この辺りはイノシシ猟をしていてイノシシが郷土料理だ」と話していた。また季節になると山菜、栗、そして松茸が出てくる、という話を聞き、これは是非もう一度来たいと思った。

その願いが叶ったのは昨年（2019年）10月だ。僕は以前から逗子近隣で「豪太会」というものを行っている。逗子界隈の山を登り最後は逗子海岸でバーベキューを食べるというところから始まったのだ。それがいつまでも元気に冒険することをモットーにしてエベレストのベースキャンプやキリマンジャロ登山、

富士山や屋久島の宮之浦岳にみんなで一緒に登りに行っている。

このメンバーと一緒に丹波で松茸を食べよう！という話になった。東京から大阪を経由して福知山線で篠山口に降りると岡田さんが迎えてくれた。僕は仕事の都合上他のメンバーと1日遅れで入った。早速合流して岡田氏の所有する「松茸山」に行くことにした。僕は最初この松茸山の名前、よく松茸が取れるからこんな名前何だろうなと思ったら、本当に「松茸山」の立て札がある。入り口はゲートがあるが、こんな名前だといっぱい人が来るのではないかと心配になる。

松茸といったら超高級キノコである。おいそれとどこにそれが生えているというのはこの記事に簡単に載せていいはずがない。しかし、一言言わせてもらうなら僕は世界の山々に相当険しい登山をしたが、そのぼくにしてもかなり冒険的なルートをとらねば「その場所」にはたどり着けない。

そしてたどり着いたとしても松茸はすぐに見つかるものではない。しかし岡田さんはさすが地元。5分もするとめぼしい場所を探り一本探り当てた。その岡田さん曰く「今年はハズレ年、全然生えていないね」といった。それでも8人のメンバーで目を皿にして探した結果10本ほどの松茸を見つけることができた。

それをもって岡田家の別邸にいく。さすが準備がいい、親戚一同が総出で高級すき焼きを用意してくれていた。新鮮な松茸風味がすき焼きと交わりなんとも贅沢であった。

その夜、懇親会がいちご畑という喫茶店で行われた。そこは関西を中心に活動しているカントリーミュージックバンド・ホンキトンクデビルさんのライブ会場となっていた。このホンキトンクデビルはエッジの効いたロックなノリである。自然に体が動く。イキな音楽とお酒、ふと横を見るとケーキのショーケースに美味しそうなモンブランがあった。僕の中でモンブランは栗のアンがパサパサしていて好んで食べるものではなかった。しかしこの時ばかりはそのモンブランの放つオーラが尋常ではなかった。

音楽と音楽の合間に店の人にモンブランをもらうと、ほっぺたがとろけるとは正にこのことである。栗の風味が口の中にホンワリと広がり甘すぎずサッパリとした生クリームが口の中でとろける。これほどの絶品モンブランを今まで食べたことがない！音楽も食事もケーキも素晴らしい！

翌日、黒井城に登るために早朝3時半に起きて黒井小学校に向かった。地元では僕と一緒に登るということで小学生たちが集まっているはずだが、なにやらそれ以上に騒がしい。聞いてみると丹波市の黒井城跡早朝トレッキングのメンバーもこの日に登ることになっていた。僕た

ちのグループとトレッキンググループ合わせて総勢２５０人という大所帯で黒井城本丸を目指すことになる。

黒井城は今年の大河ドラマ「麒麟がくる」で主人公を務める明智光秀と深い縁のあるお城だ。織田信長は当時黒井城主で織田軍と敵対していた赤鬼こと赤井直正を落とすため明智光秀を総大将に送り込む。しかし「赤井の呼び込み戦法」が明智軍に大打撃を与え撤退させる。結局、黒井城は直正の病死により落城してしまう。その黒井城と縁ができた僕は今年の大河ドラマ、明智光秀の良きライバルとして直正および黒井城が出るのを期待している。

黒井城は地元では気軽に楽しめるトレッキングルートとして楽しまれている。気軽に行けると思ったが実際は本丸まで40分ほどの本格登山だ。さすが名城、簡単には攻め落とせない。そんな険しい本丸までこれほどの人が早朝に集まるのは、そこから見られる雲海とご来光が絶景だからだ。丹波は山に囲まれた盆地。そこに雲がたまるとまさに天空の城である。しかし、この日逆に山頂は雲の中。隣の人の顔も見られないほど濃い霧であった。

丹波といえば黒豆である。黒井城跡下山後から岡田さんの車で岡田さんが管理している黒豆畑に連れて行ってくれた。そこには30ｍほどのウネが10個ほどあり岡田さんは「ここから好きなだけもって行っていいよ」と言われ早速畑作業を行った。茎の根元から切り、地道に一つ一つの黒豆をとる。さすが丹波の黒豆、普通の枝豆とは大きさも弾力も違う。1時間ほどの作業で大きな袋6個いっぱいになった。これをお土産にもって帰った僕は家族に鼻高々であった。

丹波は豊かな土地である。現在新型コロナで多くの人たちの生活が一変している。学生は学校にいけず、会社員は会社にいけず、人と会うことも、外で一緒に食事を食べることも控えるように言われている。

そんな中、この記事の依頼がきて久しぶりに岡田さんと話すことができた。聞くと丹波も自粛であり岡田さんの仕事もインドや中国の工場が止まり大変であるという。しかし岡田さんは明るく「4月に蒔いたとうもろこしが大きくなったらそっちに送るよ、それまでカラス、スズメ、アライグマとの格闘だ！」と話していた。新型コロナによって日本と世界経済は大打撃を受けている。しかし、本当の豊かさ、本当の日本経済というのはこう行った素朴な味や人とのつながりにあるのだろうなと思いながら丹波に思いをはせてこの記事を書いている。

丹後と分かれた丹波

さらに京都府と兵庫県に

園田女子大名誉教授　田辺眞人

丹波は不思議な国である。崇神天皇の時代に天照大神が豊受大神とともに一時丹波の吉佐宮に鎮座され、後に伊勢に移られたと伝える。これに呼応して古い丹波には伊勢神宮の大神がもとここに居られたという元伊勢と称する神社がある。吉佐宮は天橋立北方の与謝の籠神社とされるが、もう一社、大江山の南方にも元伊勢と称する皇太神社があって、こちらは内宮・外宮のほか美しい山容の神体山の麓の谷に天岩戸社まである。この地の大和政権との深い関わりを暗示するように思われる。ところで、籠神社は丹後一ノ宮だが、これは和銅六年（七一三）に丹後が丹波から分国されたためで、それまでは、後の丹後は丹波の国に含まれていた。「丹後国風土記」逸文には最古の浦島太郎伝説や羽衣を着て天から飛来した天女の説話が記されている。浦島の訪ねた龍宮城や天女の故郷は、他の世界つまり海の彼方の大陸との交流を反映した物語だから古い時代の丹波は、大和政権にとって日本海への出口、大陸への窓口だったのだろう。

「秦の始皇帝の命令で不老長寿の妙薬を求めて東方の海の彼方にある蓬莱の島に船出した」と中国で伝えられる徐福に関しては、西日本各地の海辺に彼の渡来を伝える地があるが、丹後半島東南の伊根町の一画に徐福上陸地と伝説する岬がある。丹後には古代朝鮮の伽耶という地名に通じる加悦町もあって、古い丹波は弥生以来の大陸文化の伝播の地だったのであろう。京都府で最も大きな前方後円墳が丹後北部の海辺にあり、この地方の中心は京都に近い南部に移る前には日本海側の北方にあったと思われる。いずれにせよ丹波は十一郡からなる大国だった。

先述のように和銅六年に、加佐・与謝・丹波・竹野・熊野の北部五郡をさいて丹後の国が置かれた。通常、国を分ける場合は、都に近い方を前、遠い方を後とするのが例である。肥前と肥後、豊前と豊後がそうであって、もとの国が広大な場合は三分して、越前・越中・越後や備前・備中・備後のように、間に中を置くのである。にもかかわらず丹波の場合は、分国の時に丹前・丹後とせずに丹波

の国名は変えられなかった。丹後国に丹波郡や熊野郡があるのも興味深いが、丹後を分国したあと丹波には桑田・船井・何鹿（いかるが）・天田・多紀・氷上の六郡が残った。

ＪＲ黒井駅前広場で（中央おふく像の右筆者）

この新しい丹波国の一ノ宮は国の東端に位置する出雲大神宮で、八世紀初めに出雲大社の神霊を分けてもらって祀ったという。古い丹波が大和と出雲と大陸との微妙な接点の地だったことがうかがえる。八世紀以来のこの丹波国が明治の廃藩置県の中で二分されて、西南の多紀・氷上の二郡が兵庫県に、他の四郡は京都府に配属されたわけである。

中世、丹波は京の都から山陰道方面の入口という交通・軍事の要所であった。戦国時代末期に中部地方から出て西進し、畿内を抑えた織田信長は、さらに西方の毛利の領域に進攻しようとして、瀬戸内海側つまり山陽道に羽柴秀吉を送り、日本海側つまり山陰道方面に明智光秀を遣わした。光秀が丹波東部を抑えた当時、兵庫県側の丹波では氷上郡つまり現在の丹波市を中心に赤井直正が勢力を張り、多紀郡つまり丹波篠山市側で波多野秀治が戦国大名化していた。赤井の拠点が黒井城で、波多野の本拠が八上城。いずれも堅固な山城だった。

光秀の進攻で波多野は一但、信長側に服するが、天正三年（一五七五）に黒井城を攻撃し包囲した明智光秀に対して、赤井直正は内密に波多野秀治と結んでいたため、秀治勢は光秀を背後から攻撃して織田方を敗退させた。数年後に光秀は体勢を立て直して西丹波に再征し、この戦いの中で赤井直正は病死、波多野は明智と和議を結んだが、信長の意向で滅亡させられてしまった。大河ドラマ「麒麟がくる」でこのあたりの丹波の歴史がどう描かれるのか、興味深い今年である。これにちなんで私も今春のＮＨＫテレビ「新兵庫史を歩く」で黒井城一帯を視聴者の皆さまと歩かせていただく計画だし、ラジオ関西でも春から年末までの丹波の番組に関わらせていただく予定である。丹波にわくわくする今年である。

南アフリカから丹波へ

医師国家試験に挑戦

丹波医療センター診療補助　**ハウザー　ノエル**

簡単に自己紹介をさせていただきます。南アフリカ共和国のケープタウン生まれ、ヨハネスブルグ育ちのノエルと申します。今年の8月で、日本に来てから6年になります。最初の3年間は兵庫県の豊岡市に住んでいて、県立豊岡高校で外国語指導助手「ＡＬＴ」として働きました。その後、２０１７年7月に丹波市に引越して兵庫県立丹波医療センター（旧柏原病院）でようやく病院関係の仕事に戻ることが出来ました。

実は、南アフリカで麻酔科医だったのです。ヨハネスブルグのウィットウォーターズランド大学の医学部を２００７年に卒業し、アフリカ大陸の一番大きい病院で知られているクリスハーニバラグワナス病院で研修医の2年間を過ごしました。それから、別の病院へ転職し、麻酔の教育を受け、資格を取った数ヶ月後日本に旅立つことにしました。

日本へ行こうとした大きな理由は古武道にあります。大学に入ってすぐ、クラブ活動として琉球古武術を試してみました。それまであまり武道に触れていなくて、学び始めた空手の型や武器の使い方に一瞬ではまりました。大学の7年間と卒業後の7年間、合わせて14年間ずっと琉球古武術をやり続けました。最初の頃、型の動きや武器の練習で頭がいっぱいでしたが、時間がたてばたつほどその琉球古武術の背景や母国に興味が湧いてきました。そして２０１０年には世界琉球古武術セミナーに参加するために道場の皆と一緒に初めて日本を訪れました。

初めて日本に来たときに全く日本語が出来なかったです。それにも関わらず日本の先生と選手たちの「おもてなし」（その頃、おもてなしの概念さえ知りませんでした）をいただいたおかげでとても素敵な時間を過ごすことが出来ました。筋肉痛は酷かったですが。

帰国した後やっぱり出会った日本人と全然コミュニケーションを取れなかったことを後悔しました。もしまた日本へ行くこととなったら、せめて感謝の言葉を伝えられるようになれば満足できるはずだと思いました。それを引き金にして日本語勉強の本をネットで買ってチョコチョコ勉強し始めました。すごく面白く感じたのですっかりはまってしまいましたが、その時は麻酔の勉強で目が回るほど忙しかったので日本語の習得はいまいちでした。

医学的な勉強が落ち着いたころ、日本への旅についてほとんど毎日考えるようになりました。私の大好きな琉球古武術の母国についてどうしても、もっと知りたかったのです。そのため実際に日本へ行って少し長めの滞在が必要だと感じました。古武道のセミナーの時、観光客として少し日本にあるものを楽しめましたが、次回は日本に住み、日本の文化を体で直接触れたかったのです。と言うわけで、ＡＬＴとして1年間の契約を申し込んで厳しい選択過程を通って、医師をいったん辞めて、日本へ向かいました。

勤め先の学校は兵庫県の北部にある豊岡市の県立高等学校でした。緊張しながら人生初の英語教育に関する仕事に挑戦しました。思ったより難しくてどうやって教えればいいのかと毎日悩みましたが、当校の英語の先生と他のＡＬＴの助言をいただき、なんとかなりました。

同時に本格的に日本語の勉強をし始めました。近くの「ＮＰＯ法人にほんご豊岡あいうえお」の日本語教室に参加して、毎日数時間勉強することにしました。新しい言語を習得することはすごく面白くて、周りの人と徐々に意思疎通が出来るようになることにもとてもやりがいがありました。教室やテキストで習った単語と文法を言葉にして少しコミュニケーションをとるのに成功したことで、改めて勉強の魅力を感じさせられました。夢中になりすぎて1年間の契約はつい3年間になってしまい、途中、日本語能力試験（外国人向けの日本語検定）1級をとることも出来ました。

この時点でバカバカしいアイデアに襲われました。なんと、日本で医師として働いてみたらどうかということでした。当時、県立豊岡病院で医療従事者向けの英会話教室を開いていたので、数ヶ月一人で悩んだ挙句、病院の総務課スタッフに、ようやく相談をしてみました。その結果、いろいろな先生に出会って病院長まで話が届きました。豊岡病院長経由で

丹波市の柏原病院長の秋田院長に紹介いただきました。秋田院長の第一印象はとても優しくて医者の目指すべき医師像そのものでした。彼の地域医療への熱心さが強く伝わってきて、若い医師の教育にとても力を入れていることも明らかになりました。その秋田院長は医師免許までの道を考えてくださるようにおっしゃった後、なんと、柏原病院で英語教育や外国の患者の英語通訳のお仕事を提案して下さいました。その場で即決しました。

２０１７年の夏には丹波市に引越して柏原で新しい生活を始めました。最初の時に大好きになった豊岡市を離れることを寂しく思っていましたが、次々と丹波市の素敵なところに気づき、快適な生活を送れるようになりました。例えば丹波市は盆地であることで３６０度に美しい山が見えていて毎日のこころの癒しになります。特に柏原病院の正面玄関から見える景色は素晴らしいと思いました。盆地であってもここ3年間の夏の気温は豊岡市ほどではなく、冬に雪もあまり降らないこと（昔はよく降っていたと言う話も耳にしましたが）で住みやすいです。山々が沢山あるのに街の中には険しい坂道があまりないことで、私の自転車生活にぴったりです。それから信じられないほど美味しい飲食店がありすぎてどこで食べようと毎日悩むようになりました。そして大半のお店で地元の材料が自慢でものすごく美味しい料理を提供することに感動しました。丹波市に来てよかったと毎日思わされるくらいです。

病院の環境に戻ってきたことも嬉しく思いました。病院で親切な人ばかりと出会って、皆さんはとても協力的でした。ありとあらゆる勉強方法を研修医から聞かせて頂いたり、医学生のような扱いで臨床チームに入り、回診までお邪魔をしたりしてとても幸せです。途中、新病院が出来て人生で初めて、新しく建てられた病院で働くようになりました。すごくきれいな病院で最先端の医療技術が備えられていることで職員として誇りに思っています。

最後に、私の現在の日々はほとんど医師国家試験の勉強で忙しく過ごしています。日本そして丹波医療センターの医療のレベルは高くて、そこまで達成出来るかどうかは自信がありませんが、この素敵な街で、この誇るべき病院で、医師として働けるようになるために頑張り続けたいと思っています。

（丹波市在住、南アフリカ出身。筆者が日本語で記述）

農業で世界とつながる

丹波の農場に毎年15カ国から

兵庫県有機農業研究会理事長　橋本慎司

市島町の稲田で（中央筆者）

去年、うちの農場にお手伝いに来てくれたボランティア。英国から2名、スイスから1名、ドイツ人2名、スウェーデン1名、オーストラリア2名、ニュージーランドから1名、米国7名、フランス人はなんと11名、中国から6名、香港3名、タイ1名、イスラエル1名、そして日本人7名で合計45名。毎年平均して約15か国45名が滞在している。短い人で1週間、長い人で半年も農場に滞在し、うちで農場のお手伝いをし、学び、交流している。

日常的に農作業は英語で指示、説明しているのでほぼ1日中英語で話をしている。来る人々も職業は様々で大学生が多いが、珍しいところでミュージシャン、パリのウエイトレス、日本の外交官、ドイツの空港管制塔の職員。最近はＩＴ関係者から本格的に農業を志す新規就農者までいる。皆に共通する事はオーガニック、つまり有機農業を知りたい人々だ。

世界は環境にやさしい社会をめざしている。二酸化炭素の排出が増大し、地球温暖化が問題になって久しい。気象は変動し、毎年様々な災害が我々の生活を脅かし始めている。丹波大水害でうちの農場は土砂に埋まり、復興不可能と思われる程の打撃を被った。台風、水害は年々増加しており、一昨年は関西空港が麻痺し、千葉では家屋が倒壊した。繰り返し、繰り返し、人間の経済活動が環境に影響し我々に警告を与える。

特に現在、世界中に広がる、近代大規模単一栽培型農業は莫大なエネルギー消費量、大量のＣＯ２排出量、高い農産物

の廃棄率、化学物質による環境破壊、生態系への影響、食品の安全性の問題など様々な問題を生み、持続可能な農業の一つである有機農業や生態系にやさしい農業が注目されている。さらに日本では巨大産業による集中的な技術神話は東日本大震災によって覆され、福島原発事故につながった。運よく原発の暴走は止まりはしたが、まだ予断は許さない現状だ。放射能の拡散は場合によっては東日本全体が住居困難地域になっていた可能性がある。そんな中、世界では環境と調和する新たな分散型の技術が開発され、現在の使い捨て文化に疑問の声が上がっている。さらに都市の人口の集中化とグローバル化は、現在コロナウイルスの拡大に繋がっている。ここ丹波では毎年人口が７００名ずつ減っているのに。

だれもが大量生産、大量消費、エネルギー使用の増大、都市の集中化により我々の社会そのものに限界がきていることを感じている。世界もそうだ。

大量生産大量廃棄、エネルギーの無駄使い、そんなことは誰でもわかっている。だが、現実を考えると理想だけでは生活できないのが現状だ。皆、大きな経済活動のサイクルの一部になっており、きれいごとではすまないのであろう。最近悪評高いネオニコチノイド農薬というのが当たり前に使用されており、これは

非常に浸透性が高いがこれを使用しないとカメムシの食害が増え2等米になってしまう。学校、公民館、圃場でも使用される「ランドアップ」除草剤、米国では被害者が裁判で勝訴し20億ドルの賠償金を企業に払わせることとなった。今では国によっては使用禁止になり規制がかかっているが、日本では皆無関心だ。

市島町の有機農業の歴史は長い。これが日本に訪れる外国人がうちの農場にお手伝いに来る理由だ。最初の有機農産物の出荷団体は１９７５年に設立した。農薬などを使用して体に不調を感じた農民も含め、町内から30数名集まり、阪神間の消費者と直接つながり、農産物の流通が始まった。当時は熊本での水俣病、森永牛乳ヒ素ミルク事件、母乳からＰＣＢが見つかり、世間でも食品の問題が注目されており、市島の有機農産物を直接購入する消費者会員は瞬く間に１０００人を越えた。１９８９年、当時20代後半、

生協で働いていた私はこの市島での生産者と消費者の繋がり、画期的な生消協同組合組織に感銘を受け、退職し、有機農業生産者として新規就農した。この頃は日本もバブル絶頂期で若者の就職率は高く、農村に引っ越して農業する者は皆無で、周辺から誰も理解されず、変り者と思われた。うちの両親は息子が狂ったと思ったそうだ。

現在では世界的に持続可能な農業が注目され有機農業の技術研究、開発も進み、量販店、大手スーパーにも有機農産物のラベルが貼られた農産物が見られるようになってきたが、私が有機農業を開始した頃は、理想的なモデルが書かれた本が少し存在する程度で、有機農家は経験と勘で栽培するしかなかった。最初は土壌分析、窒素、リン酸、カリなどの必要成分等、農学の知識も何もなく、ひたすら重量のある鶏糞などの有機物を圃場に投入した。窒素過剰のために虫の害も多く、消費者会員から「橋本さんの菜っ葉はレースのようだ。」と苦情がきた。収量はいつも不安定で収入も少なく、夜は塾などへ行ってアルバイトをしないと生活もままならなかった。当時は独身、夏には日中には暑さで頭がくらくらになり、寒い冬には凍えながら雪の中から大根を捜し一人でもくもくと作業をこなした。

3年を過ぎたころから、平飼いで養鶏を開始、５００羽まで増やした。市島には行政主導で有機堆肥センターが設立され、大量の堆肥を安価で購入することができるようになった。独学で農学の本も読みこなし、また有機農業の技術開発も進み、品質は向上し圃場も1ヘクタールに増え、年間50品目も野菜を栽培している。妻との出会いもあり、結婚。息子が2人生まれて次男は柏原高校の卒業生だ。現在消費者会員は２００名ほど、他にコープ自然派にも胡瓜、ズッキーニ等を出荷している。新規就農をめざす人も受け入れて数人が丹波で就農している。

広島出身の自分が高校時代はブラジルと米国で過ごし、東京で大学生活をし、就職して神戸に移り、さらに丹波に来て、農家に転身して30年が過ぎた。農家になってから有機農業の全国組織に関わり、国際有機農業連盟（ＩＦＯＡＭ）の役員を経て、世界十数か国を訪ね、交流し、繋がりを作ってきた。

海外に住んでいた頃は世界と繋がるビジネスマンを目指していたのに、今では海外の人々と土にまみれる毎日、本当に生きることは何が起こるかわからない。

（市島町在住）

143年前のコレラ文書

円通寺の屏風から出現

丹波市文化財保護審議会委員　山内順子

筆者の所属する氷上郷土史研究会では、古文書部会の活動として、円通寺に残された古い襖や屏風を一層ごとに剥がして調査をしている。というのも、襖や屏風の内側には補強や保温性向上のために反故紙が貼られており、その中には貴重な古文書や古記録が含まれているからである。

このたび調査した層には、明治政府や兵庫県から出された布達の文書が百十五枚びっしりと貼られていた。そのうちの二十三枚が明治十年（1877）のコレラ流行に関するものであった。

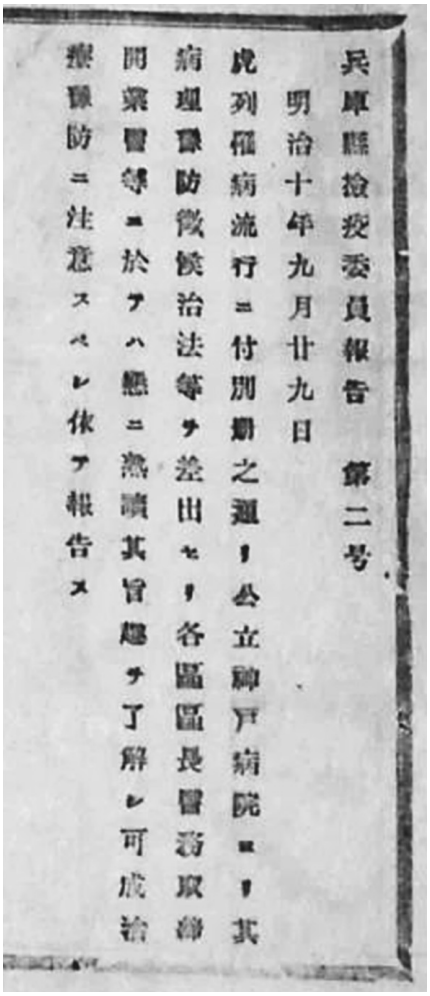
最も日付の古いものは、九月二十三日発行の「内務省衛生局　報告第六号」である。

「別紙、医学部内科教師ベルツ氏取調候、虎列刺治方概略、心得ノ為報告ス」とある。ベルツ氏というのは明治九年に東京医学校（現在の東大医学部）の教師に招かれ、以後二十七年間にわたり日本医学界の発展に尽くしたドイツ帝国の医師である。彼はコレラの予防について「最緊要なるは、公私の家屋中にある厠及び汚渠を清潔に掃除するにあり。病毒の発育・蔓延するは、多くはこの場所よりすればなり」とし、下水系統を清潔にすることの重要性を説いている。赴任してわずかの期間に、日本のインフラの弱点を指摘するだけの観察をしていたことがわかる。ただ、「既に消化器官に妨害を生ずるところあらば葡萄酒に少しばかりの糖および桂皮（シナモン）を混ずるもの」を服用させ「温なるフラネルを以て下腹を包み」とあるのは、いかにもドイツの療法というべきところであろうか。というのも「葡萄酒」は江戸時代にも少量の醸造記録はあるものの、国産ワインの本格生産開始は明治十年以降のことであり、フラネル（柔らかく軽い毛織物）も、輸入品に頼っていた当時、日本の医療現場で普通に使用できる状況とは考えがたいからである。

中央省庁からの通達の一方、兵庫県としても九月二十九日に「兵庫県検疫委員報告第二号」で通達を出している。「虎列羅病流行ニ付、別冊之通リ公立神戸病院ヨリ、其病理・予防・徴候・治法ヲ差出セリ。各区区長、医務取締、開業医等

ニ於テハ懇ニ熟読、其旨趣ヲ了解シ、可成治療、予防ニ注意スベシ。依テ報告ス。」とある。

別冊には「コレラの病毒たる元は、患者の吐瀉物中に含まれ、毒種が混入した水を飲用すると患者に接触せずとも伝染する」とあり、かなり正確にコレラを理解していた事がうかがえる。さらに「注意すべきは、その毒を受くると雖もコレラ病を発することなく、却て他人にその毒を伝ふることあり。」と、無症状の人が伝染させることに注意すべきであると述べている。予防については「最も切実なるものは、コレラ流行時に、まず一国の人民を他国の人民と全く交通せざらしむる」事だが、現実には開国間もない状況では不可能、ならば「国境に入る他国人を各一検査し、コレラ病あるものは適宜に所置すべきである」と記されている。現在の新型コロナウイルス関連のニュースかと錯覚するかのような文言が並んでいることに驚くのである。


兵庫縣檢疫委員報告　第二号

明治十年九月廿九日

虎列拉病流行ニ付別紙之通リ公立神戸病院ニ於テ病理豫防徴候治法等ヲ差出セリ各區區長醫員取締問業醫等ニ於テハ懇ニ熟讀其旨趣ヲ了解シ可成治療豫防ニ注意スベシ依テ報告ス

また、「病毒を受くるものが皆コレラを発するにあらず、概して虚弱なるものは」発症しやすいので飲食物や生活習慣に気を付ける事、過度な心配をしない事が大切とも述べている。現在も言われる「免疫力を高めれば発症しづらい」と共通であろう。

ところで、コレラ菌がコッホにより発見されたのは明治十六年のこと。明治十年では「真性コレラとなるに至りては施用する特効薬なし」という絶望的ともいえる状況であった。

患者数の報告文書もある。十月十五日までの患者総数は四百九十人、うち死亡三百十八人、治癒二十八人。何という死亡率の高さ、治癒率の低さ。数字からも人々の恐怖を読み取ることができる。

しかし、公立神戸病院の医療関係者は、阿片や炭酸水なども用いて懸命にコレラと闘い、冷静に情勢を分析し、知りうる限りの知識と経験を共有すべく発信

していたことが文書からうかがえる。百四十年以上前の彼らの姿は、まさに今、特効薬もワクチンも無い中で闘っている医療関係者の姿と重なるものがある。

兵庫県ではこの時の反省もふまえて、翌年には和田岬消毒所（神戸検疫所の前身）が設置された。神戸の上水道整備も明治三十八年時のコレラ流行が契機であった。感染症拡大があぶり出した弱点を克服することで、先人たちは新たな社会を構築してきたのである。

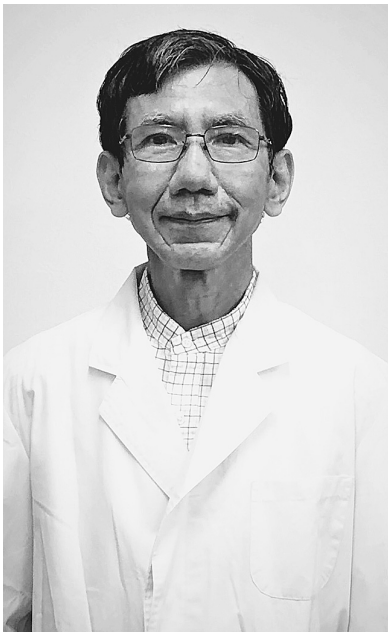
令和二年を生きる我々も、新型コロナによって見えてきた社会の問題点を、例えば情報通信技術を活用した柔軟な働き方・教育により解決し、時代を一歩前へ前進させた、と後世の人々に評価されるようでありたいものである。

（春日町在住）

新生活様式の継続を

「新型コロナ」感染防止へ

浅原薬局　インフェクション・コントロールドクター　**浅　原　慶　一**



思い返せば、3月10日に丹波市内で新型コロナウイルス感染者が発生したとのニュース報道があり、驚いて食い入るように、そのニュースを見たのを思い出します。

当時、私は丹波市薬剤師会の会長職にあったことから、その翌日、丹波市健康センターミルネにおいて丹波健康福祉事務所、県立丹波医療センター、丹波市健康部、丹波市医師会、丹波市薬剤師会の代表者が集まり、新型コロナウイルスに関する緊急の会議が行われました。そして、感染防止のため、サージカルマスクの着用、頻回のアルコール消毒剤による手指と環境衛生の徹底に加えて、症状が現れない新型コロナウイルス感染症の患者さんが存在することから、患者さんに間近で対応するスタッフは、ゴーグル等の眼の防護具、長袖ガウン及びディスポの手袋の装着（頻回のアルコール手指消毒で代用可）を推奨することとなり、丹波市内の薬局に周知を行いました。この手順は物々しく、患者さんに不快感を与えることも考慮して、咳や発熱の患者さんや、対面で吸入剤の指導を行う時以外はゴーグルまでは使用されなかったと思います。

しばらくすると、必需品のマスクや消毒用のアルコール製剤が薬局においても入手が困難な状況となり、マスクの長期使用や液体石鹸での手指洗浄などで対応した時期もありました。しばらくして、窓口に透明のフィルムやアクリル板を設置する施設が増え、患者さんもスタッフも双方が少し安堵した次第です。

次に、薬剤師という職業柄、新型コロナウイルス感染症の治療薬について少し説明します。新型コロナウイルス治療薬

は、ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬と、肺炎の重症化によって生じる「サイトカインストーム（体内細胞から直接分泌され、微量で免疫などに大きな生理活性を有する物質であるサイトカインが過剰に分泌され暴走する病態）」や「重度の呼吸不全」を改善する薬剤に分けられます。

抗新型コロナウイルス薬としてレムデシビル点滴静注液（エボラ出血熱治療薬、ベクルリー®）、ファビピラビル錠（新型インフルエンザ治療薬、アビガン®、国産医薬品）、ロピナビル／リトナビル錠（ＨＩＶ感染症治療薬、カレトラ®）、イベルメクチン錠（疥癬治療薬、ストロメクトール®）、ヒドロキシクロロキン錠（全身性エリテマトーデス治療薬、プラケニル®）、シクレソニド吸入剤（気管支喘息治療薬、オルベスコ®）、注射用ナファモスタット（膵炎治療薬、フサン®）、カモスタット錠（慢性膵炎治療薬、フオイパン®）が検討されております。現時点において、我が国では本感染症治療薬としてレムデシビルが認められています。

サイトカインストームなどの治療薬として、バリシチニブ錠（関節リウマチ治療・ヤヌスキナーゼ阻害剤、オルミエント®）、トシリズマブ点滴静注用（インターロイキン - 6阻害薬、アクテムラ®）、サリルマブ皮下注（インターロイキン―6阻害薬、ケブザラ®）などが検討されていますが、未だ新型コロナウイルス肺炎の治療薬としての承認には至っていません。

新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発にはかなりの時間を要し、一朝一夕に供給することは困難な状況です。このため、基本的な伝染病対策の一つである隔離策「ステイホーム」などにより、我が国でのコロナウイルス感染症の第一波のピークはなんとか抑えられ、兵庫県の新型コロナウイルス非常事態宣言は5月21日に解除されました。そして、私たちの普段の生活や経済活動も回復しつつあります。しかし、新型コロナウイルスのワクチンが開発中の現在においては、すぐに以前のような生活を取り戻すことはできません。すなわち、人との距離2メートル（最低1メートル）、マスクの着用、こまめな手洗いかアルコール製剤の手指消毒、3つの密（密集、密接、密閉）の回避、健康チェックの励行などを守った「新しい生活様式」を当面の間続けなければなりません。

我が国の新型コロナウイルス感染症の死亡者数は欧米と比較して大幅に少ないことは事実です。それに増して、アジアの感染者数、死亡者数は欧米に比べて圧倒的に少ない状況です。このアジアの国々で１００万人あたりの新型コロナウイルス感染症の死者数において、日本は二番目に多いのが現実です。今後は新型

コロナウイルス感染症の第2波が想定されており、この第2波は欧米諸国の第1波と同じような激しい流行となる危険性も考えられます。当面は新型コロナ感染防止に配慮した「新しい生活様式」を守っていただくことをお願いします。また、インフルエンザの予防接種に加え、5年毎の肺炎球菌ワクチンの接種を推奨します。

「新しい生活様式」をもうしばらく続ければ、新型コロナウイルスワクチンなどが広く供給され、このウイルスとの共存が可能になると思います。その時期までは、私達みんなで節度ある行動を継続して、乗り切っていきましょう。

（春日町在住）

丹波を考古楽散歩〈上〉

― 青垣町 ―

兵庫陶芸美術館　学芸課長　**藤田　淳**

はじめに

小学5年生の頃、学校近くの畑で見つけたヤジリがきっかけで考古学の道に進んだ私は、大学卒業後、兵庫県教育委員会で30年以上、県内遺跡の発掘調査や出土品の整理に携わってきました。

ちょうど私が採用された頃は、近畿自動車道舞鶴線（現近畿自動車道敦賀線）の建設に伴う大規模な発掘調査が丹波市内や丹波篠山市内で進んでおり、新たな発見が次々と報じられていました。

その5年後、今度は春日ＩＣから氷上町・青垣町を経て朝来市を結ぶ北近畿豊岡自動車道が建設されることになり、再び、丹波市域で大規模な発掘調査が行われることになりました。

これらの調査では、丹波や兵庫などの地域史にとどまらず、日本の歴史を見直すような重要な成果も得られ、平成19年に開館した兵庫県立考古博物館（加古郡播磨町大中）の展示の中にもふんだんに取り入れられました。

青垣町域でも高速道路建設までに行われていた発掘調査はごくわずかでしたが、特に青垣ＩＣのある沢野から遠阪にかけて、次々と調査が行われました。

こうした考古学の成果を手掛かりに、青垣町の歴史を楽しく散歩する誘いとなるようご案内できればと思います。

発掘調査にいたるまでの道のり

高速道路が計画され、路線が決まると、そこに遺跡があるかないかを調べるために、現地の田畑や野山を歩いて土器などを探したり、地形を観察したりする調査を行います。これを分布調査と言い

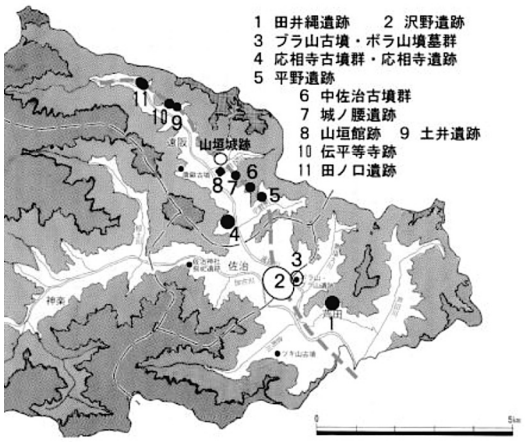


図１　発掘調査された主な遺跡
氷上郡教委1997『氷上郡埋蔵文化財分布調査報告書(4)』掲載図より作成

ます。

北近畿豊岡道では平成3年に実施され、私も参加しました。そこで見つかった遺跡がありそうな場所を試し掘りして、実際に遺跡があるかないかを確かめるのが確認調査です。遺跡の時代や範囲、深さなどを調べ、次の本発掘調査をする際のデータを集めます。

町内で本発掘調査が行われた主な遺跡は図1にあげていますが、高速道路関係では、沢野遺跡、平野遺跡、中佐治古墳群、城ノ腰遺跡、伝平等寺跡、土井遺跡、田ノ口遺跡の7遺跡です。したがって、ここでは青垣町北部の話題が中心となります。

縄文時代の青垣

丹波市内では3万年近く前の氷河時代に旧石器人が集まりキャンプサイトを営んでいたことが、春日ＩＣでの調査で明らかとなっています（七日市遺跡）。青垣町ではこの時代の遺跡は未発見ですが、次の縄文時代の中頃（約5千年前）以降になると、少しずつ足跡が見えてくるようになります。田ノ口遺跡や土井遺跡、沢野遺跡では、わずかながら土器片が出土し、土井遺跡では陥し穴も見つかっています。シカやイノシシを狩り、秋にはドングリを集めて日々の糧を得ていた縄文人が青垣町にも訪れていました。

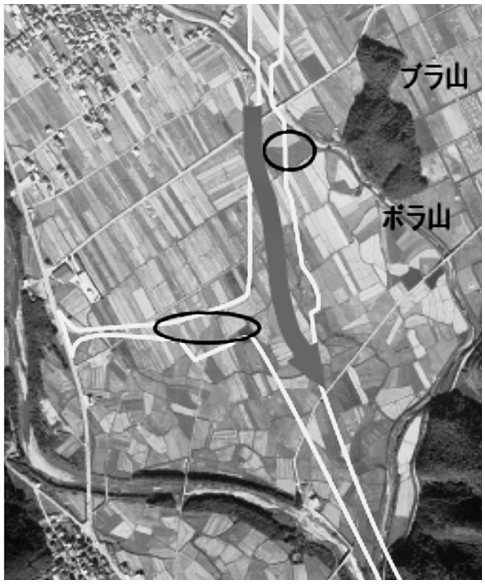


図2 沢野遺跡周辺空中写真
国土地理院CKK 762-C 14-42
〇は弥生・古墳時代のムラの場所

弥生時代の青垣

約2千5百年前、縄文時代が終わりを告げ、水田稲作が日本に広まる弥生時代に入って間もない頃、当時の技術では水田に開墾できるような土地が無いように思える遠坂の狭い谷中にも弥生人がいました。田ノ口遺跡や応相寺遺跡から出土した土器片がそれを物語っています。住居を構える適地を探しに遣って来たのでしょうか。

弥生時代中頃（約2千年前）には、春日町の七日市遺跡が丹波市内で最も大きなムラとして、大きな発展を遂げていました。町内でも土井遺跡に円形竪穴住居跡と墓がそれぞれ三つ遺され、少人数で生活が営まれたことがわかります。

さらに2百年ほど後、

墓にしては数が多いので、周辺にあるいくつかのムラの共同墓地だったのかもしれません。

ここでは、棺を埋める際に割った土器を墓穴の中に置くという行為が見られます。破砕土器供献と呼ばれ、但馬・丹後地域の弥生墳墓に広く認められる葬送儀礼です。墓の造り方や副葬品、儀礼などに但馬・丹後地域との強い共通性がみられ、丹波とはいえ、但馬のムラとの結びつきが強かったことがわかります。

図3 中佐治5号墳の副葬品
青垣町で初めて出土した古墳時代の鏡（手前中央）や剣、鏃、斧、鎌、鋤鍬先などの鉄製品です（兵庫県立考古博物館提供）

弥生時代も終わりに近づくと、沢野遺跡と田井縄遺跡にムラができます。沢野遺跡では遠阪川を挟んだボラ山（今は工業団地）が墓地に選ばれたようです。尾根筋を削り平坦な場所を造成し、穴を掘って木の棺を納めた墓が14基造られました。ガラス玉や鉄製品を副葬した墓もあり、ムラ人の中に階層が生じていたことがうかがえます。沢野遺跡の住人だけの古墳で様子がわかっているものは少なく、抜きん出た規模の古墳も知られていません。住居跡も田ノ口遺跡や田井縄遺跡で竪穴住居跡が数棟見つかっている程度です。

ところが、6世紀以後、ムラは一気に拡大します。沢野遺跡、城ノ腰遺跡、応相寺遺跡、土井遺跡と、遠阪谷の奥のほうまで、面的な広がりをもつような感じでムラが拡がります。

特に沢野遺跡では6世紀後半から百年ほどの間に建てられた竪穴住居跡や掘立柱建物跡が24棟見つかっています。青垣町域の中心的なムラといえます。

こうしたムラの拡大は人口の増加を物語るものです。6世紀後半になると、日本でも砂鉄を炉で溶かして鉄を作ることができるようになります。開墾に必要な鋤や鍬、斧に国産の鉄が使えるようになったことで、生産力が大いに向上したことが背景にあるのでしょう。

古墳時代の青垣

3世紀後半、倭国の女王、卑弥呼が亡くなり大きな墓を築きます。古墳時代の到来です。氷上町北野にあった径42mの大型円墳、親王塚古墳は、4世紀に丹波市域北部に大きな勢力をもった首長の墓です。

青垣町では古墳時代前半、4、5世紀

この頃の竪穴住居は方形で、屋内には小さな竈が設けられます。竈は一辺の中央に設けるのが普通ですが、沢野遺跡では隅にあり、丹後地域との共通性がみられます。

また、ムラの拡大と呼応するように、町内にも古墳が築かれます。青垣町には約50基の古墳がありますが、その多くは6世紀以降に築造されたものと思われます。

発掘調査例は少ないですが、応相寺古墳群では横穴式石室をもつ古墳が7基、かつての段々畑の下に埋もれていました。他町のように何十基もの古墳で構成される大規模な群集墳は見られず、多くは単独か2、3基なのは、やはり開けた土地が少ないせいなのでしょう。

また、中佐治古墳群には竪穴系横口式石室と呼ばれる特殊な石室をもった古墳が1基ありました（5号墳）。日本の墓が、穴を掘って埋葬する古来の方法（竪穴）から、石を積んで築いた部屋に埋葬する朝鮮半島由来の方法（横穴式石室）へと様変わりする頃に見られる埋葬法で、近くでは北但馬や丹後地域に多く見られます。

このように、青垣町では、弥生時代の終わり頃（2～3世紀）の造墓活動（ボラ山）と古墳時代後半（6～7世紀）のムラの拡大に古代人の活発な活動をみることができます。そのどちらの場合も、但馬地域や丹後地域との交流、あるいは人の移動などがあったことが発掘によって明らかとなりました。

（山南町在住、第6号に〈下〉予定）

私の丹波戦国史

ふる里佐治からの視点

芦田敬一

ＪＲ福知山線黒井駅をすぎると、左手の山なみの中に、頂きが切り取られ、平らな山がみえます。あの山は氷上郡志でみた黒井城に違いないと、子どもの頃からそう思って列車の窓の外をみていました。夏休みには必ず父と弟と3人で丹波竹田の父の実家に墓参りにいっていました。その時は、石生から列車にのり窓の景色を眺めていました。「あれこそ、一度は明智光秀を撃退した赤井直正の黒井城の城跡だろう」といつも思いながらその山を眺め通りすぎていました。

この赤井一族を中心とした、丹波勢と織田信長の武将、明智光秀との丹波の天正の戦いは、丹波と但馬の戦いから始まります。私の故郷の兵庫県氷上郡（現丹波市）青垣町佐治は丹波の北端にあり、遠阪峠（とうざか）を隔て但馬に接する古くからの宿場です。

元亀元年（１５７０年）、織田方の羽柴秀吉と丹波勢は、出石の此隅（これすみ）城の山名氏を攻め滅ぼします。その後、但馬に帰ってきた山名氏は、翌年に丹波に侵入し、佐治を焼き払い足立氏の山垣（やまがい）城を攻めます。しかし、赤井一族の応援を得て、遠阪峠で激戦のすえに、追い払い、丹波勢は但馬の竹田城と出石の有子（ありこ）城を攻めます。その為に、但馬の山名氏は織田信長に助勢を頼み、明智光秀との丹波天正の戦いが始まります。

氷上郡での戦いは、天正3年（１５７５年）、赤井（荻野）直正が竹田に軍を構えている所に、明智軍が氷上郡に侵入してくる所から始まります。直正一行は、急遽、黒井に帰っています。天正6年にはいり、撃退させられた明智軍はまず、丹波篠山の八上（やがみ）城を包囲して、その年の12月赤井勢が竹田城を攻撃中に黒井城に向かってきました。このときも、遠阪峠をこえて佐治で策を練り、明智軍を退却させました。

天正7年（１５７９年）5月になると、織田軍は秀吉の弟の羽柴秀長も４０００人で但馬より、氷上郡に侵入してきます。これらの大軍では、小さな城は持ちこたえられません。山垣城をはじめ青垣の城は討ち取られました。保元3年（１１５８年）この地に移住した芦田氏や承元3年（１２０９年）に移住してきた足

立氏は滅びました。また、多くの丹波の神社仏閣は焼き払われました。そして、8月9日には、黒井城の赤井一族は自ら火をはなち落ちのびることになります。

岩屋山はいつも見ている山ですが、登ることはあまりありません。夏休みのある日、近所の子どもどうしで、この山に登ることになりました。その時に、岩屋山には、明智光秀の乗った馬の足跡が残っていると誰かがいっていました。登山の途中、細い道がなくなり、急な岩場になったところで、このあたりにあるはずだという声が聞こえました。しかし、これだという声はありませんでした。

佐治川より岩屋山を望む

大箕山と佐治の山

山頂には、立派な石の階段と、その先には天井に色彩で描かれた絵のあるお堂があり、こんな高い山の中なのにと驚きました。岩屋山の山頂には佐治小倉の岩屋山高源寺の奥の院である観音堂があり、開祖遠谿禅師の座禅松があると言われています。ここには、岩屋千軒と言われる多くの建物があり丹波天正の戦いで焼き払われています。その炎や煙は佐治より眺められたのに違いありません。

天正をさかのぼること100年、応仁の乱は、東軍は丹波守護の細川勝元、西軍は但馬守護の山名宗全が総大将です。

応仁の乱が始まった1467年6月緒戦で数の上で劣勢の但馬の山名勢は、出石に3万という軍勢を集めて、天田郡の夜久野の防衛戦を突破して京をめざします。但馬との国境の宿場の佐治は常に緊張状態であったと思われます。また、山名勢にとっては、重要な場所と考えられます。

翌、応仁2年3月と9月、但馬勢は佐治に押し入り、青梨山に陣を構え、佐治城を築いたようです。佐治の山は、私の家の近くの八柱（やはしら）神社に続く山しかありません。この山は、私の子ども時代よりの遊び場で、この山の何処かに、城跡があるはずと思っていました。八柱神社から、山道を登ったところに、金比羅神社、階段を登ると愛宕神社がありました。そのどちらの社も、昭和30年代に、八柱神社の境内に移築され、今は、更地になっています。

最近ふと思ったことは、愛宕神社の更地裏手の茂みをいれると、この広場はもっと広い土地になり、砦のあとであってもおかしくないということです。ここから眺めると、芦田から佐治、遠阪への道での動きが、人、ひとりまで手に取る様にわかります。

さて、柏原方面より佐治を目指して進んできますと、氷上町の沼地区で左右より山は押し迫ってきます。しかし、道は、山をまわりこみ、急に視界が開けてきます。遠くに大箕（おおみ）山、その前面の山は、なだらかに稜線がくだってきています。その稜線の先端が、先程の、愛宕神社あとです。そして、麓が佐治の街です。ずっと、ずっと昔より、佐治に向かう人たちは、あの山裾を目指して進んできたのに違いありません。そして、私たち、青垣の人間は、この景色をみてやっと故郷に帰ってきたと思うのです。

＊一般には「赤井直正」と呼び親しまれていますが、直正が差し出した書状は「荻悪　直正　花押」となっていて、養子先の荻野姓で通したとのことです。そのため、「赤井（荻野）」、「荻野（赤井）」と表記されることが多いとのことです。

（青垣町出身、尼崎市在住）

父と私の悪右衛門直正像

全国十三名将、波乱万丈の生涯

丹波市文化財保護審議会委員　村上正樹

ＮＨＫ大河ドラマ『麒麟がくる』の主人公明智光秀ゆかりの地ということで今、脚光を浴びている国指定史跡黒井城跡。その城主荻野悪右衛門直正を題材に寄稿させていただこうと思い、書斎で資料を探していると、ふと、万年筆で書きこまれた色あせた原稿が目にとまった。それは見慣れた父の筆跡である。郷土史家でもあった父。何かの下書きのようだ。この小説の主題は…の書き出し。この小説とは司馬遼太郎が書いた『貂の皮』だとすぐにわかった。

羽柴秀吉の命を受けた脇坂甚内（安治）が、単身黒井城に乗り込み、城主荻野悪右衛門直正にその子孫の安全を条件として降伏をすすめるが、悪右衛門はこれに応じず、ただこの若者の勇気と好意を謝して、家伝の貂の皮を贈る。この貂の皮の不思議な霊験で甚内は、次第に大身となっていくことになる。そしてこの貂の皮の奇瑞は後々、数代に渡って脇坂家に伝わっていくといった筋のもので、例によって司馬氏の歯切れのよい文体で書かれている。この中で一番興味をひかれるのは、悪右衛門の人間像を描写している部分であるが、これを抜粋してみよう。

城の奥の病室にいた悪右衛門は、この甚内の大胆さが気に入ったらしい。門を開けさせ、郎党に案内させて本丸の居室で対面した。「これは余程の器量の人だ。」とこの悪右衛門を一目見たとき思った。道具立ての大ぶりな顔で、皮膚は赤く、眉が濃いが両目は婦人のように優しげで、瞼がゆるゆるとまたたいている。

甚内は秀吉に仕え、その主の信長という人物も知ったし、のちに家康とも昵懇（じっこん）になったが、いかにも英雄らしい神韻を

帯びた相貌をもっていたのは、丹波の山奥の豪族であった荻野悪右衛門だけであったと晩年まで語った。

現存する資料には、この悪右衛門の人物なり、風貌にまでふれたものは見当たらないので、これは司馬氏の完全なフィクションであり、主観であることはもちろん理解しているが、私は一度これを読んで以来、その悪右衛門像が頭の中にこびりついてしまった。

父から悪右衛門像をよく聞かされたものだったが、それはどうもこのあたりから来ていたようだ。司馬氏の記述は史実の面は兎も角、地名、人名などの固有名詞なり、近在の地形、地勢などについてはかなり正確である。確かに現在でも比較的資料の乏しい黒井城についてどこで、どう調べたものか、はなはだ興味深い。

小説の中の悪右衛門像はなお続く。

天正六年（1578）二月、まわりの山にはまだ残雪が消えぬころ、この黒井城天守の居間で、悪右衛門直正は疔の熱に浮いた顔で、敵方の脇坂甚内に語り続けていた。

「振り返って思えば、わしの生涯には妙なところがある。この五十年の間、わしはこの丹波の山襞の間にうごめいているばかりで、一度も天下を狙おうと思ったことがない。天下どころか、波多野氏を蹴崩して丹波の国主になろうとしたことすらない。」

なるほど、それは奇妙と言えるかもしれない。『悪』と言われたほどに猛々しい男が、しかも乱世に生まれて一度もそういう野心をもったことがないというのはどういうことか。

「理由は一つだ。人が欲するのは富貴であり、それを望んで身を起こすべく努めるのだが、しかし不幸なことに富も名誉も自分には生まれながらにしてあった。赤井家は山国の小屋形ながら、四百年も続いた家で、氷上郡や船井郡あたりの在所々々ではこの家を尊ぶことは甚だしい。その家の根太も乱世で緩み始めた。わしの兄に兵衛太夫家清という者があり、これが多病な為にわしは兄を援けつつ、家の安堵のため年少のころから百二十度も戦った。兄が死ぬ時、わしにその子の忠家という者を託した。今の赤井家の当主がそれだ。忠家はまだ幼く、わしを天にも地にもかけがえのない庇護者として頼っている。ついつい頼られ冥加にいままでやってきたが、いわばそういう田舎神楽の狂い舞いがわしの一生よ」と司馬遼太郎は悪右衛門にその生涯を述懐させている。

荻野悪右衛門直正は、沼貫（氷上町）後屋城に生まれ幼名赤井才丸。長ずるにおよんで、請われて荻野十八人衆の盟主となって荻野直正と称し、伯父の荻野伊予守秋清を殺して黒井城主となる。自ら悪右衛門を名乗って、戦国の動乱を生き

抜き、天正六年に没するまで、甲斐国の「甲陽軍艦」の全国十三名将に挙げられるほど波乱万丈の生涯をおくった。

この悪右衛門の風貌や人間像を知る直接の資料はないが、残された彼の自筆の書状などをみると、その書体なり花押はまことに豪壮闊達、いかにも戦国武将を彷彿とさせる。また、彼が畢生の力を込めて築き上げた黒井城の遺構は、規模まことに雄大、しかもその中には緻密さと、他に先駆けていち早く近世への城を取り入れていることなどから、彼の軍略家としての進歩性、周到な計画性といった一面をうかがい知ることができる。

しかし、その天性の豪勇、知略に加えて、生涯の彼の支えとなったものは、この丹波で源平依頼四百年続いた家の誇りの上に立った中央集権なり、新興勢力に対する反骨精神と、乱世にあっても頑なまでの信義を守る律義さではなかったかと思われるのである。例えば、赤井家累代の足利家に対する忠節を受け継いで、敢然と、新興勢力の織田氏に抗したことや、波多野氏衰退の時にも盟約を守り、その強大な軍事力を八上城には一切向けず、ひたすら丹後、但馬への勢力の扶植に専念したことや、本家の幼主赤井忠家の庇護者としての姿勢を終生堅持したことなどから、当時の風潮とはほど遠い律義な人柄と、また戦国大名としての実力を持ちながら、世の常の毀誉褒貶には恬淡として終始無位無官、若いころから自らが称した悪右衛門で生涯押し通したことなどから、丹波きっての素性正しい名家の自負と、気骨に満ちた人間像をそこに見出すことが出来ると思うと結んでいる。

では、小説の中の悪右衛門が「田舎神楽の狂い舞いがわしの一生」というが、八上城主の波多野氏が一時期、京に入ったことを悪右衛門はどう思ったか。京を身近には感じなかったか。五摂家である近衛前久の妹を妻として娶ったのは京に入るための、また入った時のための布石ではなかろうか。更に、足利義昭の呼びかけに応じ、毛利氏らと共に反織田勢力として京に入る為の三道並進策の先方を担うなど、京を睨んだ動きを見せていたが、どう思うか等、古びて今にも破けそうな原稿の向こうに浮かぶ父の面影に向かって問いかけた。ふむ、そんなことは百も承知のはずの父である。それよりも、史実と小説のはざまで自分の描いた天晴れな悪右衛門の生き様を、人の生き方の教訓として世に伝えようとしたのかもしれない。

時は移っても、悪右衛門は、今も人々の中で生き続けている。そして、古くは丹波に覇をとなえた赤松家から始まり、戦国時代の荻野、赤井家を経て、苛烈な時代を生き抜いた黒井城跡は雲海の城として今も静かに丹波一円を見守っている。

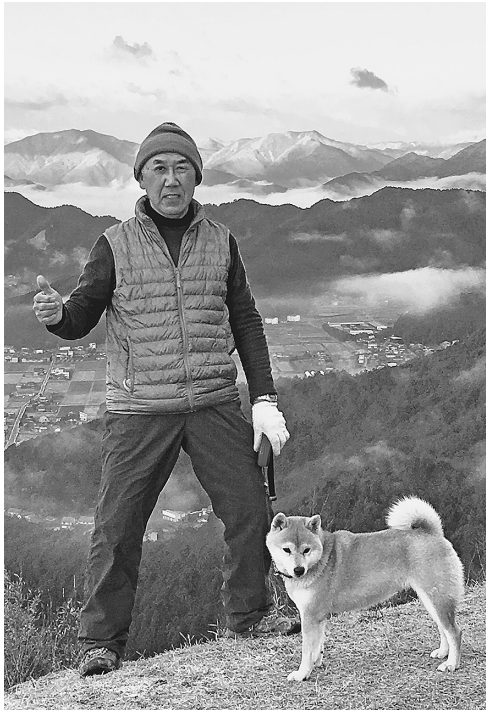
（春日町在住）

愛犬ネネと黒井城山を散歩

1000回の記念写真展も

臼井隆夫

事の初めは2016年、エベレスト街道トレッキングへ行く為の訓練で愛犬ネネを飼って、9月末からリュックに重りを入れて黒井城の城山に登り始めました。我が家から高低差270mを往復1時間半で行け、私の6500歩以上歩く運動とネネの散歩も兼ねています。



大方は朝7時前から登りますから、天気の良い日は多可町の笠形山や千が峰や北の大江山など360度のその時々の季節の風景が見られます。また霧が出ると雲海とブロッケン現象も見えます。春にはワラビも採れ梅雨には絶滅種のササユリが咲き季節が進みます。

今年2月末で足掛3年5カ月で城山散歩1000回となりました。毎日フェイスブックに載せる写真を撮り、ネネと城山散歩1000回記念写真展をコモーレで開いたりして楽しんでいます。

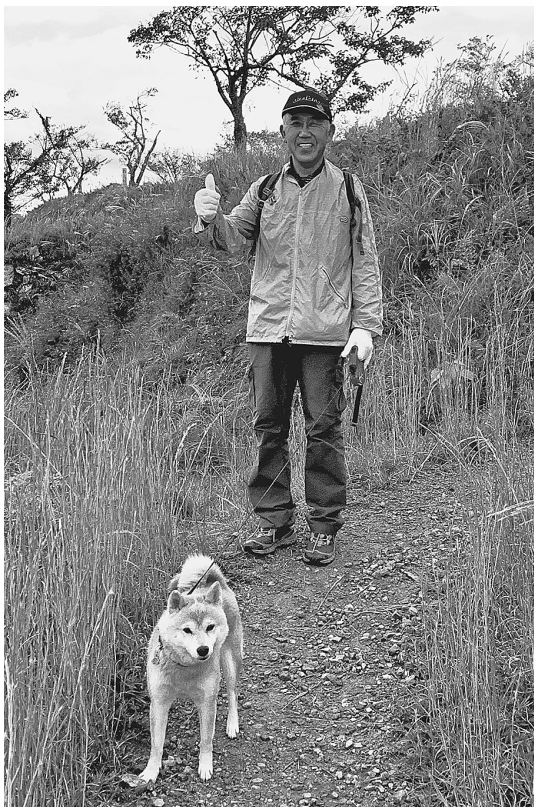
ネネもすっかり城山の人気者となっていて5人くらいがわざわざネネのおやつを持って登り、会えばくれます。その人の鈴の音が人間よりかなり早くから判るみたいでおやつを貰おうと引っ張って大変です。その他の人には知らん顔をしていますが、「かわいいね」と声をかける女の人が好きなようで私に似ています。

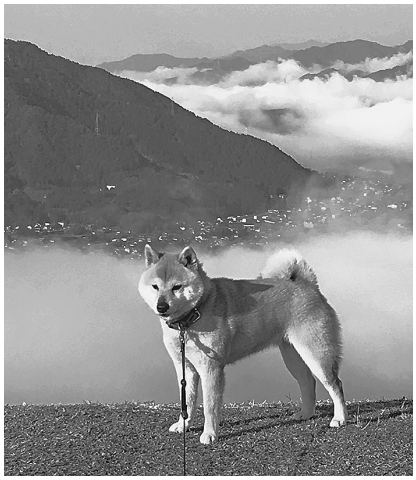
またネネにおやつをやるときには、お座り、お手、（反対の手の）お替り、（食べるのを）待て、よし（食べてよい）は教えていたのですがAMさんが一番先にお回り！を教えたので、この頃は私が頂上でおやつの袋を出すと勝手にお回りを

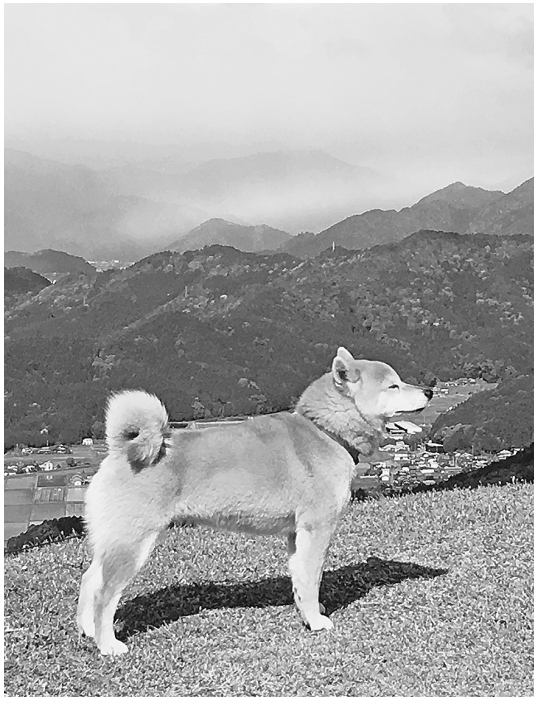
します。ＹＡさんはネネの顎下に手を入れて『アイーン』を教えています。下りのネネは松ぼっくりを見つけてそれを転がし遊びながら下ります。

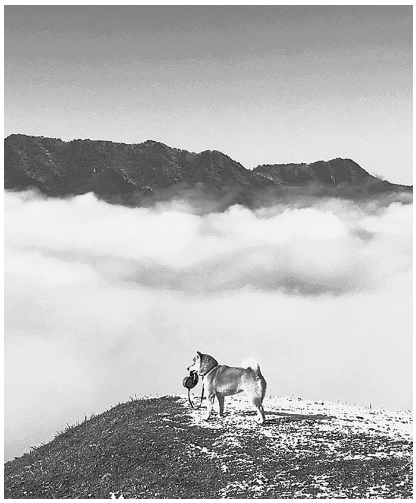
今年は、コロナのため旅行も行けないのでネネとの城山散歩は9割がた出かけ、百姓を頑張っています。どちらも健康に良く毎日を楽しく暮らしています。

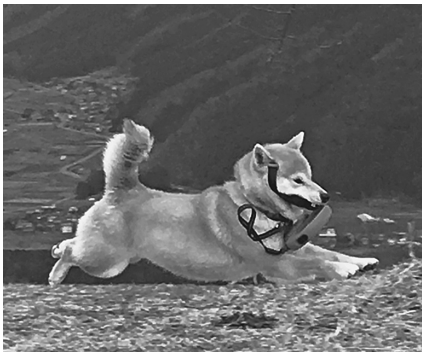
（春日町在住）

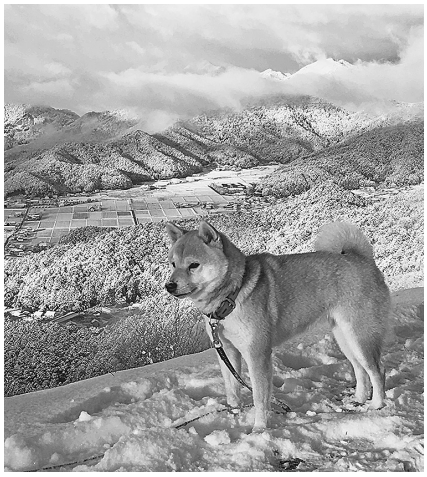












先人の文化遺産、後世へ

地域の有志で推進

上田　脩

私は三十六年間の東京でのサラリーマン生活終え、二〇〇二（平成十四）年丹波にUターンして十八年になりました。故郷・棚原には先人たちが遺した貴重な歴史文化資源が数多く存在していました。それらは神社・仏閣であり、ご神体やご本尊を祀ったお堂・祠、大小の石像物、そして江戸時代から大正にかけての数多くの古文書等でありました。これらの文化資源の歴史、謂れ、存在する理由について、一部のお年寄りの間で語り継がれているだけで、正確な史料として残されていない為、殆どの地域の人たちは知らないのが実態でした。

《棚原パワーアップ事業推進委員会の設立》

氷上郡六町が合併し、新しく丹波市が発足した二〇〇四（平成十六）年に地域の有志十五名で棚原パワーアップ事業推進委員会を立ち上げました。

委員会の目的は「棚原に数多く存在する歴史文化資源を一から調べ直し、保護・継承し、正確に後世に伝えていく「ソナギ」の役割を果たすこと」です

早速、今までお年寄りの間で語り継がれてきた歴史文化資源を正確な史料としてまとめ、お年寄りからの聞き取り調査及び先人が書き残した資料の発掘と内容確認作業に取掛りました。こうして棚原に点在する歴史文化資源をまとめた本「棚原見てある記」二〇〇五（平成十七）年三月一日発行（A五判・カラー九十一頁）発行し、全戸に配りました。さらに、主要史跡に「説明立札」を設置し、史跡

を三コースに分類したマップを作成、秋の文化祭と連携しマップ片手のウォーキングラリーを実施しました。

《神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター様との出会い》

棚原の古いお堂（庚申堂）を調査していますとたくさんの古文書が保管されているのが見つかりました。これは我々には手に負えません。思案していました折、丹波市教育委員会主催で二〇〇五（平成十七）年十二月に丹波の森公苑にて「県政資料館セミナー」が開催され、受講しました。講師は神戸大学大学院人文研究科地域連携センターの松下正和先生でテーマは「柿柴文書」についての解説でした。早速、丹波市教育委員会を通じてご紹介頂くと同時に翌年一月に私が直接神戸大学を訪問の上、協力をお願いしました。

そして二〇〇六（平成十八）年二月八日に棚原公民館において丹波市教育委員会、神戸大学地域連携センター、棚原パワーアップ事業推進委員会三者連携による「棚原歴史文化研究会」が発足しました。

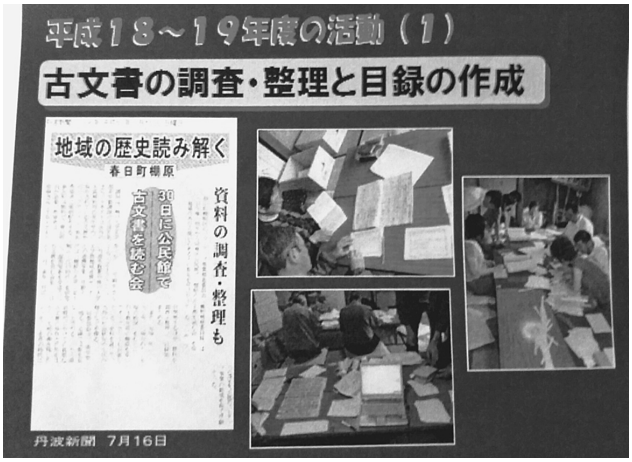
研究会のテーマは「棚原区有古文書の調査・研究・解読及び、目録づくり」

神戸大学地域連携センタースタッフの皆様より古文書の取り扱い方、調査方法、目録取り等の基本的なノウハウを伝授して頂きました。古文書調査の基本は目録取りです。作業は改めて古文書をざっと読み、内容を把握して表題をつける、文書を書いた人と、宛名が分かる場合はその人、年代、文書の形、はんこの押された原本なのか、そうでないのか等詳細にカードを取り、それを委員がパソコンに入力しました。カードを取る作業はとても時間と根気が必要で、特に古文書を読んだ事のない我々委員にとっては大変苦痛な作業でした。

そして、二〇〇七（平成十九）年度に棚原自治会所有文書約千点の目録を取り終えました。最も古いものは今から約四百年前一六二七（寛永四）年のもので、新しいのは一九二〇（大正九）年です。

尚、現物の古文書は、出来るだけ長く保管されるように、神戸大学地域連携セ

ンターから中性紙の封筒と中性紙の箱の提供を受け、その中に納めました。



幸いにも、二〇一〇（平成二十二）年に棚原公民館が建替え新築され、その中に保管場所として「資料室」を作っていただき、保管しました。

《棚原の財産・区有古文書を整理して学んだ内容例》

文書の中には亀山藩からのお触れが沢山あります。農業に精を出し、家造りや冠婚葬祭は軽くせよとか、絹羽織などは着てはいけないとか、日常生活を細かく定めています。その一方で、遊芸師を逗留させて百姓の者が習い事をしているとしてこれを禁止した定めもあります。禁止する法令から逆に百姓といえども俳句や謡など文化に親しんでいたことが分かります。このほか、山の利用の取り決めや、虚無僧が来村して寄進を再三要求するため、虚無僧の元締めである京都・明暗寺にまとめて納入するかわりに虚無僧の村への立ち入りを禁止した明暗寺からの定めなどもありました。

その他には田畑の所有者と面積・生産高を測量した台帳である検地帳や名寄帳、長谷村（今の国領）との山の境界争いの史料、棚原の鎮守さん天満神社の縁起書、神社の歴史等貴重な史料が沢山ありました。

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター様と連携して十四年が経過しました。会議の回数も百四十回を超えました。今後もご指導を頂きながら、くずし字で書かれている古文書を翻刻、読み下し、現代語に訳し、先人の遺した貴重な文化遺産を後世に伝える活動を続ける所存です。

（春日町在住）

印象派の芸術家との出会い

パリの古い街に求める

西洋美術研究アートキュレーター　中川真貴

イタリアに住み始めて早くも27年になる。ヨーロッパ在住の醍醐味のひとつは、簡単に欧州各国を訪問できる事だと思っている。金曜日の仕事の後、今週末は音楽会の為にウイーンへ、来週末は友人の結婚式のためにロンドンへという事も可能だ。

なかでも訪れる人々を魅了するパリは、私も仕事柄行く機会が多いが、いつも新たな発見や驚きを与えてくれる。裏通りに入り込むと、タイムスリップしたような小径や屋根付きの小さな商店街パッサージュがある。そこにあるカフェでは、各時代の芸術家、哲学者、文学者達の高揚した騒めきが聞こえるようだ。隣で新聞を読みながらカフェを飲んでいる男性も、グラスワインを片手に物思いにふけっている女性も、どこか著名なる芸術作品に登場したモデルに似ている。

フランスの芸術というと何が思い浮かぶだろうか？　日本人に限らず、世界中の人々を魅了してやまない印象派の作品だろうか。「ひまわり」で有名なゴッホ、「睡蓮」のモネ、生命力溢れる愛くるしい子供や女性達を描くルノワール、少し歪な静物画のセザンヌなど、枚挙にいとまがない。

日本では印象派の展覧会は長蛇の列ができ、ゆっくり自分のペースで見る事もままならないほど混み合っている。私は、なぜ日本人は印象派に惹かれるのだろうか、人々を魅了する印象派はいつど

のように生まれたのだろうか、そのような思いを巡らせながら、パリのカフェで道行く人達を見ている。

印象派の作品のほとんどは光り輝き健康的で明るいが、そんな作品からは想像できないほど、当時の画家たちを取り巻いていた環境は厳しく、多くは貧困生活の中にあった。当時のフランス芸術界は、ルイ14世の時代（17世紀）にシャルル・ルブランらによって設立された芸術アカデミーの古典主義に縛られていた。題材も歴史、神話、肖像などが良いと考えられていた。アカデミーは排他的であり、新しい動きを容認するメンバーはいなかった。そうした中、芸術アカデミー主催の官展（サロン）に反発する若者たちのグループが生まれた。彼らが、のちに印象派と言われる芸術家たちだ。もちろん印象派の前には写実主義やバルビゾン派などの先駆者がいた。印象派は、特に野外で実際に見た光景を光と色彩の効果を用いて描いていった。市井の人々の生活、例えば友人との集まり、ダンス、レジャーを楽しむ週末といった日常の幸せの瞬間を描いただけではなく、アカデミズムの画家が目を向けなかった階層の人々の尊い生きる喜びを描いた。こうした人々の喜怒哀楽のさらに奥深い心理的内面を表現したことが、我々を魅了する理由ではないだろうか。

パリ北東部、モンマルトル近くのバティニョール地区は家賃が安かったので、多くの印象派の芸術家たちが住んでいた。１８６０年代にはバティニョール通りにあったカフェ・ゲルヴォアで、マネを中心に、モネ、ルノワール、セザンヌ、ピサロ、また作家のエミール・ゾラなどが活発に芸術論を論じていた。彼らはバティニョール派と呼ばれ、ここから印象派が誕生することになる。この地区はパリ北東部17区にあり、今でも治安はいいとは言えないが、芸術家達が多く住んでいて古き良きパリが残っている。そんな街を歩いていると、また一つ心ときめく出会いがある。

（山南町出身、フィレンツェ在住）

街角のアート作品

「地域通貨」という選択

環境にやさしい共生社会

元NPO法人丹波まちづくりプロジェクト理事長　赤井俊子

昨年9月、地域通貨国際会議（RAMICS）で「地域通貨：未杜（みと）について実践発表する機会を得ました。地域通貨：未杜（みと）は2001年、我が家の離れで数人の仲間と共に「新しいコミュニティを創造する会（後、NPO法人丹波まちづくりプロジェクトに改名）」として立ち上げ、最大会員数150人～最少会員数60人と変化しつつ約20年間続いた丹波発の地域通貨です。

カナダのLETS創始者リントンさんと

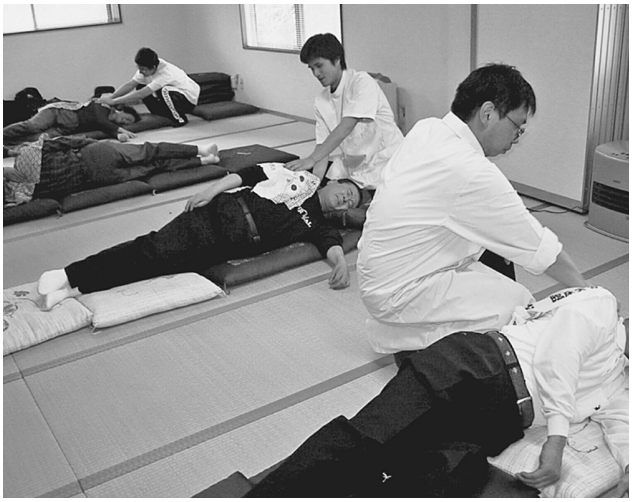
RAMICS地域通貨国際会議の日本代表である西部忠教授によると国際会議が大都市でなく、飛騨高山という地方で開催されるのは、この地で地域通貨が定着しているという理由でした。その西部教授に地域通貨「未杜（みと）」の実践発表をするように言われ国際会議で発表することになりました。

会場に入ると、何度か我が家に調査に来られた先生方の一人が受付で声をかけて下さいました。当地の地域通貨と資料を頂き、その通貨で支払いをしてレストランで昼食をとりました。隣にウクライナ大学教授がおられ、早速互いの地域通貨について情報交換をしました。

発表のため分科会に入ると、アメリカのハドソン川流域地域地方の男性による発表でした。

私は内容をどういう順序で発表するか最後まで迷っていましたが、つたない英語で説明するよりビデオを写すほうがよく分かってもらえると思い、まず朝日広告社に作成してもらったビデオを写しました。上映後、未杜（みと）の概要を説明、そして数人から質問を受けて無事終了しました。

柏原厄除祭で会員が高齢者を案内



盲学校訓練生に会員がマッサージしてもらう

ご存知の方もあると思いますが、地域通貨は限られた地域やコミュニティで使える「お金」です。補完通貨とも呼ばれ、日銀など政府が発行するお金「円」と違って参加者の信頼と連帯で成り立つ交換手段としてのお金です。一瞬にして大富豪にもなれる投機的なお金ではなく働き分に応じて得るお金です。自分ができる事でその地域通貨を手に入れ、その通貨を支払って自分が必要とする物やサービスを手に入れるのです。

地域通貨を知るきっかけになったのは「エンデの遺言：根源からお金を問う」（日本放送出版協会）でした。いろいろリサーチしていくうちに、地球規模で深刻になる環境問題や、地方衰退の解決の糸口としてもよいシステムだと思いました。

私達の日常生活を見渡すと、自然環境が心豊かな生活の要素であることには気がつきにくいけれど、経済発展による物質的な豊かさは実感しやすく、どうしても経済発展を優先しがちになります。そんな中で環境に配慮しつつ地域で共生する手段としての「地域通貨」はすばらしいツールだと思えました。地域の人々の多様な技術や能力を生かす機会を創造すると共に、環境負荷の大きい外国からの輸入でなく地元の農産物を地元で消費し、人々の生活を守る地域通貨を発行したいと思いました。

運営を始めるに当たりカナダのバンクーバー島コートニイーに渡り、物や

サービスを交換できる地域交換取引システム（Local Exchange Trading System）LETSの創始者、マイケル・リントンさんを訪ね話を聞きました。その後、「イサカアワー」という地域通貨が定着しているニューヨーク州イサカに行き、運営委員長のステファンバークさん、地域通貨が使えるスーパーマーケット経営者のジョンさん、イサカアワーを始めたポール・グローバーさんにも出会って学びました。

帰国後、仲間5人と我が家の離れでスタート。「人権・環境・共生」をコンセプトに年4回の未杜（みと）新聞の発行、月一回の未杜（みと）井戸端会議の開催などで参加者は増えていきました。

地元の有形無形の資源（social resources）を循環させることで地域の経済、ひいては地球環境を守り、人々の能力を活かした仕事のチャンスを創り、共生の道を探りたいと思いました。

郷友会会報4号に岩槻邦男先生の寄稿文：「『自然との共生』刻み込む」の中に「……今日の暮らしの豊かさのために未来まで犠牲にして平気でいる現実がある。」とあります。スエーデンの少女、グレタさんは、「私たちの未来を奪わないで」と叫んで環境保護を訴えています。これらに思いを寄せると、環境破壊に進みがちなグローバル経済中心でなく、地域資源を活用する地域通貨は優れたツールだと思えます。

20年足らず続けた地域通貨の活動ですが、体力的に負担になり、やむなくNPO法人を閉会し個人として退会しました。その後、会員さん有志は煩雑なNPOでなく、サークルとして未杜を続け、また若い人たちはデジタル未杜としてイベント等で使用されています。

時あたかも新型コロナウイルスパンデミック。人と人との接触、交流が新型コロナ拡大の要因とされ、グローバル経済は危機状態、インバウンドでの経済成長も危うくなっています。コロナ後の社会の予測は不確実ですが、需要が増すと思えるオンライン中心のグローバル経済と共に、地域の経済を守り自然との生活を楽しむツールとして、地域通貨という選択肢もあると思える今日この頃です。

最後の木が枯れ、
最後の川が汚染され、
最後の魚が捕らえられた時、
我々はお金は食べられないことを悟るだろう。
（ネイティブアメリカン・クリー族の言葉）

（氷上町在住）

或る年代の青春群像

造船所養成工学校の精鋭たち

医療法人社団赤松医院理事長　赤松暉久

私は大学医学部に入学して医師の道を目指す前、昭和25年に新制中学を卒業後、家庭の事情で三菱神戸造船所の養成工学校で働き学ぶ傍ら定時制高校に通った。70年前の青春時代を振り返ると共に、80代半ばの私達の世代が終戦を挟んで10数年、どのような環境でどのように生活し、教育され、辛苦を乗り越えて日本再興に奮闘したかについて、思うことを述べてみたい。はじめに、養成工学校終了50年の節目に開催した同期会での委員長の挨拶から。

「皆様、本日は本当によくお集まりくださいました。今年は、皆様方が三菱神戸造船所の養成工学校を終了されてから50年……実に半世紀の節目に当たります。従いまして、本日ここにお集まりの方々の中には、半世紀ぶりに再会した友人も多々おられます。

我々がこの神船の養成工に採用されたのは、敗戦の混迷とショックが未だ治まらず、バラックばかりで住む所なく、着るものはおろか三度の食事にも事欠いた、あのみじめな超貧乏時代！　……高校進学率が未だ20％に達せず、中卒で就職するのが当たり前であった昭和25年の春でありました。当時は未曽有の就職難で、中卒で職に就くにも働き口を見つけるのが困難で、女工、大工の弟子、菓子屋、豆腐屋の下働き、商店の店番、役場の小使い、下町の工員などといった選択肢しかありませんでした。其れとて安い報酬にも関わらず何倍かの競争になったものです。そうした時代に〝3年間、給料を与えながら工業高校に準ずる教育を施し中堅社員を育成する〟寮完備、三食

保障〃と云った条件の三菱神戸造船所養成工の職安経由の募集は光り耀いていました。〃学業成績全学年で10番以内の心身ともに健全な者〃という厳しい応募条件でしたが、全国の採用試験倍率は書類選考を含めて平均20倍を超えていたそうでございます。

昭和25年組の養成工が如何に優秀な集団だったかということは、神船の人事教育課で永らく語り草になっていたそうでございます。養成工を終えてからの皆様のご活躍、多方面に亘る輝かしい業績がそれを如実に証明している処でございます。

神戸市街もまだ焼け跡にバラック建築、闇市が全盛で、我が岬寮のある和田岬から兵庫駅周辺などは未だ一面瓦礫のままの有様で国鉄の高架が大蛇のように延々と西へ伸び、高取山が富士山のような独立峰に見えたものです。しかし、何か沸き立つような活気が漲っていた神戸であり、和田岬界隈の神船、職場周辺でございました。

そうした混沌の時代に、全国の地方の中学校から80数名が縁あって岬寮に集まり、3年間同じ釜の飯を食い、働き、勉強し、遊び、時にはケンカもし、多感な青春期を過ごしたものでございます。

顧みれば岬寮の3年間は、我々の青春の原点そのものであり、人生の大きなターニングポイントの一つであったと実感する次第でございます。

その神船の養成工制度も、高度成長で豊かになり高校への進学率が90％を超えるようになると、良質の中卒就職者の確保の困難等から、昭和44年修了生を以て打ち切りになっております。制度開始以来の養成工修了生は３２６０名に及び、高い技術の三菱の伝統を受け継ぎ発展させ神船の屋台骨を支えました。

しかし、あの焼け跡に4棟並んで赤瓦が光り耀いていた我らが岬寮も解体されて流体力学研究所に建て替わり周辺は高層建築群、当時を偲ぶものは、何一つも残っておりません。

幹事の数か月に及ぶご尽力で、近畿一円、いや全国に散らばっている皆様の住所を調べて名簿を造り、案内状を差し上げました。殆どの方に連絡が付き、40名を超す賛同参加者がここにご参集下さいました。

半世紀ぶりの邂逅、再会！　50年前の紅顔の美少年今何処といった処ですが（笑い）あのころにフェードバックしてお互いの顔を確かめ合い面影を見出して、歓談し、様々な思い出を語り、あれから後の人生、現在の生き甲斐将来像など、胸襟を開いて旧交を温め、友情を再構築して頂きたいと、切に願うものであります……」

終戦から数えて75年の今、統計によると戦後生まれの人口が80％を超えたそう

である。いわゆる戦争世代が減り続けていて、あの悲惨な体験、記憶が歴史の彼方に忘れ去られようとしている。そこで、私達の世代が終戦を挟んで10数年、どのような環境でどのように生活し、教育され、どのようにして辛苦を乗り越えて日本再興に一臂の力を貸したかを、短い世代の限られた一断面にすぎないかもしれないが、一庶民一団体の歴史の証言者として書き残しておきたい。

物心ついた時すでに、世間は軍事色一色だった。巷には軍歌があふれ、〝欲しがりません、勝つまでは〟。〝撃ちてし止まむ〟〝贅沢は敵だ！〟といった標語が街のいたるところにべたべたと張ってあった。幼稚園児の時、紀元２６００年の祝典が全国的に挙行され、挙国一致を鼓舞する、華やかな提灯行列にも参加した。現人神（あらひとがみ）とされる天皇は陸海軍の大元帥陛下で絶対の存在であり、我々はその赤子（せきし）（忠実な臣民）であった。国民皆兵の合言葉の下、徴兵制度が敷かれ、全ての健康な成人男子は兵役に就く義務があり、天皇のため国のために死ぬことが当然であり名誉なこととされた。そのことは繰り返し、繰り返し幼い身にも畳み込むように教え込まれ、当然国粋的な軍国少年に育っていった。

昭和６年、満州事変が勃発、ドロ沼の15年日中戦争に発展しつつあった昭和９年に私たちは生を受け、国民学校一年生の昭和16年12月８日、対米英との大東亜戦争（太平洋戦争）が勃発、五年生11歳の20年８月15日、完膚なきまで叩かれた敗戦で終結した。

最後は非人道的な原爆を二度まで落とされ、我が国の主要都市の80％以上が爆撃で焦土と化し、三百万人以上の犠牲者を出して終結したのは周知のことである。産業はほぼ１００％壊滅し、一般国民は食住、衣に究極の困窮を極めた。日本中焼き尽くされ、働く処がない。住む所がない。食料は統制と配給の欠配で一部の農家、特権階級以外殆どが飢餓状態であった。預金封鎖、超インフレ……

欧米は、日本は数百万人餓死者を出すだろう、と予測していたが、そうならなかったのは働き手を失って疲弊していたとはいえ豊饒な土壌の農村部の底力であり、アメリカが放出してくれた余剰農産物のおかげであったろう。アメリカ占領軍は、トウモロコシ粉、大豆糟（大豆油の搾り滓）脱脂粉乳、（今にして思えば、家畜の飼料）などを数年間、大量に供給してくれ、それと供出させた国内生産の限られた米、麦を少量ずつ配給し辛うじて餓死者を防いだ。食料中心の非合法な闇市が林立し庶民は農魚村部に買い出しに励んだ。配給だけでは生きて行けないからである。昭和22年、「正義派の40歳台の地方判事が法は順守すべきと、闇物資を手にせず配給だけでの生活を送って

いたが栄養失調で逝去した……」というニュースが話題になったのを覚えている。

その頃の我が家の生活を思い返すままに書き記していく。

父は海軍将校だったので、私は鎮守府のある呉で生まれ横須賀で育った。父は連合艦隊の第一線、戦艦扶桑、伊勢に乗艦していて、或る海戦に参加して手痛い目にあっているが、敗戦時は高松宮殿下と共に、横須賀海軍砲術学校の教官として奉職していた。浜に大きな軍港、ドック、軍需工場を抱える横須賀は当然爆撃の標的となり、市街地にも艦載機が飛来して無差別に機銃掃射してくるようになった。昭和19年5月、敗戦の前年、母と子供五人命からがら、殆ど身の回りの物だけ持って、本籍地の丹波へ疎開した。幸い一家で満州に移住した農家の空き家があって、そこを借りて住めることになった。

翌年8月15日終戦、米軍進駐のもと混沌とした状況の中で戦後処理に身を尽くしていた父が、11月復員してきた。B級戦犯、公職永久追放という烙印を背負って着の身着のままの窶れはてた姿であった。

翌21年春、満州から家主一族8人が引き上げてきて、我が家7人は借家を明け渡さざるを得なくなった。仕方なく、その家の隠居所六畳、二畳の二間に仮住まいさせて頂かざるをえなかった。2年後ようやく手に入れたもう六畳一間ある茅屋に転居できたが、住環境の劣悪さは半端ではなかった。

超インフレ、預金封鎖、食糧難……政府は一日成人米二合半の配給を約束したがすぐに反故にされ、欠配無配が続き、田舎においても餓えに苦しむ事になる。校庭も全面サツマイモ畑となり、少しでも空き地があればカボチャを植えた。誰もかれもが毎日の食料探しで必死の思いで暮らしていた。イナゴ、タニシ、川がに、ふき、セリ、ノビル、嫁菜、ワラビ、ゼンマイ、野ブドウ、サツマイモの茎など野原、山川の食べられるという物は何でも、水のように薄いおかゆに刻んで入れ込み、嵩を増やして食べた。時には何日も米が手に入らず、トウモロコシの粉の雑炊に賽の目切りの甘藷、ジャガイモ、カボチャ、くずダイコン、ニンジン、豆かすなどを入れ込んだ物が主食だった。嫌なのは弁当の時間……周辺の農家の子は米飯にオカズのそれだが、我々疎開っ子はふかし芋、トウモロコシ粉のべた焼きといった所謂代用食である。当時、超インフレの中でも、食料品がいかに高額だったか、父の山仕事の日当が40円の時、ヤミ米が一升１００円以上したのである。

闇で買い出しに行っても、お金では分けてもらえなくなり、いきおい物々交換ということになるが、一年で着物、服、

カメラ、蓄音機など処分して丸裸状態、父の最後の三つ揃いの背広も姉の通学用の中古の自転車に化けた。

公職追放の父は、森林組合の山仕事の日雇い、炭焼きの手伝い、キャンデー売りなどで日銭を稼ぎ、母は炭俵編み、裁縫、編み物等の内職で家計を支えていたが、昭和25年、どうしてもやって行けなくなり、家族会議の上、姉は高女4年で中退して日紡績貝塚の寮に入り、私は中卒で就職することになった。ある公的団体が高校三年間の奨学金を支給するという申し出があったが、学資の援助をして頂いても生活できないのだから、口減らしで家を出ざるを得なかったのである。

こうした経緯で私は神戸三菱造船所の養成工に採用されて入寮して工員養成学校に通うことになった。

和田岬に四棟、櫛の歯状に、渡り廊下で繋がった本格建築の赤瓦の岬寮は周辺のバラックの中でひと際輝いていた。街路を隔てた向かいは高名な和田岬神社で広大な境内は焼け野原、残った大きな鳥居と仮神殿が隅の方にぽつんと建っていた。寮から会社までは市電道路を隔てて百メートルばかり、始業終業のサイレンが寮の端まで聞こえた。八畳の部屋に4人宛、それぞれに半間の布団、私物を入れる押し入れ、その他は何もない。2棟と2棟の間に食堂と自習室を兼ねた講堂、続いて奥に大きな風呂場があった。高校生と同様の黒の詰襟の制服、制帽で頭は丸刈り、7時舎監のベルで起床、消灯は9時、勉強は24時間明りが点いている自習室ですることになっていた。

全国から集まった80数名の寮生、神戸市内で採用された40名の通勤生が大講堂に集合し入社式が行われた。

「……諸君は全国から難関を突破して採用された将来の職工、技術者のエリートであり、わが社の屋台骨を支えるべき若者である。三年間の厳しい養成工過程を乗り越えるべく、骨身を惜しまず努力してください。

……最後に一言注意を喚起しておくが、わが社は入社時の学歴が絶対でありその後に得た学歴、資格が、昇進や報酬に加算されることは決してない。入社後社内で獲得し習熟した技能の熟練度、勤勉度のみが昇進の目安になる。従って養成工諸君が夜間学校、定時制高校に通うのは、推奨しない。いや、それは決してしないで頂きたい。過労で健康を損ない脱落するのが目に見えている……」

同じような制服制帽を着せられて集められた我々は十五歳の少年工として企業に就職したのではなく、あたかも高校に進学したような錯覚に陥っていたが、斯かる校長(教育課長)の入社式での訓示は我々に冷や水をかけ、現実に引き戻した。

三か月、半年と在籍するうちに、企業が我々養成工に期待し要求するものがはっきりと見えてきた。会社の人事は大学卒、

高専卒、工業高卒、高校卒、中卒と云ったピラミッド型のヒエラルヒーでがっちりと形成された学歴重視偏重の組織であることが良く分かってきた。中卒で入社した養成工は、技術を習得して熟練工になって企業に貢献することが期待され要求されている最下層の一兵卒なのである。定年まで勤勉に勤め上げてやっと、係長、技師補になるのが関の山であるのに、大卒なら入社数年で技師であり係長であり、年功序列で昇進してゆく事が約束されているが、養成工にはそれがない。進学したくとも諸事情で叶わなかった者が高校へ行く代替にと選んだ大企業の養成工はただのボットムの熟練工養成所だったのである。

どのようなバックグランドの少年が全国から集まってきていたか、岬寮8号室、私と同室になったのは、I君：小豆島出身、満州からの引揚者、父親は戦死。S君：岡山出身、神戸長田で焼け出され田舎に疎開。T君：ある鉄工所の息子、養子として育ったが継母に実子が生まれ、身を引く形で家を出た。……その他、戦犯で巣鴨プリズンに収監中の陸軍中将の息子、母子家庭、寮生に関しては殆どの者が、私と同じように曰く因縁の事情を背景に持ち、高校進学の代替として養成工を選んだ者がほとんどだった。皆それぞれに優秀で向上心が強く、三菱に入って平職工で生涯を終えるつもりだと思っていたものは恐らく一人も居なかっただろう。入社時の校長の訓示で内部昇進制度が無いのを知って、将来に望みはないと判断した何人かは辞めて郷里へ帰って高校進学する道を選んだ。その年の夏、寮内で、研究科配属の秀才が一人、青酸カリ自殺をして我々に大きなショックを与えた。

午前は教育課の教室で授業、午後は作業服に着かえて実技実習の毎日である。数学、物理、化学等理系科目に力点が置かれ、機械の要素、造船造機学、製図……等学んだが、製図には悩まされた。機器、船舶など課題の決まったものを、縮尺で正確に平面図、立面図などの図面を画くのだが、その宿題を貰うと、余暇に2～3時間かかる。会社の反対を押し切って定時制高校に通っていたので、製図にかまけていると大学受験の普通学の勉強が疎かになる。お前の製図はマンガだ、と出来の悪いものの代表で度々張り出された。

兎に角、会社は定時制高校に通うのを嫌がり、陰に陽に妨害した。定時制高校、それも普通科に通うことは、会社に永年勤続するつもりがない、退社予備軍とみなされるのである。養成工の学年席次が三桁になると、会社をやめるか定時制高校を退学するか、二者択一を迫られたこともある。全体の七割以上が定時制高校に通い始めたので会社も嫌悪感を顕わにしながらも黙認せざるを得なかったのだ

ろう。最低に近い勤務評定、三桁の席次の私を三菱は、食住を保証して四年間在職させてくれた。

〝三菱神戸一万の〟……と社歌にあったように、あの焼け残った和田岬の神戸造船所に約1万人の従業員が働いていたが、昼は完全給食だった。外米で吉野家の牛丼のようなごった煮が多かったが腹いっぱいになる量があった。あの食糧難の時代に、会社はどのようにしてあれだけの食材を確保し、毎日一万人もの賄が出来たのか、田舎でお粥と代用食しか食べられなかった私には、今もって謎であるが、実に有難たかった。

4年間在職し定時制高校も並行して卒業、大学入試に合格したので学資のあても生活の目途も立たないまま、見切り発車で会社を退職して医学部に進学した。会社が危惧した通り、定時制高校に通ったものは1〜2年遅れも含めて国公立の大学に合格し、続々会社を辞めていった。辞めずに大学の二部に通い、外交官試験に合格して外務省に入り、ある東南アジアの国の公使になったものもいる。某大法学部を経て大手銀行の頭取になった者、医師を選んだ者、中でも圧倒的に多かったのは教育学部を経て教職に就いた10数人である(当時教育学部だけ奨学金制度が手厚く、受領年数の1、5倍奉職すれば返済免除になる制度があった)。防衛大を経て将官になった者、変わり種としては、大学二部で共産党に入党して幹部になって名を馳せたものもいた。

頑なに、入社時の経歴しか認めないと宣言していた会社も、遂には内部昇進、内部選抜制を採用せざるを得なくなり、残留した者のほとんどが技師、課長、部長となり、中には大卒を抑えて原子力発電所の所長になった者もいた。世界技能オリンピックで溶接、旋盤、フライス盤、木工等の部門で何人もの優勝者を輩出していた。

この同期会で私が胸を締め付けられるほど感動したのは、殆ど全てが、自分の子弟を著名な国公立大学、名だたる私大を卒業させていて、一流企業に就職させていることだった。中卒の学歴を背負い、肩身の狭い思いをして苦しんだわが身の轍を子供には決して踏ませないぞ……という堅い決意と意地が子弟教育に込められているのを痛いほど感じた。〝皆、やったなあ、オトコだなあ〟……、方々でハグし握手して目頭を熱くする光景がみられた。〝七つの海を行く船に、憧れ寄りし若人の、友垣かたきこの誠、輝く我らが岬寮〟……散会の時の岬寮歌斉唱では皆、泣いた。

この男たちが瓦礫からの戦後の奇跡の復興を果たして、高度成長をもたらし支えたのである。

（春日町在住）

犬童球渓を訪ねて人吉へ

柏原の「旅愁」歌碑に促され

桑村文子

夫の従兄弟の家は、氷上町上新庄にある。その家族は皆関東の方に暮らしている。家を世話する者が無く、屋根も風雨に晒されて、雨漏りもして来た状態を見て、昔は家族の団欒があり、横の小川にはサワガニがいたりして随分と楽しい生活があった筈だったのに。犬童球渓の〝故郷の廃家〟♪ いくとせふるさときてみれば……あれたるわがいえにすむひとたえてなく♪ この歌のとりこになっていた。

さて、私の家は専業農家、高度経済成長時代の頃で、農地を埋め立て、工業団地を造ることになり、私共はその代替地求めて、石生の住宅より17キロメートル離れた、市島町中竹田に田畑を購入したのです。今は、息子夫婦と一緒に農業をしています。旅行が趣味で、農閑期は、あちこち旅をしてみて、気になるのは、やはり住む人が無く、空き家が多くなったことです。

新聞で犬童球渓のことを知り、人吉市に行きたいと計画し、下調べに柏原の観光案内所を尋ねた。そして、黎明館の前に建った旅愁の歌碑の所へ行きました。りっぱな歌碑が出来ていて、スイッチを押すと歌声が流れる様になっていました。それから、〝旅愁〟と〝故郷の廃家〟は、農場へ通う間によく口ずさむ歌になりました。世の中が新型コロナで騒がれている時だが、観光地が予約をキャンセルされて困っているというニュースを見て、「今行こう」と私達の結婚記念日（53

球渓記念館で（中央筆者）

回目）3月26日に決定。それでも人吉市まで800kmを一気に行こうとしたら……。結局12時に出発した。途中、下関近くのSAで朝5時頃に車中で一眠りをした。

そして、福岡の博物館に立ち寄り〝漢の倭の奴の國王の印〟や黒田節に出てくる槍等の展示物を見て、次は熊本に向かって、下道で景色を楽しみながら走る。途中通潤橋があるので立ち寄ったが、橋は熊本地震で崩れ、修理中で登って見ることが出来ず、そこの観光案内所で、放水の様子を写真で見たり、話を聞き、人吉に行く道も教わりました。美里町を通り、二本杉峠を越えるコースで、「途中道も狭いし曲がりくねっていますよ。」と聞いたけれど、いろは坂どころではない険しい峠でした。そして、五木の子守歌の五木村に入る。今度は下りだが、やはり曲がりくねった道が続く。

♪おどま盆ぎり……盆がはよーくりやはよもどる♪　小作人が年貢がわりに、10歳くらいの子どもが人吉に奉公に出された時の唄を歌いながら走る。深い山は山桜が美しかった。ホテルは、鍋屋本館人吉城の近くで球磨川も流れていて、昔からの老舗旅館。5時頃着く予定が、早く着いたので、人吉城公園にも犬童球渓先生の歌碑があると聞いたので、資料館の駐車場に車を止めて、歌碑の所へ。立派なお城の石垣のそばにあった。5時頃鍋屋さんについた。

夫はとにかく人と話すことが好きで、すぐいろいろな情報を仕入れてくる。聞くところによると、犬童球渓記念館も休館しておられる様だとのこと。鍋屋の息子さんが女将さんに相談されたのか？夕食の時、女将さんが部屋まで地図等を持ってみえ、管理されている鶴上さんの電話番号も教えて頂きました。朝8時過ぎに鶴上さん（犬童球渓先生の孫）に電話すると、「そんなに早くですか？」と言いながら心よく「開けます。」といってくださいました。

ホテルからはとても近くで、記念館は住宅地でしたが駐車場もあり、少しの間待たせていただくと鶴上さんと娘さんが来られて開けて下さり、中の展示物の説明や当時使っておられたピアノも見せて頂きました。その頃、鶴上さんの奥様も見えてご一緒しました。「ピアノを弾かれる方は弾いていいですよ」とのことでした。

ピアノのある部屋には、松岡次賀画伯の描かれたピアノを弾いている犬童球渓先生の横からの姿の額も飾られていました。お茶を戴きながら、隣の部屋で、犬童球渓先生の生涯のお話を聞かせて頂き、その中で（故滝廉太郎先生を憶う）という題で犬童球渓がラジオ放送（昭和12年）され、録音されたのもがあると、それを聞かせていただきましたが、音声が古く聞き取りにくかったのが残念でし

たが、声から想像すると、大人しい真面目な方という印象でした。それから旧制柏原中学校赴任の話になった時、中学校の校歌（犬童球渓作詞）を鶴上さんが歌って下さった。

♪麻の如く乱れつる　世をば鎮めし
織田公の　威烈残りて山水の　姿うるわし柏原……♪　その後犬童球渓先生の銅像の所へ案内してもらい、小雨のぱらつく中、写真を数枚撮って、お礼を言ってお別れしました。

帰途に訪ねた下関市の「オルハン・スヨルジュ記念公園」にオルハン・スヨルジュ（1920～2013年）の碑があり、こんな文章が書かれていました。「1985年、イラン・イラク戦争時、テヘラン在留の日本人を救出するため、トルコ航空救援機第1機長として、危険が迫る中、215名の日本人をテヘランからイスタンブールへ運び、多くの尊い命を救いました。この救出劇は、日本とトルコの友好を象徴する出来事であり、スヨルジュ機長の功績は両国友好の歴史に永遠に刻まれるものです。」

日本人も助けてきた歴史があるのです。今は、世界中コロナで人々が助け合っている様子をニュースで聞くと嬉しいです。今回は、マスクで大騒ぎをしているけど、これが食糧だったら、外国に依存して自給率30％台では……。輸入がストップしたら、もっと生命にかかわると思います。農業を大切にし、土地も大事に使い、野生動物も大切だが、農家が減っていくのも、動物にやられて収入が上がらないのが一番の原因だと思っています。

農業が大好きだった犬童球渓先生が、今現存されていたなら、どんな歌を作詞されるのでしょうか？人吉市の犬童球渓記念館と下関市のトルコチューリップ公園を訪ねる旅は、物があふれ、何でも在って当然だから、〝ありがとう〟が分からなくなっている？こんなことも考えることが出来たりした、感動した楽しい旅でした。

（氷上町在住）

愛用のピアノを展示

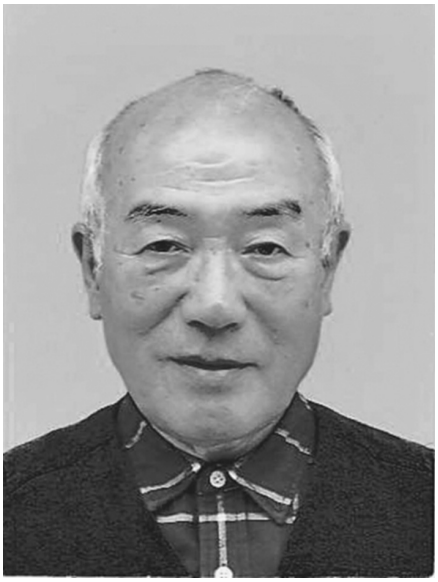
忘れ得ぬ恩師の尊い教え

時代を超えて自分を形成

元さいたま地方検察庁事務局長　足立敏晤

1はじめに

私たちは、誰しも小・中学校時代の恩師を持ち、人生で忘れられない大切な恩人である。私の場合、幸いにも二人の恩師から終生忘れられない御指導を受けることができた。



2恩師の音楽指導と唱歌「旅愁」の歌碑

私の卒業した芦田小学校は、平成29年3月、青垣町内4校閉校による統合が実現し「青垣小学校」に生まれ変わり、明治6年に開校した母校は長い歴史に幕を閉じた。

旧・芦田小学校6年の担任、故・谷田勝先生は、殊の外、音楽の指導に熱心であった。学芸会はクラス全員で「旅愁」を合奏し、2人の女生徒が歌唱した。楽器はハーモニカをはじめ多種多様で3月の学芸会に向け、三学期は連日楽器演奏の練習に励んだ。友とハーモニカを担当した私は、唇が腫れ上がるまで反復練習した遠い昔が懐かしい。

時を経た平成30年の秋、丹波新聞のホームページを開いていたところ、身に覚えのある唱歌の記事が目に止まり、思わず身を引き寄せられた。

「この度、犬童球渓作『旅愁』の歌碑が柏原の地に建設されることになった。歌碑建立委員会の実行委員長は進藤凱紀氏、歌碑の揮毫は風信書道会書家・大槻佐知子氏（雅号・幸希）。市民に広く寄附を募っている……」

とあった。お二人の名前を聞くだけで胸騒ぎし、進藤氏は柏原高校1年の夏以来、消息が途絶えてしまった級友ではな

いか。大槻様は、亡姉が常々親友であることを誇りにしていた柏陵同窓会の同窓生の方ではないのかと……。その予感は、まるで天から届いた朗報のように的中していた。歌碑建立賛同者の銘盤には、賛同してくれた従姉妹を含め私もその一員に名を刻していただいた。ひとえに、歌碑完成は、御尽力された進藤様、大槻様はじめ実行委員会の皆様方が紡いでくださった証しであり、「旅愁」は永遠に唄い継がれ、「歌碑」が丹波市民にとって心の拠り所になると信じている。感動的な喜びも束の間、会長・進藤凱紀氏は、歌碑の完成を見届け安堵したかのように、令和元年10月、犬童球渓と歌碑建立の発案者の一人で先輩の故・山名康之氏が眠る天国へ旅立ち、不帰の客となってしまった。御冥福をお祈りするばかりである。

望郷の地・柏原では歌碑の音源システムから、「旅愁」のメロディーが静かに鳴り響いていることだろうと、遠く神奈川の地から想いをはせる日々である。

3 恩師が示してくれた英語習得への指針

私が青垣中学時代、駅伝競走の指導を受けたのは、名伯楽の誉れ高い故・岡本丈夫教師であった。先生の担当科目は、英語と社会であったが、課外活動の指導は、駅伝競走の熱血指導者で氷上郡中学校駅伝競走大会では、5年間に優勝3回、2位2回という輝かしい実績を残された。ある日のこと、準備運動の輪の中で、私達にこのように話しかけられたのだ。

「将来は英語が必ず必要になる。単語を覚えるため私はこのようにした」

と、次のように申されるのである。

「単語辞典を携え、夜、自転車で町のはずれにある墓地の広場へ行き、懐中電灯の灯りで、1頁分の単語全部を暗記するまで帰宅しなかった。暗記した1頁分は、その場で破って食べた」

と申されるのだ。人間そこまで出来るのかと、とても真に受けることは出来なかった。

過ぎること60余年経った、2019年4月19日、朝日新聞の「天声人語」欄に、こんな一節が目に止まった。

「昔の学生は英語の辞書を破っては食べて覚えたものだ……。高校の教師に言われても真に受けなかったが、明治期の福島県が生んだ秀才、朝河貫一・米エール大教授の場合、『食べた辞書の名まで語り継がれている。食べ終えて残った辞書の表紙は、母校の県立安積高校の校庭の桜の下に埋められた。朝河桜と呼ばれています』と語るのは歴史学者の甚野尚史早稲田大教授……」

とあり、思わず我が記憶を振り返ることとなった。恥ずかしながら、恩師の一言が真に受け止められなかったことを、星霜60年余を経て真実なのだと知った。恩

師・岡本先生は、中学生の私達に、将来あるべき姿を暗示されていたのだと知り、その高い慧眼力には、今もって敬服するばかりである。

4おわりに

人生に持つべきは恩師なりと申されるが、私は前記の2人の恩師から時代を超えた高潔な教えを受け、今なお忘れることが出来ない。

令和元年5月1日、「旅愁の歌碑落成式」では、ハーモニカ演奏が式典に取り入れられ、恩師の面影とともに、遠い昔のハーモニカ演奏が鮮やかに蘇った（大槻佐知子氏提供のＤＶＤ映像による）。

東京オリンピックは、２０２１年夏に延期されたが、五輪誘致のプレゼンテーションで、一躍有名になったのは「おもてなし」の心であった。五輪成功の鍵は大会期間中、訪日外国人に対し日本人が英会話を如何に実践出来るかが、大きなウエートを占めているように思えてならない。恩師の語りかけられた英語力の素養は、国を挙げての祭典を成功裏に導く上で大きな支えになると信じている。

東京オリンピック開幕時には、地球上に蔓延していた新コロナウイルス禍を克服し、世界の人々が共に喜びを分かちあえる、平和の祭典になることを願うばかりである。

（青垣町出身、神奈川県在住）

金融機関から病院へ

サラリーマン終え自由を満喫

上田雅春

2016年3月31日は、私の65歳の定年退職日でした。その日は、長いサラリーマン生活において、仕事に対する運営責任・経営責任といった「重い鎧」を脱ぐことができた安堵感・満足感あふれる日でした。その日を境に、平日に何をしてもいい、誰からも束縛されない自由な時間を過ごしています。それまでも年末年始や夏季休暇など「平日の休み」はありましたが、それは、私だけの特権ではないし会社を休んだ後に残った仕事量を考えると頭の中は常に〝仕事モード〟。観光地や遊園地などでくつろいでいても、夕方には「明日は仕事」という厳しい現実が頭をよぎる状態でした。これを称して「サザエさん症候群」、TVアニメの毎日曜日18：30以後の憂鬱状態だったんでしょうか。

またTVコマーシャルで「24時間戦えますか！」と言われた猛烈社員全盛時代でもありました。そんな時代経験があったため「重い鎧」から〝解放された自由時間〟と〝解放前の自由時間〟が同じ自由な時間といっても、その受け止め方には〝雲泥の差〟がありました。18歳からは金融機関勤務、51歳からは、出向・転籍先の病院勤務と続き、65歳の定年退職後は、退職した病院で「週2日勤務」。日常業務から解放され〝百周年史編纂〟をしています。

「週5日の休日」はウキウキ気分の、旅行、ゴルフ、家庭菜園、小中学生への卓球指導など人生を愉しく過ごす〝気持ちの良い予定〟が嬉々として並んでいます。柏原高校時代は授業が終了するや否

や卓球場に行き練習に打ち込み、将来の就職先を考えるわけでもなく大半の時間をクラブ活動に費やしました。ここは時代背景とでもいうんでしょうか。高校を出ただけで、社会の一般常識はもちろんのこと、経済も金融もわからない。唯一〝算盤と簿記〟の知識を教えられていた程度の高校生を、なんと〝高度成長期の人手不足である金融機関〟が採用したんです。人事採用担当者は、〝とんでもない高校生〟だったと上司から文句の一つも言われたんではないかとさえ思います。その高校生が、学校の授業やクラブ活動の延長のような気分で就職したものですから、今なら、NHK番組のチコちゃんに「ボーッと生きてんじゃねーよ！」とキツイお叱りを受けるところだったと思います。

1969年4月に就職してみると、想像通り、学校のような研修所で金融や法務知識、業務推進に必要な一般常識の〝いろは〟を「鉄は熱いうちに打て」とばかりに何度も叩き込まれました。興味深かったのは札勘定の〝技〟で扇形に練習用のお札を広げる練習でした。それらの研修効果もあって現実の職場では、一人前の金融マンに向けてよいスタートが出来たように思いました。当たり前のことですが、高校出たての詰襟姿（高校の制服）の新入職員がすぐに会社に役に立つほど、金融業界も一般業界も甘くありません。その後もゴルフ・マージャン・酒席など四六時中、社会勉強という名の教育（？）も続きました。20代から30代は、このように育てられ50歳頃までには組織管理能力も身についたように感じました。これが、他社への出向転職に備えた「人材育成」につながっていたんだなぁと今になって思います。

その金融機関で、名古屋勤務を振出に関西各地を転戦。私の業務は〝法人取引先〟の新規開拓が中心でありました。金融機関には預金金利・貸出金利など〝公定価格〟が存在し金利差のみでの新規取引のお願いには限界がありました。しかしながら時代は高度成長の真っ只中。海外進出資金も含め法人の借入意欲は、すこぶる旺盛で、本業以外の〝不動産投資〟〝株式投資〟なども活発な「財テク」時代でした。1989年には「株価最高終値3万8915円となり〝日本〟株式会社のわが世の春、万歳！ついでにアメリカの象徴〝ロックフェラーセンタービル〟も買っちゃいました！」なんてことが起きた時代だっただけに土地開発資金融資などの〝新規開拓業務〟もそれなりに実を結び社会貢献への満足感もありました。しかし、これがのちに語られる〝バブル景気〟だったとは、〝新婚さんいらっしゃい〟の「桂文枝」さんではないですが〝椅子から転げ落ちるほどの衝撃〟でした。

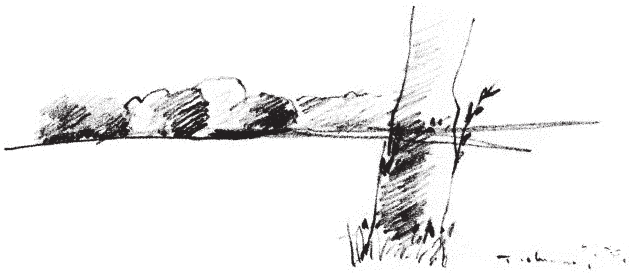
それはさておき、映画ドラマ〝難波金

融伝・ミナミの帝王〃などでもおなじみの有名な俳優「竹内力」氏は、同じ金融機関の仲間でもありました。彼は金融機関勤務時代に先ほど紹介した研修の中で習得した、お札が扇形に開く札勘定の〃技〃が映画俳優時にも大いに役立ったと語っておられました。私が、満51歳を迎えると人事部から、「帰って来たヨッパライ♪」の歌詞にあるように「なぁーおまえ♪、まだそんなことばかりやってんのでっか♪、ほなら、出て行けー♪」(笑)とばかりに出向を命じられたのが冒頭の人生二番目の勤務先である病院です。

出向辞令は出たけれどベッド数1027床、従業員1000人規模の病院経営についての知識はなく、医師・看護師はじめ国家資格者揃いの病院で、私が役立つとは、とても思えませんでした。一抹の(いや大きな)不安を抱きながらも事務職に着任したのですが、面白いもので、それから数年もしますと「石の上にも三年」とはよく言ったもので、仕事が全く判らなかった私でも、慣れない医療用語や医療の仕組みなどが判り出し肩書きに見合う仕事がこなせるようになるから、あらッ!まぁ不思議?なものです。テツ・アンド・トモの漫才風に「なんでだろう?・なんでだろう?」と考えますと、その土台は、人生一番目の勤務先の金融機関で「鉄は熱いうちに」とばかりに培った〃一般常識・業務知識〃はもとより同僚やお取引先など幅広い「人脈網・情報網」にもあったと考えています。

病院の事務管理、建物・設備管理、資金管理など、多岐に亘った業務をする中で、病院に役立つ経営感覚や幅広い人脈網などが〃メキメキ・モコモコ〃と動き出したのです。こういった人脈網が一番目の金融機関勤務時代に形成できたことは私にとって大きな財産となりました。以来二番目の勤務先病院での65歳定年後の現在まで、どうにかこうにか過ごせたのは、いろいろな方々の支えと家族の協力があったからで〃感謝!感謝!〃であります。これからも周囲の方々に感謝しつつ〃自由で愉しい人生〃が続くようにと願っています。

(奈良県在住、柏原町出身)



まちづくり一筋に

豊中でのはみだし公務員人生

元・豊中市助役　芦田英機

「今から行ってもええか？」「早く行ってあげて！」「あほぅ！こんな時にどこへ行くんや！」

あの阪神淡路大震災の激震が一段落ついた時の私・妻・母との会話である。国鉄駅での勤務中に急死した父の退職金で買った建売住宅は半壊状態だった。台風・集中豪雨で被害が予想されれば「家のことも何をおいても役所に出てこい！」。今ならパワハラだろうが、大学院進学を断念し自暴自棄で嫌々市役所に就職した直後に若い鬼部長に叩き込まれた厳命だった。夫を亡くした重病の母の面倒を見るために止むを得ず選んだ「転勤・残業のない職場」。9時～5時で家に帰って勉強できる〝公務員〟で再起を期した。

だが現実は違った。小学低学年の息子が書いた「父は役所の係長だから〝夜が遅い〟です」の作文は教師に〝早いです〟と訂正され、珍しい7時頃の帰宅に「お父さんは今日病気や」と慌てて布団を敷くエピソードに繋がる。

就職した役所は、貧乏で教員を諦め国鉄職員になった父の生活から高給でないことは織り込み済みで、係長でも工夫次第で権限行使できる魅力的な世界であり、犯罪にならない限り首にはならず減給もなく、左遷されれば勉強の時間が取れる有難い業界である。思い切って仕事をと〝はみだし〟始める。そんな変固者は時代が求める新組織のスタッフに迎えられる。

千里ニュータウン建設、大阪万博関連事業、〝都市計画と流通政策の一体化〟の「商業近代化計画」策定（商工会議所出向）、大阪大学法学研究科研究生（条例の研究）、財政健全化委員会事務局、

大型店出店調整（日本初のスーパー条例）、「商人大学」創設、〝快適な都市に新しい産業が育ち・新しい産業が都市の生活者を快適にする〟の「産業振興ビジョン」策定、ＣＡＴＶ導入、市民主体のまちづくり条例の策定、阪急高架下・市民病院跡地活用委員会担当（柏原高校先輩の松原徳一阪急専務に協力を頂く）、千里ニュータウン再整備計画策定、空港騒音直下の空地活用計画策定、…。

「〝まちづくり〟とは、〝まちづくり〟に素人の市民がまちの将来像を描き、専門家の知恵を借り、行政と連携し、企業と癒着し、政治家にすり寄る活動である」と自虐的定義をしているが、阪急立体交差化事業完成時、線路沿いのビルの壁面に「歓迎」横断幕を展開した沿線の市民組織「まちづくり協議会」会員を試乗会に現阪急阪神ホールディングスの角和夫会長は招待してくれた。これを機に定期的な情報交換会を始めて関係修復に取り組んだ。襟を正した市と企業との「癒着」の成果でもある。

「豊中まちづくりフォーラム」（市で１５０回、まちづくり会社で１５０回の連続講演会）では、「履正社」理事長に「教育は産業である」をテーマに講演依頼し、教師出身の議員から厳しい叱責を受けるが「フォーラムは議論の場、異議あればぜひ討論に参加を」と突っ張ねる。関空開港時に大阪空港存置論者を招き、撤去ムードの中で熟慮を促した。

市議会では想定外の質問で私を試そうする議員も何人かいて「総合計画には財政的裏付けが必要ではないか？」と質され「ロマンとソロバンの結合の必要性については十分認識しております」と応答。議場がどっと沸く。さらに「先ほどの答弁にはヒューマンがない」に対し「行政の怠慢、市民の不満ですね」（議長職権でこの部分削除）。「出先職場」は住民と直接接する「先端職場」、「管理部門」は「支援職場」であるとも主張した。

「文系の奴にまちづくりが出来るか！」と揶揄され、阪大で〝天ぷら学生〟ながら「工学博士」を取得する。「みんなの計画、役所の支援」〝市民主体のまちづくり〟これは私が提唱し活動を始めた「まちづくり協議会」方式の活動のキャッチコピーであり、後に市長選挙の公約になる理念である。まちづくり条例の制定、まちづくり支援チームの結成、まちづくり支援室の設置と、それまでの「対策」から「支援」へと行政姿勢の転換を図った。２０１６年に出版した冊子『豊中まちづくり物語～行政参加と支援のまちづくり』は、市民のまちづくり活動に〝行政が参加し支援する〟という市民目線からのまちづくりの活動記録である。この思想は柏原高校時代に、阪神間での民主主義教育が受け入れられず丹波で情熱を込めて指導して下さった恩師達

に負うところが大きい。

定年まで3年を残し部長職で京都女子大教授に転出して大学人を満喫中に、是非にと市長に呼び戻され助役に就任する。小泉内閣の〝三位一体改革〟で自治体が極度の財政難に陥り、住民サービスの削減・職員へのシワ寄せという状況下での敗戦処理役である。私は在任中の報酬2割カットを自ら課し、部長たちにも退職金3年分割を要請し、公共用地の余剰土地を自ら売りに出る。公用車で移動中に住宅業者・不動産屋に電話し続けて「助役さん、不動産屋ですね」と運転手に笑われた。

「何時でも辞めてやる」と辞表を常にカバンに入れながらさらに意欲的に〝役所の改革〟に取り組んでいた助役時代だが、手掛けて失敗に終わることも少なくない。手塚治虫(豊中出身)記念館誘致、リバースモゲージ(居宅担保制度)導入、企業の本社機能誘致、有名絵本作家の住民票移転、…。「市長、あれ失敗しました」「お前、よう失敗するのう」「バッターボックスにも入らんでベンチに座っとる奴には、三振も出来ませんよ」と言い返す。「大学教授から市の助役になったのが大阪市の関一、磯村隆文、そしてお前だが、市長にならなかったのはお前だけだ」と全国紙編集委員の友が言ったことがある。

そんな私は当然の如く組織から仕打ちされる。係長時代には仕事納め直前の12月25日に転属というクリスマスプレゼント。当時「暗黒大陸」と呼ばれた商工課へ〝管理部門〟からの転出だった。部長就任時には、課長時代に学会要請で出席する休暇票に承認印をくれなかったその部長から事務引継ぎがもらえず我流で職務をこなす。助役就任時にも、不本意な後継者だからと前任者から同様の扱いを受ける。

現役部長時代に某出版社から奮戦記を勧められ「もっとドロドロしたところを書かないと売れない。上司や町のボスの騙し方を書け」とそそのかされたが、本誌でも詳しくは書けない。

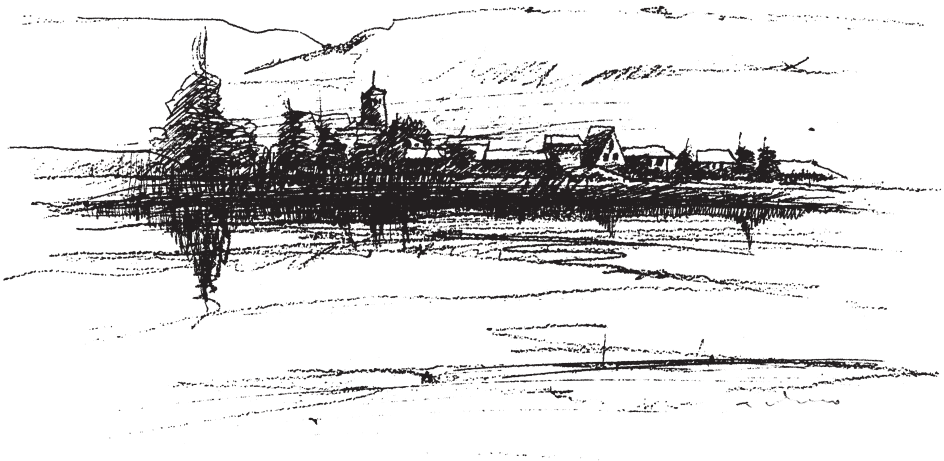
縁あって東大の教壇に立ち青春の夢をささやかに味わえたのも〝はみだし公務員〟を貫いたからだろう。そして今、高校の先輩・鈴木茂子氏（5期生）を中心にした受講生に8年にわたり「敬天まちづくり大学」を毎週開講し、丹波人・笑福亭由瓶（由良宏人）君から「稽古場が欲しい」との要請を受け50回を数える「豊中寄席」を継続して丹波人脈の育成に努めている。

こんな無茶苦茶な公務員生活を送る私を母・子の面倒も見つつ共働きで〝後顧の憂い〟なく支えてくれた妻を昨夏に亡くし独居老人を余儀なくされているが、

都会で育った同級生・同期生に負けないようにと突っ張っては、突き落とし・肩透かし・打っちゃりを食らい、土俵から転落しながらも這い上がれたのは〝丹波人の誇り〟である。

そして、このような人生を歩めたのは、綴り方運動・芦田恵之助先生の教えを受け継ぎ指導してくださった吉見小学校の高見先生、官舎で母の指導で書き綴った市島から母の実家・谷川までの乗車日記『夜汽車の旅』を掲載してくださった丹波新聞社、鮮烈な苦学経験を聞かせて奨学金と週5人の家庭教師で学生生活の全経費を稼ぐ意欲を維持させてくださった安達五男先生（後に武庫川女子大教授）をはじめとした丹波の皆さんのおかげです。有り難うございました。

（山南町・市島町・春日町で過ごす
豊中市在住）



平成の医療崩壊乗り切る

県立柏原病院の取り組み

県立丹波医療センター参与　酒井國安

丹波医療センターへの移行に伴い幕を閉じた県立柏原病院

はじめに

令和2年（2020）新型コロナウイルスのパンデミックによる医療崩壊が危惧されているが、平成の当地域における医療崩壊は医療行政の変革による人災ともいえるものであり、当院にとって下降気流に揉まれた疾風怒濤の時代であった。

平成16～18年度（2004～2006）

16年度に始まった医師の新臨床研修制度を契機に、18年度には、当院の内科医減少、柏原赤十字病院の勤務医減少、兵庫医大篠山病院の存続問題等、当地域の医療情勢も混沌・混迷の時期に突入した。当院は17年、放射線治療装置の稼動も開始し、急性期医療を担う中核病院として長らく地域医療に貢献してきた。しかし、当院の再生と地域の医療体制の再構築を図らなければならない非常に困難な事態に直面した。

昭和28年結核療養所として開設以来の結核の入院診療を平成17年度に終了した。常勤医の減少が顕在化し、16年度の43名から、17年40名、18年34名と減少の一途であった。とくに、内科医の減少（16年12名、17年10名、18年7名）とともに、18年に麻酔科医が非常勤になったことが診療機能の著しい低下を来すことになった。18年度には、総病床353（一般7・結核1病棟）から303、運用病床260（一般6病棟）に縮小した。

小児科医も3名から2名になり、広く市民にお願い（当院による新聞折込み広告と、丹波市による「かかりつけ医の情報マップ」の全戸配布）をして18年度か

ら1次救急患者の受け入れ制限を実施した。

平成19年度（2007）

常勤医は26名、内科は4名に減少し、4月から内科と小児科外来の初診は紹介患者に限定した。2名の小児科医の内1名が院長に就任し小児科も存続の危機に瀕した。小児科の、ひいては周産期医療の存続の危機に対して患児の保護者が立ち上がり、約五万五千人の署名を集め県庁に小児科医派遣の請願を行った。県庁からはゼロ回答であったが、そのグループが「県立柏原病院の小児科を守る会」を立ち上げ、ユニークな3つのスローガンを掲げて市民運動を展開した。マスコミに大きく取り上げられ国会や小児科学会でも注目されることになり、10月から丹波市の資金援助のもと神大小児科から専門外来・当直支援を受け当面の危機は回避された。

6月には「丹波医療フォーラム」が開催されるなど地域医療への関心が高まり、市民の間で他にも地域医療を支援する団体が立ち上がった。ボランティアによる草刈、医師負担軽減のための院内の「コメディカルの会」の結成、等々波及していった。丹波市も担当課を新設し、病院局も特別予算で心臓エコー装置などの設備更新を支援した。

しかし、10月には、脳神経外科の撤退に伴い1病棟を閉鎖し、運用病床214（5病棟）に減らした。その結果、年度末まで看護部には交代で県立尼崎病院への業務応援を強いることになった。その上、12月には耳鼻咽喉科の撤退、翌3月には血管呼吸器外科と整形外科の撤退と続き、年度末には内科・小児科・外科・産婦人科・泌尿器科・眼科だけになった。相次ぐ診療規模縮小のために赤字は約15億円に上った。

地元出身2名と大学経由1名の内科医が着任し、年末から循環器疾患のカテーテル治療が平日昼間には再開できるようになった。また、目指していた地域がん診療連携拠点病院の指定を、スタッフの多大なる努力によって20年2月に受けることが出来た。大学からの医師派遣が困難な状況では、総合診療医養成の環境整備を進めようとして、丹波市国保青垣診療所を対象に「へき地医療拠点病院」の指定を県に申請した（20年4月指定）。

平成20（2008）年度

常勤医は20名に減少し、4月から更に1病棟を閉鎖し運用病床を146（4病棟）に減らした。病床削減は、看護部を中心に各部門の人員削減を伴い、他病院への転勤・派遣、三田市民病院へ看護師派遣、自主退職等の多大な犠牲を職員に強いることになった。

また、地域外への救急患者の搬送が増加するという深刻な事態を招いた（19年

度には、3人に1人）。

19年11月公表の総務省の公立病院改革ガイドライン案に関連して政令改正が行われ、丹波市の当院に対する財政支援が可能となった。丹波市と病院局は共同支援事業を立ち上げ、神大医学部との「地域医療循環型人材育成プログラム」事業（「プログラム」事業）が実現した。

総合診療部を新設することも目指し院内に医師招聘プロジェクトチームを立ち上げ、医師募集ビデオを作り6月にはホームページに載せた。6月末から病院局事業管理者を本部長にして再生対策本部が設置された。7月3日舛添厚労大臣が、「守る会」のメンバーに会うために来丹し当院の視察も行った。8月から、眼科の入院診療が休止したが、市立西脇病院脳外科と当院小児科の医師相互派遣による外来診療支援を開始した。

8月5日発表の再生プランでは、「プログラム」事業のほか、県立病院間の相互医師派遣制度を創設して医師確保を行い、2次救急医療の充実のため総合診療の体制を設けることになった。当直応援は他の県立病院から受けたが、内科常勤医派遣については全県立病院にお願いに廻ったが実現はしなかった。

10月から泌尿器科の入院診療が休止、常勤医は18名に減少したが、「プログラム」事業によって、整形・放射線・外科の各1名を受け入れた。あとの2名は内科医を強く希望したが年度末まで実現しなかった。

12月には、病院局の支援でＭＲＩとガンマカメラが更新された。12月12日「公立病院改革プラン」を作成するための圏域会議では、病院間連携を強化するため柏原日赤・兵医篠山との3病院長の委員会の設置を提案した。委員会は発足して年度末まで協議を重ねたが、実効のある結論は出せなかった。

当院では、非常勤医による外来診療の再開（耳鼻咽喉科、呼吸器内科等）、小児科2次救急体制の拡充（週1日→6日）、年間１００人超もの非常勤医の診療支援、整形・脳外科の「通院リハビリ」の再開、元勤務医による眼科の日帰り手術、元勤務医による「糖尿病専門外来」の再開、コメディカルチームによる生活・栄養指導の継続、「がん相談支援センター」の開設に続き「がん情報コーナー」設置、放射線科医の着任によるがん診療のレベルアップ、放射線治療と外来化学療法に加えて「緩和ケア外来」の開設、等々明るい話題も出るようになった。

おわりに

氏名はすべて割愛させて頂き、事実を時系列で記述しました。当院の企業風土が危機を乗り切る原動力になったものと感じています。苦労を共にして頂いたスタッフの皆様に深謝申し上げます。

（元柏原病院長、山南町在住）

色んな国のトイレ事情

やはり日本がすばらしい

山口直樹

何処にいても、なくてはならないもの、これがなかったら、大変困るもの。たとえ汚くて使いたくないと思っても、使わざるを得ないもの、トイレ。沢山ある海外の旅番組でもトイレの事は殆ど放映しない。何故かと思う。言うまでもなく、今の日本のトイレは世界最高です。清潔さ、綺麗さ、使いやすさ、快適さ、ウオシュレット、便座の暖かさ、どれをとっても最高です。特に、ウオシュレットのトイレは素晴らしい発明品です。そして、それを使うのが無料。無料は当たり前と思っているのは、日本人だけ。外国から日本に来た人は、こんなに快適で綺麗なトイレが無料で使えるなんて、と感激されているはず。外国ではトイレが有料の所が多いです。（空港や駅などは無料）それが実に汚くて、出来るなら使いたくないと思えるようなトイレでもそうだ。いろんな国での僕のトイレの観察を書きます。

１９７２年に初めてヨーロッパに行きました。公衆トイレが完備されていました。文明国だと思いました。ただ、どの公衆トイレにも管理人が居て、その方が掃除をして清潔に保っています。そして、入り口に居て利用者から使用料を取っていました。パリでは、１フラン（約60円）だったように思います。これでも回数が重なるとかなりの出費です。ホテルを出る前は必ず出しておく、途中で利用するのは極力少なくするという癖をつける必要があると痛感しました。（これが原因かどうかわかりませんが、欧米の方は、トイレの回数が少ないと思います。）トイレットペーパーがないところ、入り口で支給されるところ等もありました。その支給されるトイレットペーパーは、ごく少ない量で、これでどのようにして綺麗に拭けるのかと悩んだものです。

マダガスカル。２０１７年。ツアーでバオバブの木や珍しい動物を見に行った。ある朝のツアコンの言葉が忘れられない。事前には、何の説明もなかった。バスで長距離を移動しなければならない日の朝「今日はトイレをする場所はたくさんあります。しかし、トイレはありません。申し訳ありませんが、屋外でして

ください。適当な場所にバスを止めますので。」「えーーー。」という反応。しかし、行かないわけにはいかない。次の日は、同じ宿に戻ってこない。行くしかない。女性は、特に困っていた。バスから見えない小さな灌木の脇でするしかなかった。しかし、臭い、汚いトイレより快適だった。同じような経験は、ロシアのバイカル湖でもした。バイカルの湖の湖畔を散策する小旅行に行った。行く前に、「トイレはない。」ということは言われていた。木々が生い茂っていたので、その木に隠れてした。但し、この時は、結構沢山の人が来ていたので、誰かが使った場所ではないだろうことをしっかり確認して、場所を捜した。バイカル湖に行った時に、イルクーツクにも行った。かなり大きなスーパーマーケットに行って、土産物を買った。その時、トイレを捜したが見当たらない。店員さんに聞いてもないという。致し方なく、その店の近くの会社の事務所にトイレを使わせてもらいに行った。1US$を払った。物価から考えるとかなり高い。しかし、致し方なかった。店に客用のトイレがないなんて、日本では考えられない。

2014年、ドイツを女房と個人旅行をした。ジャーマンレイルパスを事前に購入して、切符を買う煩わしさから解放されて、その間乗り放題のチケット。便利だった。ベルリンのフリードッリヒシュトラーセ駅から、マルクス・エンゲルス広場に行き、ベルリンの壁記念セン

つま先立ちしないと使えない（フィンランド）

日本は無料で清潔

ターに行こうと思って、「ベルナウアー通り」という駅で降りた。駅員のいない小さな駅。どのように小さな駅にもトイレはあるものだと思って捜した。ない。いくら探してもない。焦った。ベルリンの壁記念センターまでは、結構ある。弱った。結局、もう一度アレクサンダー広場の駅まで引き返して（3駅を戻った。）、用を済ませ、再び、同じ路線を辿った。このような経験から、どこにトイレがあるか、ということをしっかり記憶し、焦ることがないように、また、トイレがある時は、とにかく使うということを肝に銘じた。冷汗が出る思いだった。

１９７４年、ニューヨーク。街を当てもなく、歩いていた。トイレに行きたくなった。地図を見ても、近くに公共の建物は見当たらない。イーストサイドエアラインターミナルに行こうと思った。しかし、かなり遠い。弱った。公衆トイレというようなものはない。周りはビルばかり。ふと思った。そこでたくさんの人が働いている。当然トイレも沢山あるはずだ。そう思って、通りかかったビルに入った。トイレを捜した。あった。しかし、鍵がかかっていて入れない。冷汗が出てきた。もう待てない、と思った時に、一人の男性がトイレから出てきた。そこをすかさずトイレに入った。トイレはオートロックになっていて、そこで働いている人は、みんな鍵を持っていた。これも、防犯対策なのだろうと思う。しかし、一介の旅行者には、実に不便だ。ヨーロッパのような、掃除人のいる公衆トイレはなかった。

エジプト。２０１９年。アスワンからスーダンとの国境の近くのアブシンベル神殿までの砂漠の中をバスで長距離移動していた。当然、トイレが必要だ。2時間くらい走って、トイレ休憩。砂漠のど真ん中。パーキングエリアのようなものがある。と言っても、掘立小屋。飲み物、軽食、そしてトイレ。当然有料。一応囲いはあるが、汚くて臭くて実に不愉快なトイレ。しかし、使わざるを得ない。日本円で50円位。

ペルー。２０１５年、リマからナスカの地上絵を見に行くには、片道4時間ほどバスに乗り、ナスカの近くの空港に行き、そこで小型飛行機で上空から地上絵を見る、というコースをとった。途中でドライブインやサービスエリアなどというものは一切なく、砂漠の中を道が通っているだけ。トイレの場所もない。4時間トイレを我慢するのは、なかなかしんどい。日系の方がその途中に、トイレのある土産物屋を作っていた。観光バスだけが立ち寄る場所だったが、結構繁盛していた。トイレはなくてはならないもので、そこに土産物屋があると買い物をする。ここのトイレは、無料だった。日本では、当たり前だけど……。ここの土産物屋、高い塀で囲まれていて、観光バス

の乗客だけが利用可能なつくりになっていた。バスが、店の駐車場に入るとすぐ大きな扉を閉めていた。この土産物屋の周りには、民家もあったが、その人たちには必要のない品ばかり売っているので当然かとも思ったが、これも防犯対策かなとも思った。

インド。混沌とした国。清潔感という概念は、あまりない。街中は、野良犬、野良牛、そして、家のない人が歩道の端で寝たり食べたりして生活をしていた。家がないということは、トイレがないということ。要はどこでもがトイレ。犬も牛も人も。歩く時は前と足元をよく見て歩かないとウンチを踏んだりして悲惨なことになる。観光客が利用できる快適とまではいかなくても一応トイレというのはあることはある。有料だけど。インドでは、左手は不浄の手。左手で人の頭を触ったりしたら、凄く怒られる。食事をする時は、右手だけを使う。左手は後ろに回している。常に、左手でウンチを触るのだから当然かと思う。

イラン。１９７５年。座って使うタイプ。管が詰まるので、紙は使えない。トイレに水差しが置いてあり、それを使って、洗う。当然自分の手で。その手を水差しの水で洗う。これも慣れないとなかなか使えない。かといって、紙を使うと捨てる場所がない。実に困ったが、これも慣れてくると、どうということもない。慣れとは恐ろしいものだ。

デンマークの国際学校に行っていたとき、スタディーツアーで2週間、バスでポーランドを一周した。１９７４年の秋。当時のポーランドは、社会主義国家。貧しかった。高速道路もなく、地道ばかり。そして、ドライブインのような施設もなかった。困ったのはトイレ。僕たちは約40名の学生の団体。トイレ休憩は、大体が森の脇。バスを止めて、森に用を足しに行くのだ。昼間はまだよい、夜になると森は暗いし、怖い。バスから見えるところで用を足していた。みんな同じだなー、と妙なことに感心した。しかし、白色人種は（というか僕の出会った白色人種は）、あまり羞恥心というものがないのではないかと思った。デンマークでの滞在時、友達と近くの海岸に泳ぎに行った時も、横の方で何も着ずに日向ぼっこをしたり泳いでいる人を見て、そう思った。

トルコ、イタリア、フィンランド等の国で悩んだ。男性トイレの小便器が実に高い。実に使いにくい。つま先立ちをしないと使えない。僕（約１７１センチ）より背の低い人や子供は、どのようにして使っているのだろうと思う。日本のように背の高い人も、子供でも使えるトイレを設置すればよいのにとつくづく思った。日本のトイレは素晴らしい。

（氷上町在住）

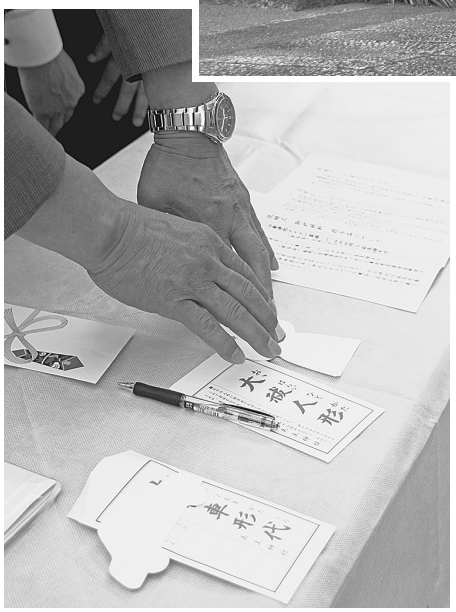
兵主神社「夏越（なごし）の大祓（おおはらえ）」

丹波新聞記者　**足　立　智　和**

（表紙の写真も）

（右）新型コロナウイルスの収束を願い茅の輪をくぐる参拝者たち

（下）身代わりの「人形」と「車形」。健康と交通安全を祈願する



近衛基前公が揮ごうし寄進した鳥居の額

丹波市春日町黒井4の1の兵主神社は毎年6月最後の日曜に「夏越（なごし）の大祓（おおはらえ）」を催す。疫病の厄除けのご利益がある「茅の輪」をくぐる神事で、今年は新型コロナウイルスの早期収束を祈った。

茅の輪くぐりは、スサノオノミコトの伝説にちなんだ厄払い。スサノオノミコトに宿を提供した「蘇民将来」が、宿の礼にとスサノオノミコトが言った通り茅の輪を腰につけたところ、災厄を逃れたという言い伝え話にちなんでいる。

参拝者は、村山勝一宮司を先頭に、軽トラック2杯分のカヤで作った直径4㍍の茅の輪をくぐり、境内をぐるっと周るを3度繰り返す。

「延喜式神命帳」（927年）によると、兵主神社は全国に19社あり、県内では西脇市などにある。746年（奈良時代、天平18年）の創建と伝わっている。本殿は流造檜皮葺。

祭神は大名持大神（大国主、福の神・交通安全の神）、少名持大神（病除の神）、香具山大神（健康・医薬の神）、蛭子大神（えべっさん、商工業・家運繁栄の神）。戦国時代から明治にかけては、命にかかわる疱瘡（ほうそう）（天然痘）の守護神として、現在は「病気平癒の神」として崇敬を集める。

境内の鎮守の森は、社叢（そう）全体が県の環境緑地保全区域で、丹波市指定文化財。社殿裏のオガタマノキ（高さ34メートル）は推定樹齢300年。幹回り3㍍を超えるオガタマノ木は県内ではここにしかない。ほかに、ムクノキやスギなどの巨木がある。氏子でつくる「社叢を守る会」が守っている。

関白近衛家とゆかりが深く、数々の献上物が宝物として保存されている。鳥居の額「兵主社」は1814年（文化11年）、内大臣の近衛基前公が揮ごうして寄進したもので、一畳ほどの大きさがある。

兵主神社の社殿

年代ものの絵馬がずらり並んでいる

編集後記

第5号を発行するべく、例年通り計画して進めておりました。しかし、世界的に猛威をふるった新型コロナウイルスの影響で、編集委員会の開催もままならず、第5号の発行が危ぶまれました。「こういう時こそ、会報を発行しなければいけない」という、役員の方々のご意向を受け、メールでのやりとり、少人数での編集委員会などを積み重ね、むしろ例年より多いボリュームで発行することができました。お世話になりました皆様、厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルスが全世界に猛威をふるった今年、この大変な状況の中で、原稿をお寄せいただいた執筆者の皆様に厚く感謝を申し上げます。また、この会報を発行するため広告を掲載して頂き、資金面でご援助を頂きました広告掲載社の皆様、誠にありがとうございました。執筆者、スポンサーの方々のお力添えで、今回も発行することが出来ました。コロナ禍の中、役員会の開催も遅れ、総会が中止となる中、また、全員での編集委員会の開催もできない中での、第5号の編集作業でした。今回も、丹波新聞社の皆様には、専門的な援助を得ました。お陰様で発行する事ができました。誠にありがとうございました。

会報委員長　山口　直樹

会報委員　芦田　敬一　足立　直正
大槻佐知子　小田　晋作
岸田　康博　高田　温美
田　恭子　仁藤　欽嗣
山口　直樹　吉見　弘文

関西丹波市郷友会　役員

名誉顧問	足立　良久
〃	大塚　昌泰
〃	岡崎　充秀
〃	中川　恭
〃	深田　敬一
会長	有田　逸郎
副会長	田　司子
常任理事	芦田　博茂
〃	足立　栄景
〃	池畑廣士　み
〃	磯尾　隆行
〃	大槻佐知子　利
〃	岸田　康樹
〃	公江　茂子
〃	清水　昭吾
〃	田中なほ　敏
〃	田　晴作
〃	野村　忠
〃	山口　直
〃	山口　洋
〃	山名　純
財務理事	足立　晋
監事	小田　作

「賛助金」ご協力のお願い

関西丹波市郷友会では丹波市の青少年の健全な育成のために文化、スポーツ、国際交流、ボランティア活動など様々な分野に支援を行っています。これらの支援活動に必要な資金は皆様方からの賛助金によって賄っています。
今後、支援活動をより一層充実させるために、また１年でも長く継続していくために、下記要領で賛助金のご協力をお願いしています。
つきましては何とぞ趣旨をご賢察いただき、賛助金の振込にご協力、ご支援いただきますようお願い申しあげます。

記

募集要項	法人様　１口　１０，０００円（３口以上） 個人様　１口　１０，０００円（１口以上）
振込先	三菱ＵＦＪ銀行　大正橋（たいしょうばし）支店（店番７８９） 普通預金　口座番号　０３５３２７３ 口座名　関西丹波市郷友会（かんさいたんばしごうゆうかい）　会長（かいちょう）　有田秀雄（ありたひでお）

賛助金と同じ趣旨で、よりご協力をいただきやすい形として下記要領で寄付金でもご協力をいただけます。

記

募集要項	１口　１，０００円以上（何口でも結構です）
郵便局から払込	振替口座記号番号　００９７０－２－９５８５９ 加入者名　関西丹波市郷友会
銀行から振込	銀行名　ゆうちょ銀行（金融機関コード９９００） 店名　〇九九（ゼロキュウキュウ）店（店番０９９） 預金種別　当座預金 口座番号　００９５８５９ 口座名　関西丹波市郷友会
問い合わせ先	関西丹波市郷友会事務局 〒550-0013　大阪市西区新町2丁目１５番２７号 サンキン株式会社内 TEL　06-6539-3201　Fax　06-6539-3231 担当　総務部　横井

広告目次

協賛ありがとうございました。（敬称略）

サンキン……裏表紙
三協運輸……表表紙裏
丸十ロッカー……裏表紙裏
まちづくり柏原……90
武庫川女子大学……91
中兵庫信用金庫……92
JA丹波ひかみ……93
敬 愛 会……94
小曽根病院……95
円 応 教……96
山名酒造……97
木　　栄……98
オーケンウォーター……99
グリーンライフコーポレーション……100
オフィスキムラ……101
冨田畜産……102
丹波総合石材……103
喜　　作……104
大　　和……105
ル・クロ丹波邸……106
有田産業……107
エス・ディー……108
サンキンB＆G……109
丹波新聞社……110
やながわ……111
岡林写真館……111
土田商事……112
大 仏 堂……112
赤松医院……113
清水一級建築設計事務所……113
丹南茶寮……114
KABURA 丹波布の店……114
たんばコミュニティエフエム……115
関東氷上郷友会……115

株式会社まちづくり柏原
Town Management Organization

ロマン城下町かいばら

私たち株式会社まちづくり柏原は、地域住民の声を聞き、柏原の歴史文化にあったまちづくりに取組んでいます。「丹波市らしさ」「柏原らしさ」を大切にし、住民たちによる様々な活動により生まれる魅力によって、柏原を訪れる人や新しい住民を増やすきっかけになると考えます。
私たちは地域開発のプロデューサーとして、多くの人々と連携しながら精力的にまちづくりを進めます。

テナントミックス事業

町なみ環境整備事業

関西学院大学連携事業

代表取締役：荻野吉彦（荻野与作商店 代表取締役）
専務取締役：岡林利幸（㈱オカバヤシ 代表取締役）
常務取締役：土田光一（㈱土田科学 代表取締役）
取　締　役：土田博幸（㈱土田商事 代表取締役）
：前川隆正（㈱丹波の森ショッピングタウン 代表取締役）
：菊本裕三（きくもとグラフィックス㈱ 代表取締役）
：黒田好信（黒田測量設計㈱ 代表取締役）

株式会社まちづくり柏原
〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原688-3
TEL:0795−73−3800
FAX:0795−73−3801
HP：http://www.kaibara.org/

最近のテナントミックス事例（テナント管理11店、指定管理1ヶ所）

● 工芸の店 KABURA

「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年10月にテナント施設として完成。丹波市に伝わる伝統の丹波布をはじめ、春日町鹿場の竹細工や名塩和紙など、数多くの工芸品を取り扱っています。

● とり料理専門店 ととり

「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年12月にテナント施設として完成。木の温もりを感じるおしゃれで明るい店内は、女性や若い方、ご家族連れでも入りやすくなっています。店長おすすめメニューはこだわりのつくね。

MUKOJO ACTION 2019-2039

一生を描ききる女性力を。

■中央キャンパス

■上甲子園キャンパス（建築学部）

■浜甲子園キャンパス（薬学部）

■アメリカ分校（ワシントン州スポケーン市）

大　学	● 文学部（日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科） ● 教育学部（教育学科） ● 健康・スポーツ科学部（健康・スポーツ科学科） ● 生活環境学部（生活環境学科、情報メディア学科） ● 食物栄養科学部（食物栄養学科、食創造科学科） ● 建築学部（建築学科、景観建築学科） ● 音楽学部（演奏学科、応用音楽学科） ● 薬学部（薬学科、健康生命薬科学科） ● 看護学部（看護学科） ● 経営学部（経営学科）
短期大学部	● 日本語文化学科　● 英語キャリア・コミュニケーション学科　● 幼児教育学科 ● 心理・人間関係学科　● 健康・スポーツ学科　● 食生活学科　● 生活造形学科
大 学 院	● 文学研究科（日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、教育学専攻、臨床心理学専攻） ● 臨床教育学研究科（臨床教育学専攻） ● 健康・スポーツ科学研究科（健康・スポーツ科学専攻） ● 生活環境学研究科（食物栄養学専攻、生活環境学専攻） ● 建築学研究科（建築学専攻、景観建築学専攻） ● 薬学研究科（薬学専攻、薬科学専攻） ● 看護学研究科（看護学専攻）

武庫川女子大学

武庫川女子大学附属高等学校
武庫川女子大学附属中学校
武庫川女子大学附属幼稚園
武庫川女子大学附属保育園

NAKASHIN

あなたとまちとフェイスtoフェイス

中兵庫信用金庫

理事長　足　立　厚　郎

本店・丹波本部　丹波市氷上町成松226-1
ＴＥＬ　(0795) ８２－８８５０㈹

三　田　本　部　三田市けやき台1-4-3
ＴＥＬ　(079) ５６９－７１５０㈹

ホームページ　http://www.nakashin.co.jp

おかげさまで30年
新しい時代もみなさまとともに

30th Anniversary

ー希望（ゆめ）とうるおいのあるまちづくりー

JA丹波ひかみ

代表理事組合長　大畠　良樹

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺440
TEL：0795-82-0170　FAX：0795-82-3658
ホームページ：https://ja-tanbahikami.or.jp/
メールアドレス：thk.info@jamail.hyogo.jp

医療法人 敬愛会

理事長　大塚久喜

本部 〒669-1333
兵庫県三田市下内神525-1（三田高原病院内）
TEL(079)567-5107

救急病院
大塚病院
〒669-3641
兵庫県丹波市氷上町絹山513

介護老人保健施設
ひかみシルバーステイ
〒669-3641
兵庫県丹波市氷上町絹山523

医療療養病床
三田高原病院
〒669-1333
兵庫県三田市下内神525-1

医療療養病床
三田温泉病院
〒669-1353
兵庫県三田市東山897-2

介護老人保健施設
三田温泉シルバーステイ
〒669-1353
兵庫県三田市東山897-1

介護老人保健施設
神戸ポートピアステイ
〒650-0046
兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3

介護老人保健施設
豊岡シルバーステイ
〒668-0065
兵庫県豊岡市戸牧1132番地2

療養型医療施設
西宮敬愛会病院
〒663-8203
兵庫県西宮市深津町7-5

医療法人　豊　済　会

小　曽　根　病　院

許可病床数　**557** 床

介護老人保健施設　やすらぎ

定員数　**84** 床

大阪府豊中市豊南町東２丁目６番４号　06-6332-0135

理事長	中川泰洋
理事	芦田昇治
理事	田　晴行
理事	遊佐裕子
理事	石井笑子
院長	西元善幸
老健施設長	中村幹男

円応教（えんのうきょう）
教主 深田 充啓

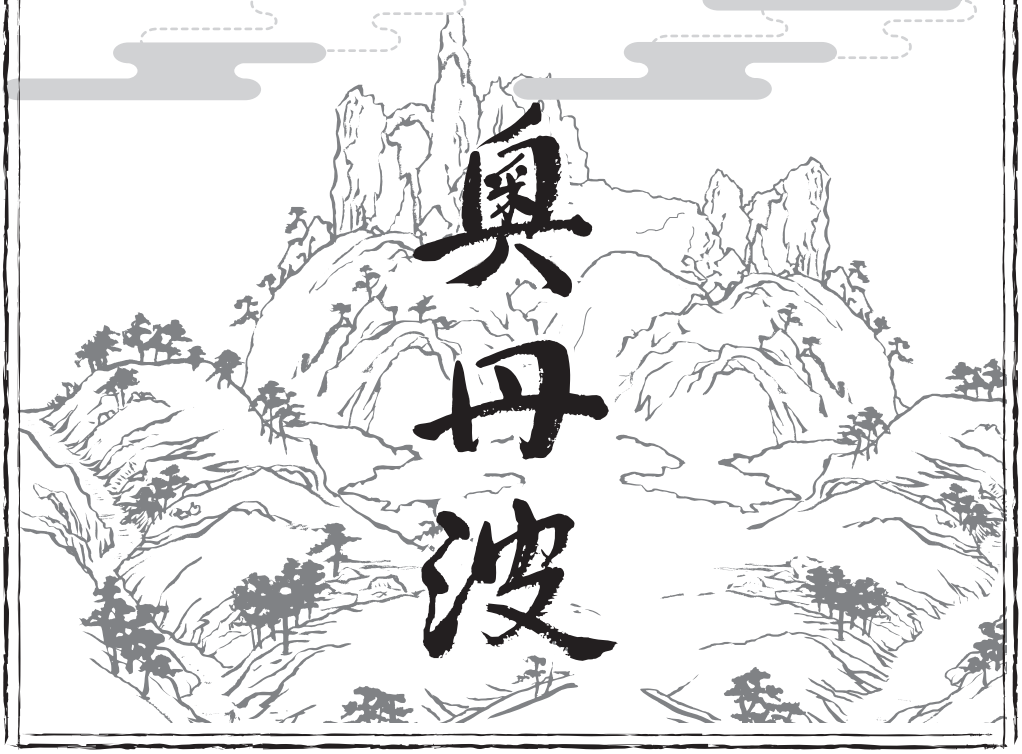
〒669-3142
兵庫県丹波市山南町村森1-1
TEL.0795-77-0430
ホームページ/www.ennokyo.jp

奥丹波蔵元　山名酒造

当家は元々源氏の総大将、頼朝に付き従った関東武士で、室町時代に応仁の乱で京の都を騒がせた山名宗全の血筋。その後、一族内の争いを逃れて領地を離れ、春日町の興禅寺付近で船川姓に変えて潜んでいたが、一七一六年（享保元年）に現在の市島町上田の地に移り、元の山名姓に戻したのが遠祖の始まりと伝わります。

蔵にある古文書のひとつに、天皇が即位した大嘗祭に奉納米を献上し、宮中から賜った「宝船」を描いたものがあります。カミダ（上田）は神田の呼称が転じたとも言われ、このように稲作に恵まれた環境のもと代々酒造りを生業にして十一代目、平成二十八年で創業三百年となりました。

江戸時代までは「千歳」、明治維新になり「萬（万）歳」、そして平成に入って「奥丹波」と酒銘を変えて仕込み続けて参りました。



www.okutamba.co.jp

山林をクリエイティブに

一般建築用材・内外装材製造販売
山林再生事業/住宅用地分譲販売

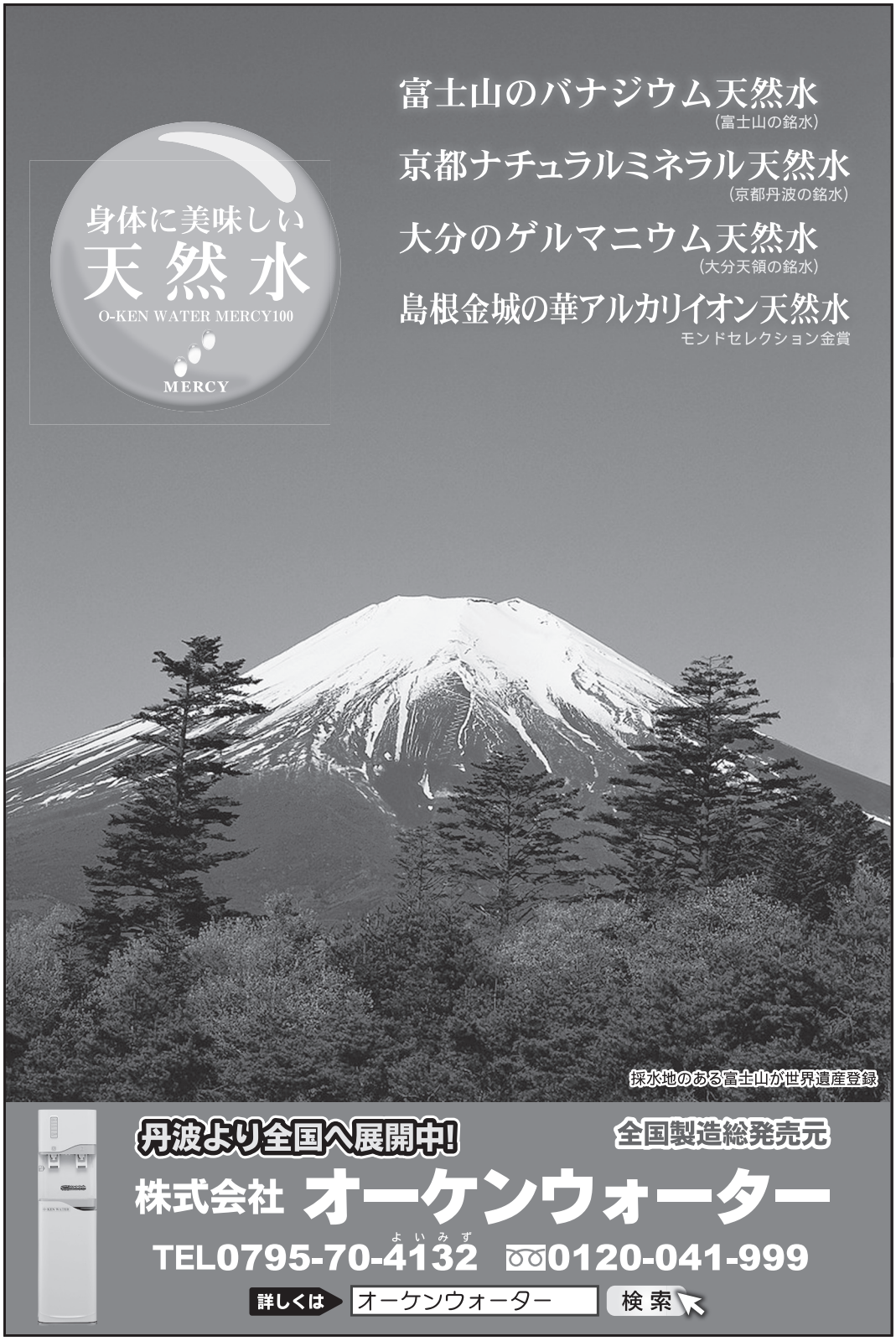
MOKUEI
株式会社　木栄

地域の山を守りながら、未来に残したい
くらしの景色を守る木づくりを進めております。

木の事なら住宅や店舗から神社仏閣まで
まるごとお任せください。

〒669-3821　丹波市青垣町桧倉323-3
TEL:0795-87-5216　FAX:0795-87-5446

http//www.mokuei.co.jp 検索


身体に美味しい
天然水
O-KEN WATER MERCY100
MERCY
富士山のバナジウム天然水
（富士山の銘水）
京都ナチュラルミネラル天然水
（京都丹波の銘水）
大分のゲルマニウム天然水
（大分天領の銘水）
島根金城の華アルカリイオン天然水
モンドセレクション金賞
採水地のある富士山が世界遺産登録
丹波より全国へ展開中!
全国製造総発売元
株式会社 オーケンウォーター
TEL0795-70-4132（よいみず） 0120-041-999
詳しくは オーケンウォーター 検索

お家のご売却はハウスドゥ！
にお任せください。

高価買取　広告無料　相談無料　地域密着　秘密厳守

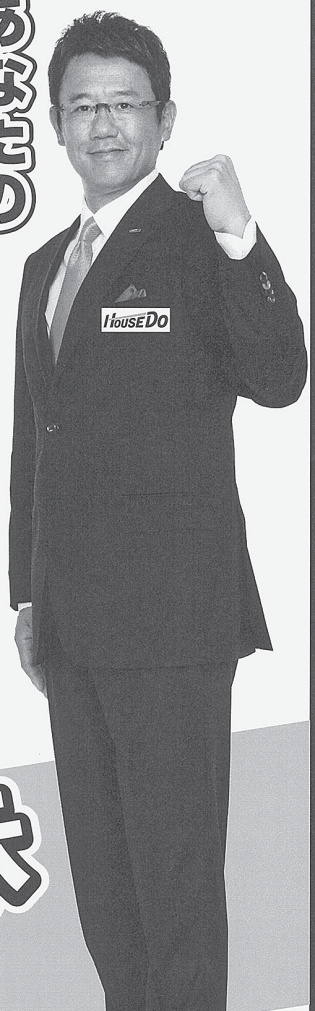
あなたの家・不動産買取ります

マンション
一戸建て
土　地
収益物件

店舗数 No.1 安心の全国ネットワーク

※ハウスドゥ！は、不動産売買仲介専門フランチャイズで店舗数全国第一位です。「ビジネスチャンス」(平成30年8月22日発行-2018年10月号)誌「2018年度FC加盟店舗数ランキングTOP250」より。

即価格提示致します!!



ハウスドゥ！イメージキャラクター
古田 敦也氏(元プロ野球選手)

※一部除外エリア、除外物件もあります

売却物件大募集

ラジオ&テレビCM放送中!!
housedo.com/

HOUSEDo
0120-683-700
全国ネットワーク652店舗
仲介
水曜定休

兵庫県知事(1)第750182号　(公社)全国宅地建物取引業保証協会会員　(社)兵庫県宅地建物取引業協会会員　(公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

ハウスドゥ！丹波店　株式会社グリーンライフコーポレーション
〒669-4322　丹波市市島町上田503-1

不動産のことなら何でもお気軽に!

賃貸　売買　仲介　物件管理

無料査定

買取・売却
物件大募集

不動産を直接
買取致します

＊物件によっては買取できない場合があります＊

土地と住まいの相談室
オフィスキムラ株式会社

● http://www.office-kimura.co.jp　● E-mail kimura@lily.ocn.ne.jp

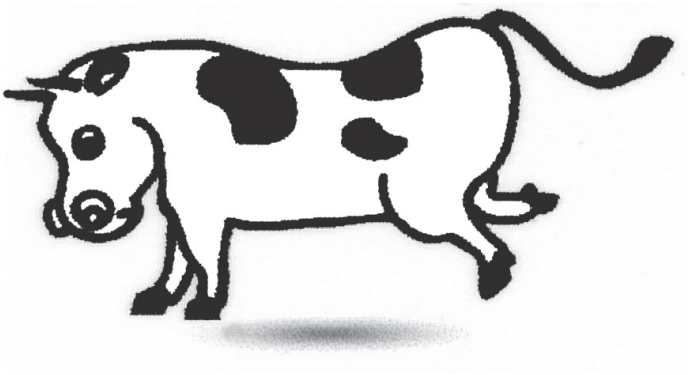
● 本　店 ●
〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
ＴＥＬ(0795)８０－１５００
ＦＡＸ(0795)８０－１５０１

● エイブルNW丹波店 ●
〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
ＴＥＬ(0795)８２－１５５０
ＦＡＸ(0795)８２－６７００

● 篠山店 ●
〒669-2205
兵庫県丹波篠山市網掛395番地1
ＴＥＬ(079)５９０－１０５０
ＦＡＸ(079)５９０－１００６

― 食はいのち ―

牛にも人にも安心を



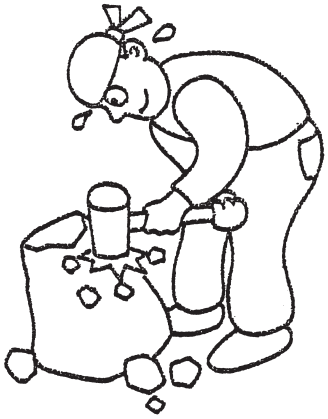
信用をモットーに この道50年

冨 田 畜 産

代表　冨 田 信 孝

〒669-3603　兵庫県丹波市氷上町西中 44-1
TEL(0795)82-1304
FAX(0795)82-1295

あなたの町の
「石屋さん」…
そんな石屋を
めざしています!!



石の事なら何でもお気軽にご相談ください。

墓石・霊園・建築石材・造園石材

㈱ 丹波総合石材

代表取締役　堀　公二

0120-1480-54（いしやは ここよ）

工場・事務所 TEL0795−72−3032
FAX0795−72−4343

★弊社ホームページは 丹波総合石材 検索 で！

丹波

喜作

kisaku

ご予算に応じます。

丹波市柏原町柏原77-1(柏原駅前)

電話 0795-72-1044

http://www.tanba-kisaku.jp

氷上町石生水分れ
TEL(〇七九五)八二—六〇一〇
FAX(〇七九五)八二—六六三〇

たんば黎明館

ル・クロ丹波邸

（お箸で食べるフランス料理）

ル・クロ丹波邸　コースメニュー

●ランチメニュー

・プティコース	1,980円
（土日、祝日　アミューズ付）	2,480円
・ル・クロコース	3,000円
・タンバコース	3,700円
・シェフスペシャル	5,300円

アラカルト（単品）430円～

●ディナーメニュー

・ル・クロコース	5,500円
・ブイヤベースコース	4,500円
・シェフスペシャル	7,200円

ドリンク590円～

※アミューズ（お付きだし）代として600円別途頂きます。

各種宴会ご案内

同窓会・歓送迎会・各種お祝い

4名～60名様〈1階個室、2階宴会場完備〉

送迎付きプランやお客様のご予算に応じてご相談承ります

基本プラン（基本2時間）

★コース・テーブルビュッフェ・ビュッフェで提供出来ます。

Aプラン…お一人様 **6,000円**
前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Bプラン…お一人様 **7,800円**
アミューズ、冷前菜、温前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Cプラン…お一人様 **10,000円**
旬の高級食材を使ったシェフお勧め特別フルコース

＊全てのプランにフリードリンク（ビール、ノンアルコールビール、ワイン（赤・白）・ソフトドリンク）が含まれます。

●お祝い事など気軽にお問い合わせ下さい。スタッフ一同でお祝いさせて頂きます。

Le Clos

ル・クロ丹波邸

〒669-3309
丹波市柏原町柏原688-3

●ランチ
11：30～15：00（L.O.14：00）

●ディナー
17：30～22：30（L.O.21：30）

ル・クロ丹波邸では結婚式も出来ます

TEL/FAX0795-73-0096

休 水曜日〔祝日の場合は営業〕

2F　タンバール（ダイニングカフェ）＼平日限定ランチバイキング開催中／

■ランチバイキング 1,000円 お料理12種、デザート、コーヒー、紅茶

※価格はすべて税込み

JXTGグループ

EMG

有田産業株式会社

代表取締役　有　田　秀　雄

〒553-0002　大阪市福島区鷺洲3丁目1-38
TEL（06）6451-1649（代表）
FAX（06）6451-0580

有限会社　エス・ディー
みなさまの
信頼感と顔の見える安心感
火災保険
自動車保険
賠償責任
けがの保険　など
生命保険
終身保険
定期保険
個人年金保険
医療保険
がん保険
損害保険・生命保険は
エス・ディーにご用命ください
当社は関西丹波市郷友会の
青少年健全育成に協力しています。
各種保険の内容や
事故対応について
何なりとご相談下さい！
東京海上日動火災保険株式会社　損害保険ジャパン日本興亜株式会社　代理店
有限会社 エス・ディー
担当：嶋田
〒550-0013　大阪市西区新町2丁目15番地27号　TEL　06－6539－3229

サンキンB&G株式会社

SANKIN B&G

代表取締役社長
玉置克臣

取締役会長
田晴行

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号
TEL (06) 6539-3281　FAX (06) 6539-1231

建設業者登録	国土交通大臣	第21287号
一級建築士事務所登録	大阪府知事	第5916号
宅地建物取引業者登録	大阪府知事	第41184号

建設事業部（ビルドB）農芸事業部（グリーンハウスG）

・建築工事の設計及び施工請負　・不動産の売買及び仲介
・農業用施設の設計及び施工請負
・太陽光発電システムの設計及び施工請負

本　社・関東支店・東北出張所・沖縄出張所

丹波新聞

変わる時代
変わらない思い

中学総体代替大会で熱戦

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になった中学総合体育大会。丹波地域でもその代替大会が行われ、中学生たちが熱戦を繰り広げた。例年のように全国へとつながる大会ではなかったが、3年生たちはこれまでの練習の成果を確かめるべく、懸命にプレーし、青春の汗を流した。

株式会社 丹波新聞社
〒669-3309 丹波市柏原町柏原201
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞 検索

週2回（日・木）発行　1ヶ月1,255円（郵送料205円）

地域と共に
ふるさと創生

丹波の心を伝える——
丹波伝心
TAMBA YANAGAWA-brand

丹波素材を使った加工品と和洋菓子

『**丹波伝心**』、それは『温故知新』‥‥古き丹波の食、食生活、食文化等をも顧みながら新しき時代の中に「丹波」を息づかせたい、そんな願いを込めています。

▲夢の里やながわ 本店

株式会社 やながわ 本社・茶工場
〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野209-1
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

株式会社 やながわ 特産加工場
〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野889-1
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

夢の里 やながわ 本店
〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野920
TEL 0795-74-0123 FAX 0795-74-2070

夢の里 やながわ 福知山店
〒620-0045
京都府福知山市駅前町343 和田ビル1階
TEL 0773-22-2840 FAX 0773-22-2840

風丹土波 東京春日店
〒113-0033
東京都文京区本郷1丁目35-26
ラフーレ文京本郷ビル1階
TEL 03-3868-5610

夢の里やながわ　検索

創業明治25年（1892年）
岡林寫眞館

本　　店　　丹波市柏原町柏原JR柏原駅前
TEL 0795-72-0033　FAX 0795-72-1148

・・・・・・一度ホームページをご覧下さい・・・・・・

www.okabayashi.co.jp/　岡林写真館　検索

株式会社土田商事

代表取締役　土田博幸

〒669-3311 兵庫県丹波市柏原町母坪409-1

https://tsp-group.jp

■営業部
ＯＡ機器・ＩＴシステム・オフィス家具・事務用品
ＴＥＬ　0795-72-1117

■店　舗
こども用文具・おしゃれ文具・雑貨・筆記具・印鑑・ゴム印
ＴＥＬ　0795-72-1223

心豊かな暮らしにご奉仕いたします

仏壇　仏具　位牌　宗教行事用具

創業大正8年

大仏堂

国道175号線と176号線の交差点すぐ

丹波市氷上町横田（コープこうべ柏原店様前）

お電話代無料　ふくよぶ　みんな

0120 0120-2946-37へお気軽にどうぞ。

FAX 0795-82-5427

医療法人社団

赤松医院

内科・循環器科・消化器科（胃腸科）・小児科
リハビリテーション科・漢方取扱い

理事長　赤松暉久
院　長　赤松義樹

日本循環器学会循環器専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定・認定産業医
日本救急医学会 ICLS 認定
インストラクター・コースディレクター
厚生労働省認定認知症サポート医

	月	火	水	木	金	土	日
予約検査 8:00～8:40 午前診療 8:40～13:00	○	○	○	○	○	○	―
往診・検診・検査 14:00～17:00	○	○	○	―	○	―	―
午後診療 17:00～19:00	○	○	○	―	○	―	―

TEL（0795）74-0080
丹波市春日町黒井478-4　http://akamatsu-cl.jp

介護付有料老人ホーム
さわやか明石二見館
令和３年５月１日開所予定

設計・監理
清水一級建築設計事務所
一級建築士　清　水　昭　景

〒669-3131　兵庫県丹波市山南町谷川714-2
携　　帯：090-3429-8097
TEL・FAX：0795-77-0369
E-mail　shimizusekkei0369@athena.ocn.ne.jp

本格会席・創作料理の店

丹南茶寮

春は山菜、夏は川魚、
秋は栗・松茸、冬は山の芋・・・
丹波の四季をお楽しみ下さい

和食膳所

tannansaryou.com

ミニ同窓会・ご商談にお気軽にどうぞ

和食膳所 丹南茶寮

〒669-2214 兵庫県丹波篠山市味間新92-4

☎(079)590-1020

【駐 車 場】
有り（無料）-7台まで
【営業時間】定休日翌日は17時より
お昼の御食事
11:30～13:30
夕晩の御食事
17:00～22:00
【定 休 日】水曜
※第４木曜日（変更になる場合有）

代 表 鷲尾英紀

丹波布と親しみ　工芸と暮らす

KABURA

工 芸 の 店 か ぶ ら

丹波布　かぶら　検索

住　所 ■ 〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原46
ＴＥＬ ■ 0795-71-1683
営業日 ■ 金曜、土曜、日曜、月曜
時　間 ■ 10:00～15:30

Facebook／Instagram　KABURA　　kabura.tambanuno@gmail.com

たんばコミュニティエフエム

市民のための！市民による・・・・・
放送局です！

FM80.5MHz

丹波市内で毎日、朝6時から夜10時まで
放送中です。

FM80.5MHz
805たんば

特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク
〒669-3461 丹波市氷上町市辺683
Tel.0795-82-1881 Fax.0795-78-9832 Mail:mail@tanba.info

●インターネットラジオ
（サイマル放送）

または

●スマートフォン

でも聴けます。

皆様のご支援やご参加を
お願いいたします。

詳しくはホームページ
http://805.tanba.info
をご覧ください。

会誌「山ざる」51号・年１回発行

柏原町・谷書店にてお求めいただけます。
1冊 ¥500円

関東氷上郷友会

心と心のおつきあい

ふるさと丹波と関東地域の丹波出身者の心をつなぐ
会誌「やまざる」にご投稿お待ちしています
お問い合わせは事務局迄
最近関東以北の地域に越された方、ご連絡下さい。

事 務 局
〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 4-4-30
TEL 048-460-1601 FAX 048-460-2397
ホームページ http://pcc-taiyo.co.jp/hikami

関西丹波市郷友会に入会しませんか

関西丹波市郷友会は、旧氷上郡出身者により明治 32 年（1899）年に創設され、同郷の人々の親睦と郷土の青少年の育成のために、長年に渡って様々な活動を行ってきました。

しかしながら、時代の変遷とともに、会員の高齢化や会員数の減少など本会を取り巻く状況は大きく変わってきています。この時期に当たり役員会では、伝統に甘んじて惰性的に活動を進めるのでなく、丹波市の将来に真に貢献できる方向で活性化を図る必要があるとの認識のもと、平成 28 年度より新たな試みを始めました。

今回 5 号目となった会報誌「たんば」の発刊、年次総会の地元での開催、さらには創設 120 周年記念「丹波すくすく大賞」の募集・表彰（本号に受賞者を紹介）など様々な方策を企画しました。出身者だけでなく、地元在住の方々にも大いに関わっていただいて情報交換したり議論し合うことにより、人口減少などの困難に直面する丹波市の課題解決に向けて、いささかでもお役に立てる会に発展できればと、願っております。

どうか皆様にも加わっていただき、お力添えをくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。丹波市出身でなくても、何らかのご縁があって丹波に関心を持たれる方ならどなたでも歓迎いたします。

年会費 3,000 円を納入いただきましたら、年次総会のご案内、会報「たんば」の送付ほか、本会が催すイベントのお知らせ等々をいたします。

次ページの入会申込書にお名前、住所、電話番号、年齢などを明記してお申し込みください。

寄稿を歓迎します　本誌を郵送費ご負担で送ります。

本誌は年 1 回発行予定です。次号への寄稿を歓迎いたします。
ご希望の方は会報委員長　山口直樹宛て（0795－82－1651）にご連絡ください。

また本誌（無料）をご希望の方は、 下記の事務局（丹波市以外に在住の方）または丹波新聞社（丹波市在住の方）まで郵送料 300 円（切手可）を添えてお申し込み下さい。

たんば 第 5 号

2020 年 11 月 1 日発行

発　行　関西丹波市郷友会（会長　有田秀雄）
〒550-0013　大阪市西区新町 2-15-27
サンキン株式会社 内
Tel.06(6539)3201
Fax.06(6539)3231

印　刷　株式会社 丹波新聞社　Tel.0795(72)0530

年　　月　　日

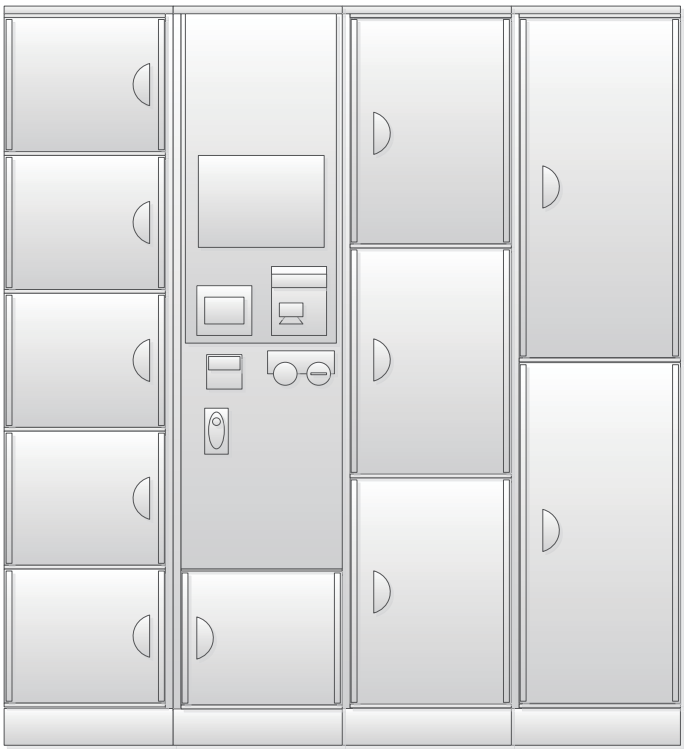
関西丹波市郷友会入会申込書

ふりがな	
氏　　名	
〒　番　号	
現　住　所	
電話番号	
年　　齢	歳
出　身　地 又は縁故地	丹波市　　町
紹介者氏名 （会員氏名）	
紹介者がない場合は、以下にお書き下さい	
丹波市との 関わり	
勤　務　先	会社名
	住所・電話

上記の様式をコピーして、FAX または郵送して下さい。
届き次第、入金振込票をお送りします。会費は年3,000円。入会費は不要です。

関西丹波市郷友会　事務局
〒550-0013　大阪市西区新町2−15−27　サンキン株式会社内
電話：06−6539−3201　FAX：06−6539−3231

お客様の手荷物保管
スペースを創造して半世紀。



since

1966→Next

コインロッカーの販売・オペレート

丸十ロッカー株式会社

代表取締役　田 恭子

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台 4-1-26

TEL:072-772-2654 FAX:072-770-5553

URL:http://www.marujulocker.co.jp

契約先 47 社

設置ロケーション数 555 カ所

設置台数 4,600 台

設置口数 16,200 口

2019 年現在

サンキン株式会社

真に役立つ存在であり続けたい

代表取締役社長　田　貴晴

代表取締役副社長　水口純二

取締役会長　田　晴重

【当社製品】
- 冷間引抜鋼管
- 家庭用物置
- 物流パレット
- 立体駐車装置
- 車止め